

<評価凡例>

- A 計画に対し十分に取り組み、成果も得られている。 A- 計画に対し十分に取り組み、一定の成果が得られている。
 B 計画に対し十分に取り組んでいる。 C 計画に対する取り組みは十分ではない。

第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

年度計画	No.	行動計画	業務の実績	30年度9月末実績 自己評価		医療政策課確認・評価																																										
				説明																																												
I 県民に対して提供する医療サービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置																																																
I 1 (1)		各県立病院は、患者が選択し納められる最良の医療を提供するため、次の事項等に取り組む。 ① 患者への十分な説明と同意の徹底 ② 医療技術の向上 ③ チーム医療の推進 ④ 医療安全対策の充実 ⑤ 患者満足の向上	<p>セカンドオピニオン数 (単位: 件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>98</td> <td>107</td> <td>112</td> <td>114</td> <td>115</td> <td>46</td> </tr> <tr> <td>ところ</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>44</td> <td>45</td> <td>63</td> <td>39</td> <td>58</td> <td>22</td> </tr> </tbody> </table> <p>セカンドオピニオン用情報提供料算定件数 (総合) (単位: 件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>診療情報提供料(II)</td> <td>125</td> <td>104</td> <td>125</td> <td>121</td> <td>145</td> <td>67</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	総合	98	107	112	114	115	46	ところ	-	-	-	-	-	-	こども	44	45	63	39	58	22	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	診療情報提供料(II)	125	104	125	121	145	67	A-	患者の適切な医療が受けられる権利を尊重し、セカンドオピニオンを実施した。	・セカンドオピニオン件数(紹介された件数)、情報提供料算定件数(他医療機関へ紹介した件数)ともに前年度の4割以上を確保しており、継続して患者や他の医療機関の信頼を得ていることが伺える。
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末																																										
総合	98	107	112	114	115	46																																										
ところ	-	-	-	-	-	-																																										
こども	44	45	63	39	58	22																																										
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末																																										
診療情報提供料(II)	125	104	125	121	145	67																																										
		①②③・運用実績などのエビデンスに基づくクリニカルパスの新規作成や見直しを行い、クリニカルパスの適用率を高める。	<p>総合</p> <p>・H30.9月末実績 クリニカルパス管理委員会を5回開催し、以下の新規作成、修正の審議・承認を行っている。</p> <p>・第2期中期目標期間(H26~30) クリニカルパス管理委員会を毎月1回開催し、以下の新規作成、修正の審議・承認を行った。 H28年度には、電子カルテシステムの変更に伴う、クリニカルパスの修正を実施した。</p> <p>クリニカルパスの新規作成、適用率等実績</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>新規作成(件)</td> <td>23</td> <td>34</td> <td>18</td> <td>16</td> <td>15</td> <td>24</td> </tr> <tr> <td>修正(件)</td> <td>71</td> <td>68</td> <td>51</td> <td>224</td> <td>130</td> <td>133</td> </tr> <tr> <td>適用率(%)</td> <td>68.2</td> <td>73.8</td> <td>75.8</td> <td>66.3</td> <td>62.6</td> <td>64.6</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	新規作成(件)	23	34	18	16	15	24	修正(件)	71	68	51	224	130	133	適用率(%)	68.2	73.8	75.8	66.3	62.6	64.6	A-	クリニカルパスについては、常に内容を見直す体制を維持しており、患者に対してより良い医療を提供している。 今後も引き続き新規クリニカルパス作成、既存クリニカルパスの見直しを行い、より良い医療を提供していく。	・クリニカルパス適用率は上昇傾向であり、既存クリニカルパスの内容見直し、適用の厳格化、統廃合等、患者目線に立った改善に継続して取り組んでいることが伺える。 ・新規作成数も増加傾向であり、平成30年度においては胸腔鏡検査などについて新たにクリニカルパスを作成した。 ・症例数が多いものや、標準的治療が確立された症例のパス作成や見直しを着実に実施している。														
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末																																										
新規作成(件)	23	34	18	16	15	24																																										
修正(件)	71	68	51	224	130	133																																										
適用率(%)	68.2	73.8	75.8	66.3	62.6	64.6																																										
		④⑤・看護提供方式見直し(固定チームナーシングの導入)により、安心を高める看護の提供に努める。	<p>総合</p> <p>「患者様の声」の推移 (単位: 件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ご意見</td> <td>117</td> <td>82</td> <td>72</td> <td>57</td> <td>92</td> <td>33</td> </tr> <tr> <td>感謝</td> <td>60</td> <td>49</td> <td>32</td> <td>37</td> <td>28</td> <td>16</td> </tr> </tbody> </table> <p>患者満足度調査 (単位: %)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>入院</td> <td>96.4</td> <td>95.8</td> <td>95.6</td> <td>97.8</td> <td>98.2</td> <td>実績累計</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	ご意見	117	82	72	57	92	33	感謝	60	49	32	37	28	16	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	入院	96.4	95.8	95.6	97.8	98.2	実績累計	A	看護師に対するご意見が前年度から約3割減少する見込み。感謝については前年度を上回る見込みとなっており、質の高い看護が提供できている。	・固定チームナーシング(固定したチームメンバーで受け持ち患者を分担して看護を行うことを原則として、入院から退院まで看護)導入以降、患者満足度は高い水準を維持している。 ・看護の継続性・受持ち看護師としての責任を重視した看護を提供しており、今年度は感謝の内容の「患者様の声」の割合が増加している。							
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末																																										
ご意見	117	82	72	57	92	33																																										
感謝	60	49	32	37	28	16																																										
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末																																										
入院	96.4	95.8	95.6	97.8	98.2	実績累計																																										

第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

年度計画	No.	行動計画	業務の実績	30年度9月末実績 自己評価																													
				説明	医療政策課確認・評価																												
	4	②③⑤・先端医学棟の設備・機器を最大限に活用する。	<p>総合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・H30.9月末実績 リニアックを本館地階から先端医学棟1階に移設した。 ・第2期中期目標期間(H26～30) 建設工事は概ね順調に進み、先端医学棟は当初計画どおり、H29年6月末に建設工事が完了した。 H29年7月以降、機器・什器等の購入手続きや既存棟からの移転作業を進めた。8月中旬以降、一部の部門で運用を開始し、9月から本格運用を開始した。 <table border="1"> <caption>手術件数 (単位:件)</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>手術件数</td> <td>7,409</td> <td>7,860</td> <td>8,375</td> <td>8,536</td> <td>9,115</td> <td>4,549</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <caption>HCU延患者数 (単位:人)</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>人数</td> <td>2,847</td> <td>2,927</td> <td>3,308</td> <td>3,872</td> <td>5,875</td> <td>3,445</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	手術件数	7,409	7,860	8,375	8,536	9,115	4,549	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	人数	2,847	2,927	3,308	3,872	5,875	3,445	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リニアックの移設により、治療体制の充実を図ることができた。 ・手術件数も順調に増加し、先端医学棟を円滑に運用できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・総合病院の先端医学棟では、H29に購入した1台と本館から移設した1台が稼働しており、定位放射線治療、強度変調放射線治療といった高精度で難易度の高い治療に対応している。より機能的な放射線治療室における治療体制が拡充された。 ・現行、先端医学棟で2台、本館で1台のリニアックが稼働している。H30にも1台購入し、H31から稼働する予定である。 ・手術件数は昨年同時期と比べ488件増加した(H29.4-9 4,061件)。また、HCU病床が12床から20床に増加したため延患者数が大幅に増加し、患者受入体制が強化された。
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末																											
手術件数	7,409	7,860	8,375	8,536	9,115	4,549																											
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末																											
人数	2,847	2,927	3,308	3,872	5,875	3,445																											
	5	⑤・立体駐車場建設の工事進捗管理を徹底する。 ・完成後は、立体駐車場の円滑な運用を行い、患者の利便性の向上を図る。	<p>総合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・H30.9月末実績 工事が9月初旬に完了し、9月7日から供用を開始した。 駐車台数:501台→745台(+244台) 渋滞発生状況:発生なし ・第2期中期目標期間(H26～30) H28年度 市、警察等の関係機関と協議し、建築許可に向けた各種手続きを進め、H28年12月28日付けで静岡市より建築許可を受けた。 設計完了後に速やかに工事発注手続きを進め、3月上旬に施工業者を決定した。 H29年度 ・着工前に近隣住民向け工事説明会を開催(4/6)した。 ・周辺整備工事(北側退場路及び車椅子利用者用駐車場の整備)を4月から先行して実施した。 	<p>A</p> <p>9月初旬に工事が完了し、9月7日から供用開始し、供用開始以降、病院周辺の道路で渋滞は発生しておらず、来院者の利便性向上に繋がった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・立体駐車場建設が滞りなく完了し、駐車台数が244台増加となったことにより、来院者の利便性向上が図られるとともに、周辺道路の渋滞解消による近隣環境との調和が図られている。 																												
	6	①②③・入院における患者の負担軽減及び計画的でわかりやすい医療を提供するため、精神科に適したクリニカルバスを作成し導入する。	<p>こころ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・H30.9月末実績 H30年9月末現在稼働クリニカルバス 4件 (m-ECT、転倒転落、鑑定入院、クロザピン) ・第2期中期目標期間(H26～30) H29実績:H30.3末現在稼働クリニカルバス 4件 (m-ECT、転倒転落、鑑定入院、クロザピン) <table border="1"> <caption>稼働クリニカルバス件数 (単位:件)</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>稼働クリニカルバス</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	稼働クリニカルバス	4	4	4	4	4	4	<p>A</p> <p>クリニカルバスについては、導入が可能なものについて積極的に導入し、患者の負担軽減に努め、わかりやすい医療を提供した。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・患者個々の症状や治療方針が異なるため、クリニカルバスの適用が比較的小さい精神科ではあるが、導入が可能なものについては、積極的に導入し、患者の負担軽減を図るとともに計画的でわかりやすく納得できる医療の提供に努めている。 														
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末																											
稼働クリニカルバス	4	4	4	4	4	4																											
	7	①②③・入院における患者の負担軽減及び計画的でわかりやすい医療を提供するため、小児科に適したクリニカルバスを作成し導入する。	<p>こども</p> <table border="1"> <caption>稼働クリニカルバス件数 (単位:件)</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>稼働クリニカルバス</td> <td>40</td> <td>44</td> <td>46</td> <td>48</td> <td>48</td> <td>52</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	稼働クリニカルバス	40	44	46	48	48	52	<p>A</p> <p>クリニカルバスについては、導入が可能なものについて、積極的に導入し、新規クリニカルバス作成、既存クリニカルバスの見直しを行い、患者の負担軽減に努め、より良い医療を提供している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・クリニカルバスの積極的な導入により、稼働件数は昨年度から4件増えている。 ・小児科におけるクリニカルバスは、同じ症例でも体重を細かく分類し、投薬量を設定するなどの配慮が必要であるが、適用患者には積極的にクリニカルバスを適用し、患者との診療情報の共有に努めている。 														
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末																											
稼働クリニカルバス	40	44	46	48	48	52																											

第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

年度計画	No.	行動計画	業務の実績	30年度9月末実績 自己評価	
				説明	医療政策課確認・評価
I 1 (1)	8	<p>各県立病院は、患者が選択し納得できる最良の医療を提供するため、次の事項等に取り組む。</p> <p>① 患者への十分な説明と同意の徹底</p> <p>② 医療技術の向上</p> <p>③ チーム医療の推進</p> <p>④ 医療安全対策の充実</p> <p>⑤ 患者満足の向上</p>	<p>・H30.9月末実績 チーム医療に対する診療報酬合計 58,701千円 H30.6 抗菌薬適正使用支援チームを設置</p> <p>・第2期中期目標期間（H26～30） チーム医療は、病院全体での取組が不可欠であり、診療科の枠を越え医療に従事する多種多様な医療スタッフが情報を共有し、業務連携することで患者の状況に的確に対応した質の高い医療の提供を行った。 また、チーム医療に対する診療報酬上の評価が加算されている。</p>	<p>総合においては、H30.6から新たに抗菌薬適正使用支援チームを設置し、質の高い医療を行う体制が強化された。診療科の枠を越え多職種が参加するカンファレンスは、最良の医療提供のため確実に実施されている。</p> <p>H30年6月より抗菌薬適正使用支援チームの施設基準を取得し、チーム医療に対する診療報酬が更に加算され、収益面でも貢献している。</p>	<p>・多職種による病院横断的なチーム医療の活動を通じた質の高い医療の提供に向けて、平成30年度は新たに総合病院において抗菌薬適正使用支援チームを設置するなど、積極的に取り組んでいる。</p> <p>・診療報酬上の評価においても、総合病院における上半期の58,701千円の実績は、前年度実績87,349千円の7割を超えており、収益面でも貢献している。</p>
<p>③・チーム医療を推進し、多職種による病院横断的な活動を通して、質の高い医療を提供する。</p>					

チーム医療の推進（カンファレンスの開催） H30.9月末時点

区分	チーム名	開催頻度	主要メンバー
総合	栄養サポートチーム	2回/週	医師・看護・栄養・薬剤・臨床検査
	感染制御チーム	院内520回 院外3回/年	医師・看護・薬剤・臨床検査
	抗菌薬適正使用支援チーム	毎日	医師・看護・薬剤・臨床検査
	褥瘡対策チーム	1回/月	医師・看護・栄養
	呼吸ケアチーム	1回/週	医師・看護・臨床工学技師・理学療法士
	認知症ケアチーム	1回/週	医師・看護・薬剤・臨床心理士
こころ	栄養サポートチーム	週1回	医師・看護・栄養等
	感染防止対策チーム	院内520回 院外3回/年	医師・看護・薬剤・臨床検査
	褥瘡対策チーム	1回/月	医師・看護
こども	A&T（包括型地域生活支援センター）	随時	医師・看護・精神保健福祉士等
	栄養サポートチーム	週1回	医師・看護・栄養等
	感染防止対策チーム	院内520回 院外3回/年	医師・看護・薬剤・臨床検査
	褥瘡対策部会	1回/月	医師・看護
	リハビリテーション	随室（週1回程度）	医師・看護・理学療法等

チーム医療に対する診療報酬上の評価加算の状況（単位：千円）

病院	項目	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末
総合	栄養サポートチーム	1,200	1,140	1,120	1,290	1,345	610
	感染制御チーム	53,510	69,200	72,767	74,929	75,792	46,785
	抗菌薬適正使用支援チーム	-	-	-	-	-	6,421
	褥瘡対策チーム	1,410	2,730	2,520	6,320	3,905	2,180
	呼吸ケアチーム	-	-	-	144	59	1
	認知症ケアチーム	-	-	-	568	6,248	2,704
	緩和ケアチーム	-	-	-	-	-	-
	計	56,120	73,070	76,407	83,251	87,349	58,701
こころ	感染防止対策チーム	-	-	303	434	380	180
	計	-	-	303	434	380	180
こども	栄養サポートチーム	-	-	-	-	-	2
	感染防止対策チーム	17,792	17,240	17,484	19,870	18,880	13,640
	褥瘡対策チーム	-	-	-	-	2,725	1,115
	リハビリテーション	66,000	60,646	55,640	58,883	56,527	25,623
	計	83,792	77,886	73,124	78,753	78,132	40,378

第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

年度計画	No.	行動計画	業務の実績	30年度9月末実績 自己評価																																																																	
				説明	医療政策課確認・評価																																																																
	9	④・医療安全室及び感染対策委員会等を中心に、マニュアルの見直しや研修会を通じて院内感染防止対策・医療安全対策を実施する。	<p>・H30.9月末実績 3病院で、5回の院内感染対策研修、8回の医療安全対策研修を行い、安全・安心な医療の提供に対する職員への意識づけと、体制整備を行っている。</p> <p>・第2期中期目標期間（H26～30） ・医療安全全国共同行動の参加登録病院としてレベルの向上を目指す。</p> <p>医療安全対策、院内感染対策研修等</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="6">集団感染数(件)</th> <th colspan="3">院内感染対策研修 医療安全対策研修</th> </tr> <tr> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年9月末</th> <th>研修数(回)</th> <th>参加者数(人)</th> <th>研修数(回)</th> <th>参加者数(人)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>4</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>2</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>373</td> <td>5</td> <td>1,618</td> </tr> <tr> <td>こころ</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>2</td> <td>299</td> <td>1</td> <td>109</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>3</td> <td>0</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>495</td> <td>2</td> <td>827</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>4</td> <td>1</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>0</td> <td>5</td> <td>1,167</td> <td>8</td> <td>2,554</td> </tr> </tbody> </table> <p>※院内感染対策研修・医療安全対策研修ともに法定回数2回</p>	区分	集団感染数(件)						院内感染対策研修 医療安全対策研修			25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	研修数(回)	参加者数(人)	研修数(回)	参加者数(人)	総合	4	1	0	2	0	0	1	373	5	1,618	こころ	0	0	0	0	0	0	2	299	1	109	こども	0	0	3	0	3	2	2	495	2	827	計	4	1	3	2	3	0	5	1,167	8	2,554	<p>A-</p> <p>各病院において感染対策委員会や医療安全委員会を行う等、継続的な対策研修の実施体制が確立している。</p>	<p>・院内感染対策研修や医療安全対策研修により、安心・安全な医療の提供に取り組んでいる。</p> <p>・H30こども病院での集団感染についての聞き取り結果 【MRSA院内感染】新生児病棟において5月に新規保菌者が増加した。保菌者に対する治療をするともに手衛生の徹底などの対策により感染の拡大防止に努めている。 【インフルエンザ】短期で沈静化。</p>
区分	集団感染数(件)						院内感染対策研修 医療安全対策研修																																																														
	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	研修数(回)	参加者数(人)	研修数(回)	参加者数(人)																																																											
総合	4	1	0	2	0	0	1	373	5	1,618																																																											
こころ	0	0	0	0	0	0	2	299	1	109																																																											
こども	0	0	3	0	3	2	2	495	2	827																																																											
計	4	1	3	2	3	0	5	1,167	8	2,554																																																											
	10	⑤・患者の視点に立った質の高い医療の提供を目指し、患者満足度調査を行い、患者満足度の改善につなげる。	<p>H25から調査実施時期を統一し、実施している。</p> <p>患者満足度調査 (単位:%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2"></th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th rowspan="2">実施集計中</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>入院</td> <td>96.4</td> <td>95.8</td> <td>95.6</td> <td>97.8</td> <td>98.2</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>外来</td> <td>91.9</td> <td>88.2</td> <td>89.6</td> <td>93.2</td> <td>94.0</td> <td></td> </tr> <tr> <td>こころ</td> <td>入院</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>外来</td> <td>88.8</td> <td>88.2</td> <td>89.8</td> <td>88.5</td> <td>94.4</td> <td></td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>入院</td> <td>92.5</td> <td>91.3</td> <td>91.9</td> <td>98.4</td> <td>97.5</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>外来</td> <td>89.4</td> <td>91.2</td> <td>90.9</td> <td>98.1</td> <td>99.3</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	区分		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	実施集計中	総合	入院	96.4	95.8	95.6	97.8	98.2			外来	91.9	88.2	89.6	93.2	94.0		こころ	入院	-	-	-	-	-			外来	88.8	88.2	89.8	88.5	94.4		こども	入院	92.5	91.3	91.9	98.4	97.5			外来	89.4	91.2	90.9	98.1	99.3		<p>A</p> <p>10～11月に調査を実施する予定。 例年、3病院共に全体的に高い満足度を保っている。</p>	<p>※平成30年度の調査の集計結果は2月。(評価不可)</p> <p>(こころ) ・今年度からは外来に加えてデイケアでのアンケートを実施し幅広く患者からの意見の収集に取組んだ。 (こども) ・患者家族の仮泊室シャワールーム改修 ・待ち時間対策として、外来にWiFi設置</p>							
区分		25年度	26年度			27年度	28年度	29年度	30年度	実施集計中																																																											
		総合	入院	96.4	95.8	95.6	97.8	98.2																																																													
	外来	91.9	88.2	89.6	93.2	94.0																																																															
こころ	入院	-	-	-	-	-																																																															
	外来	88.8	88.2	89.8	88.5	94.4																																																															
こども	入院	92.5	91.3	91.9	98.4	97.5																																																															
	外来	89.4	91.2	90.9	98.1	99.3																																																															
I 1 (2)	11	①・かかりつけ医との連携により、機能分担体制を推進する。	<p>紹介率・逆紹介率実績 (単位:%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30目標</th> <th>30年9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>紹介率</td> <td>82.1</td> <td>85.0</td> <td>89.1</td> <td>89.0</td> <td>90.6</td> <td>80.0</td> <td>88.4</td> </tr> <tr> <td>逆紹介率</td> <td>106.7</td> <td>127.5</td> <td>134.3</td> <td>161.5</td> <td>175.5</td> <td>90.0</td> <td>167.2</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30目標	30年9月末	紹介率	82.1	85.0	89.1	89.0	90.6	80.0	88.4	逆紹介率	106.7	127.5	134.3	161.5	175.5	90.0	167.2	<p>総合</p>	<p>A</p> <p>紹介率、逆紹介率ともに目標を上回っている。かかりつけ医との連携、機能分擔は着実に推進している。</p>	<p>・紹介率、逆紹介率ともに地域医療支援病院としての基準及び病院の目標を大きく上回っており、かかりつけ医との連携、機能分擔を推進している。</p> <p>※H28実績では県内に22病院ある地域医療支援病院の中で最も逆紹介率が高く、紹介率はこども病院に次いで2番目であり、地域医療機関から信頼され、連携が進んでいることがうかがえる。</p>																																							
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30目標	30年9月末																																																														
紹介率	82.1	85.0	89.1	89.0	90.6	80.0	88.4																																																														
逆紹介率	106.7	127.5	134.3	161.5	175.5	90.0	167.2																																																														
	12	①・地域の医療機関との連携を強化し、医療支援体制や救急・急性期、重症患者の受入など連携・機能分担体制を推進する。	<p>紹介率・逆紹介率実績 (単位:%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30目標</th> <th>30年9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>紹介率</td> <td>49.6</td> <td>57.9</td> <td>56.2</td> <td>55.0</td> <td>56.3</td> <td>56.0</td> <td>50.2</td> </tr> <tr> <td>逆紹介率</td> <td>29.8</td> <td>27.4</td> <td>30.8</td> <td>29.6</td> <td>28.6</td> <td>36.0</td> <td>31.4</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30目標	30年9月末	紹介率	49.6	57.9	56.2	55.0	56.3	56.0	50.2	逆紹介率	29.8	27.4	30.8	29.6	28.6	36.0	31.4	<p>こころ</p>	<p>A-</p> <p>他の医療機関等と連携を図り、医療支援体制や救急・急性期、重症患者の受入など連携・機能分擔体制を推進している。紹介率は、目標及び前年度実績を下回っている。逆紹介率については、目標を下回ったものの、前年度実績を上回った。</p>	<p>・紹介率や逆紹介率の実績は目標値に達していないが、他の医療機関では受入れが困難な重症患者や救急・急性期の患者を積極的に受け入れており、県立病院としての役割を果たしていると言える。</p>																																							
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30目標	30年9月末																																																														
紹介率	49.6	57.9	56.2	55.0	56.3	56.0	50.2																																																														
逆紹介率	29.8	27.4	30.8	29.6	28.6	36.0	31.4																																																														
	13	①・地域の医療機関との機能分擔を推進するため、紹介予約制を維持するとともに、積極的に逆紹介を行う。	<p>紹介率・逆紹介率実績 (単位:%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30目標</th> <th>30年9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>紹介率</td> <td>94.8</td> <td>91.8</td> <td>93.0</td> <td>94.7</td> <td>94.1</td> <td>92.0</td> <td>93.2</td> </tr> <tr> <td>逆紹介率</td> <td>49.9</td> <td>53.2</td> <td>52.0</td> <td>52.5</td> <td>46.5</td> <td>32.0</td> <td>41.5</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30目標	30年9月末	紹介率	94.8	91.8	93.0	94.7	94.1	92.0	93.2	逆紹介率	49.9	53.2	52.0	52.5	46.5	32.0	41.5	<p>こども</p>	<p>A</p> <p>他の医療機関と連携を図ることにより、紹介・逆紹介共に目標を上回っており、紹介予約制を維持するとともに積極的な逆紹介を行った。</p>	<p>・紹介率、逆紹介率ともに地域医療支援病院としての基準及び病院の目標を上回っており、かかりつけ医との連携、機能分擔を推進している。 ・初診患者数は増加傾向にあり、こども病院でしか診療できない患者が増加していると考えられる。</p> <p>※H28実績では県内に22病院ある地域医療支援病院の中で最も紹介率が高く、地域医療機関から信頼され、連携が進んでいることがうかがえる。 ※こども病院は、小児医療の3次病院であり、重篤な状態の患者が多く、逆紹介率が向上しない現状がある。</p>																																							
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30目標	30年9月末																																																														
紹介率	94.8	91.8	93.0	94.7	94.1	92.0	93.2																																																														
逆紹介率	49.9	53.2	52.0	52.5	46.5	32.0	41.5																																																														

第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

年度計画	No.	行動計画	業務の実績	30年度9月末実績 自己評価																																																																														
				説明	医療政策課確認・評価																																																																													
	14	②・心疾患、脳卒中、がん、慢性腎臓病、大腿骨頸部骨折等の地域連携クリニカルパスを活用し、かかりつけ医やリハビリテーション病院との機能分担を推進する。	<p>地域連携クリニカルパス (単位: 件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>脳卒中</td> <td>38</td> <td>42</td> <td>68</td> <td>52</td> <td>42</td> <td>30</td> </tr> <tr> <td>大腿骨頸部骨折</td> <td>110</td> <td>67</td> <td>65</td> <td>103</td> <td>82</td> <td>29</td> </tr> <tr> <td>胃がん</td> <td>94</td> <td>77</td> <td>80</td> <td>86</td> <td>81</td> <td>36</td> </tr> <tr> <td>大腸がん</td> <td>135</td> <td>133</td> <td>151</td> <td>114</td> <td>109</td> <td>64</td> </tr> <tr> <td>乳がん</td> <td>102</td> <td>95</td> <td>118</td> <td>131</td> <td>191</td> <td>61</td> </tr> <tr> <td>前立腺がん</td> <td>7</td> <td>2</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>9</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>虚血性心疾患</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>96</td> <td>186</td> <td>142</td> <td>46</td> </tr> <tr> <td>慢性腎臓病</td> <td>40</td> <td>28</td> <td>54</td> <td>37</td> <td>25</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>肺がん</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>526</td> <td>444</td> <td>632</td> <td>709</td> <td>681</td> <td>293</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	脳卒中	38	42	68	52	42	30	大腿骨頸部骨折	110	67	65	103	82	29	胃がん	94	77	80	86	81	36	大腸がん	135	133	151	114	109	64	乳がん	102	95	118	131	191	61	前立腺がん	7	2	0	0	9	7	虚血性心疾患	0	0	96	186	142	46	慢性腎臓病	40	28	54	37	25	20	肺がん	0	0	0	0	0	0	計	526	444	632	709	681	293	<p>A- 関係機関との連携により地域連携クリニカルパスの適用を進め、円滑な運用に努めている。</p>	<p>・関係機関との連携により地域連携クリニカルパスの適用が進んでおり、一定の水準を維持している。</p>
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末																																																																												
脳卒中	38	42	68	52	42	30																																																																												
大腿骨頸部骨折	110	67	65	103	82	29																																																																												
胃がん	94	77	80	86	81	36																																																																												
大腸がん	135	133	151	114	109	64																																																																												
乳がん	102	95	118	131	191	61																																																																												
前立腺がん	7	2	0	0	9	7																																																																												
虚血性心疾患	0	0	96	186	142	46																																																																												
慢性腎臓病	40	28	54	37	25	20																																																																												
肺がん	0	0	0	0	0	0																																																																												
計	526	444	632	709	681	293																																																																												
	15	③④・地域医療ネットワークシステムを整備・活用する。	<p>ネットワーク実績 (単位: 件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>開示施設数</td> <td>14</td> <td>14</td> <td>15</td> <td>18</td> <td>18</td> <td>18</td> </tr> <tr> <td>開示件数(累計)</td> <td>9,848</td> <td>12,424</td> <td>15,814</td> <td>19,795</td> <td>23,818</td> <td>26,531</td> </tr> <tr> <td>参照施設数</td> <td>175</td> <td>208</td> <td>194</td> <td>141</td> <td>134</td> <td>133</td> </tr> <tr> <td>病院</td> <td>14</td> <td>17</td> <td>17</td> <td>13</td> <td>14</td> <td>14</td> </tr> <tr> <td>診療所</td> <td>99</td> <td>122</td> <td>104</td> <td>76</td> <td>78</td> <td>78</td> </tr> <tr> <td>保険薬局</td> <td>53</td> <td>57</td> <td>59</td> <td>40</td> <td>31</td> <td>30</td> </tr> <tr> <td>訪問看護ステーション</td> <td>8</td> <td>11</td> <td>12</td> <td>10</td> <td>9</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>介護福祉施設</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> </tbody> </table> <p>・H30.9月末実績 H30年度に、地域医療連携推進事業費補助金を活用し、富士市立中央病院、焼津市立総合病院、静岡済生会総合病院、市立御前崎総合病院のシステム更新を実施する予定である。</p> <p>・第2期中期期間(H26~30) ・情報の開示施設を、H27年度に1診療所、H28年度に3病院増やすことができた。 ・H27年度末の理事会において利用料規程を決定し、ネットワークシステムの運営経費の適正な負担を図った。 ・H28年度においては、地域医療連携推進事業費補助金を活用し、静岡県立こども病院、静岡県立こころの医療センター、医療法人社団アール・アンド・オーのシステム整備を行った。 ・H29年度には、地域医療連携推進事業費補助金を活用し、藤枝市立総合病院のシステム更新を実施した。</p> <p>「ふじのくにバーチャル・メガ・ホスピタル」について、情報の開示施設である各地域の中核病院、自治体病院、診療所・医師会とともに「ふじのくにバーチャル・メガ・ホスピタル協議会」を運営し、複数医療機関相互の診療情報共有のため広域ネットワーク基盤を構築して運用している。</p>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	開示施設数	14	14	15	18	18	18	開示件数(累計)	9,848	12,424	15,814	19,795	23,818	26,531	参照施設数	175	208	194	141	134	133	病院	14	17	17	13	14	14	診療所	99	122	104	76	78	78	保険薬局	53	57	59	40	31	30	訪問看護ステーション	8	11	12	10	9	9	介護福祉施設	1	1	2	2	2	2	<p>A ネットワークへの参加施設数・開示患者数・参照件数とも順調に拡大を続けている。 今後も参加施設数を増やし、地域の中核病院としての役割を果たし、地域医療機関等との連携を強化していく。</p>	<p>・開示件数はH30上半期で2,713件と前年度の7割近くに達している。 ・開示施設数・参照施設数に大きな変動がない中で利用が伸びていることから、地域医療連携において当システムが有効に活用されていることが伺える。</p>														
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末																																																																												
開示施設数	14	14	15	18	18	18																																																																												
開示件数(累計)	9,848	12,424	15,814	19,795	23,818	26,531																																																																												
参照施設数	175	208	194	141	134	133																																																																												
病院	14	17	17	13	14	14																																																																												
診療所	99	122	104	76	78	78																																																																												
保険薬局	53	57	59	40	31	30																																																																												
訪問看護ステーション	8	11	12	10	9	9																																																																												
介護福祉施設	1	1	2	2	2	2																																																																												

第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

年度計画	No.	行動計画	業務の実績	30年度9月末実績 自己評価																																										
				説明	医療政策課確認・評価																																									
I 1 (3)		各県立病院は、県が求める政策医療を念頭に、それぞれの特性を生かし、以下の医療に重点的に取り組む。	-	-	-	-																																								
I 1 (3) ア		循環器疾患・がん疾患については、小児は県立子ども病院が、成人は県立総合病院がそれぞれ県内の中核病院の機能を果たしていく。	-	-	-	-																																								
I 1 (3) イ	16	周産期医療における産科合併症及び脳卒中等産科以外の疾患による合併症や精神科患者の身体合併症などについては、各県立病院が連携して取り組む。	<p>・児童の措置入院等、子ども病院での受入れが困難な場合はこころの医療センターにて受入れている。</p> <p>周産期医療における搬送実績 (単位:件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>子ども→総合</td> <td>4</td> <td>9</td> <td>8</td> <td>3</td> <td>7</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>総合→子ども</td> <td>10</td> <td>8</td> <td>14</td> <td>11</td> <td>15</td> <td>6</td> </tr> </tbody> </table> <p>・周産期医療、精神科患者の身体合併症、認知症に対して、機構内3病院が連携し、より適切な医療の提供を行う。</p>	区 分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	子ども→総合	4	9	8	3	7	4	総合→子ども	10	8	14	11	15	6	<p>・児童の措置入院等、子ども病院での受入れが困難な場合はこころの医療センターにて受入れている。</p> <p>症例の発生状況により搬送実績に増減はあるが、3病院1法人のメリットを活かし、患者の搬送、医師の応援体制の確保等、病院間の連携・協力体制を密にしている。</p>	<p>・3病院1法人のメリットを活かし、患者の搬送、医師の応援体制の確保等、病院間の連携・協力体制が確保できている。</p> <p>(総合・こころの連携)</p> <p>・精神身体合併症については、総合からの要請を受け、必要に応じてこころから精神保健指定医を派遣している。</p> <p>(こころ・総合の連携)</p> <p>・こころから総合への派遣件数(救急救命入院料の注2に規定する加算件数) H30.9月末 20件</p> <p>(こころ・子どもの連携)</p> <p>・子どもが満床の場合、中学生で入院が必要な患者や外来フォローの高校生で一時的に入院が必要な患者をこころで受け入れ。</p> <p>・市内在住で成人移行となる患者のうち、将来入院が必要と考えられる患者をこころの外来で受け入れ。</p> <p>・今年度から子どもとこころの医師で合同症例検討会を開始(1回)。今後も継続。</p>																				
区 分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末																																								
子ども→総合	4	9	8	3	7	4																																								
総合→子ども	10	8	14	11	15	6																																								
I 1 (3) ウ	17	結核指定医療機関、エイズ拠点病院及び難病医療協力病院等として感染症医療や難病医療に着実に取り組む。	<p>結核病棟50床について運用している。エイズ拠点病院としてエイズ患者の受入体制を整えている。難病医療の法律改正にあわせて、難病指定医療機関の申請を行い、H27年5月に指定を受けた。難病指定医についても、これまでに21診療科88名の医師が申請を行い、順次指定を受けた。</p> <p>低患者数 (単位:人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>エイズ</td> <td colspan="6">非公開</td> </tr> <tr> <td>結核</td> <td>134</td> <td>14</td> <td>98</td> <td>119</td> <td>108</td> <td>55</td> </tr> </tbody> </table>	区 分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	エイズ	非公開						結核	134	14	98	119	108	55	<p>県内最大の結核病床の医療機関として、広範囲の地域から結核患者の受入れた。エイズ拠点病院として、エイズ患者の受入体制を整えている。難病指定医療機関として、難病患者の受入体制を整えている。</p>	<p>・結核病棟を維持し、エイズ患者の受入体制を整備しており、県立病院として政策医療を担う責務を果たしている。</p> <p>・指定難病が増加している中、21診療科・88名の難病指定医にて対応できている。</p>																				
区 分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末																																								
エイズ	非公開																																													
結核	134	14	98	119	108	55																																								
I 1 (3) エ	18	先進的医療である移植医療に取り組む。	<p>移植実績 (単位:件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>腎移植</td> <td>12</td> <td>13</td> <td>11</td> <td>14</td> <td>18</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>造血幹細胞移植</td> <td>10</td> <td>8</td> <td>8</td> <td>11</td> <td>8</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>強角膜片作成</td> <td>9</td> <td>6</td> <td>7</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>31</td> <td>27</td> <td>26</td> <td>28</td> <td>30</td> <td>17</td> </tr> </tbody> </table> <p>・腎臓移植、造血幹細胞移植、強角膜片作成(総合病院のみ)等への取組みを継続する。</p>	区 分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	腎移植	12	13	11	14	18	10	造血幹細胞移植	10	8	8	11	8	5	強角膜片作成	9	6	7	3	4	2	計	31	27	26	28	30	17	<p>腎臓移植:H30年度は9月末までに10例の腎移植を達成し、増加傾向にある。造血幹細胞移植:9月までに5例の造血幹細胞移植を達成し、順調に推移している。強角膜片:過去に比べ、若干減少している。</p>	<p>・腎移植、造血幹細胞移植、強角膜片作成など、高度急性期医療を担う県立病院として先進的医療の取組みを継続している。</p>						
区 分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末																																								
腎移植	12	13	11	14	18	10																																								
造血幹細胞移植	10	8	8	11	8	5																																								
強角膜片作成	9	6	7	3	4	2																																								
計	31	27	26	28	30	17																																								
			<p>・腎臓移植は、H25年度に1件、H27年度に3件、H28年度に2件、H29年度に2件を行った。</p> <p>造血幹細胞移植実績 (単位:件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>骨髄移植</td> <td>9</td> <td>9</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>2</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>臍帯血</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>自家末梢血</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>8</td> <td>5</td> <td>7</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>同種末梢血</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>13</td> <td>13</td> <td>13</td> <td>11</td> <td>10</td> <td>7</td> </tr> </tbody> </table> <p>適用患者の数に変動はあるため、実績値の増減はあるが先進的医療である造血幹細胞移植に継続して取り組んでいる。</p>	区 分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	骨髄移植	9	9	4	4	2	1	臍帯血	1	1	0	2	1	1	自家末梢血	2	2	8	5	7	4	同種末梢血	1	1	1	0	0	1	計	13	13	13	11	10	7	<p>・腎移植、造血幹細胞移植など、高度急性期医療を担う県立病院として先進的医療の取組みを継続している。</p>
区 分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末																																								
骨髄移植	9	9	4	4	2	1																																								
臍帯血	1	1	0	2	1	1																																								
自家末梢血	2	2	8	5	7	4																																								
同種末梢血	1	1	1	0	0	1																																								
計	13	13	13	11	10	7																																								

第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

年度計画	No.	行動計画	業務の実績	30年度9月末実績 自己評価																																																									
				説明	医療政策課確認・評価																																																								
I 1 (3) オ	19	【総】・リハビリテーション、相談援助・支援を強化し、退院調整を積極的に行う。	<p>・H30.9月末実績 H29年度から引続き、入院早期より退院困難な要因を有する患者を抽出し、リハビリテーション、相談援助・支援等の退院調整を積極的に支援した。</p> <p>・第2期中期期間（H26～30） 地域医療ネットワークセンター看護師、MSW、理学療法士等が積極的に支援している。 H29は、リハビリテーション、相談援助・支援を強化し、退院調整を積極的に支援した。</p> <p>地域医療ネットワークセンター退院調整件数 (単位:件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>件数</td> <td>1,377</td> <td>1,554</td> <td>1,754</td> <td>2,204</td> <td>3,217</td> <td>3,817</td> </tr> </tbody> </table> <p>退院支援関係診療報酬算定件数実績 (単位:件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>退院調整加算(旧)</td> <td>603</td> <td>710</td> <td>770</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>退院支援加算1(新)</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>1,054</td> <td>1,879</td> </tr> <tr> <td>入退院支援加算1※</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>2,573</td> </tr> <tr> <td>退院時ハビリテーション指導料</td> <td>1,281</td> <td>1,279</td> <td>980</td> <td>601</td> <td>705</td> <td>268</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>1,884</td> <td>1,989</td> <td>1,750</td> <td>1,655</td> <td>2,584</td> <td>2,841</td> </tr> </tbody> </table> <p>※H30年改定により、入退院支援加算に名称変更</p>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	件数	1,377	1,554	1,754	2,204	3,217	3,817	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	退院調整加算(旧)	603	710	770	—	—	—	退院支援加算1(新)	—	—	—	—	1,054	1,879	入退院支援加算1※	—	—	—	—	—	2,573	退院時ハビリテーション指導料	1,281	1,279	980	601	705	268	計	1,884	1,989	1,750	1,655	2,584	2,841	<p>リハビリテーション、相談援助・支援を強化し、入院早期から退院調整を地域医療ネットワークセンター看護師、MSW、理学療法士等が積極的に支援することで、円滑な地域医療連携に貢献した。 また、退院後の受け入れ先となる、後方病院へ院長、看護部が訪問して連携を強化した。</p>	<p>・地域医療ネットワークセンターにおける退院調整実績が、H30上半期だけで前年度実績比20%程度上回っている。</p> <p>・地域包括ケアシステム構築に向けて、入院療養から在宅療養へつなぐ多職種による退院調整支援やリハビリ支援は重要であり、県立病院としての責務を果たしている。</p>
			区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末																																																				
			件数	1,377	1,554	1,754	2,204	3,217	3,817																																																				
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末																																																							
退院調整加算(旧)	603	710	770	—	—	—																																																							
退院支援加算1(新)	—	—	—	—	1,054	1,879																																																							
入退院支援加算1※	—	—	—	—	—	2,573																																																							
退院時ハビリテーション指導料	1,281	1,279	980	601	705	268																																																							
計	1,884	1,989	1,750	1,655	2,584	2,841																																																							
20	【心】・患者の社会復帰に向け、リハビリテーション活動を充実させる。 【心】・患者の地域での生活を支援するため、訪問看護を充実させる。	<p>・H30.9月末実績 リハビリテーション活動及び訪問看護を通じて、患者の社会復帰を支援している。 また、在宅においてよりの確な支援を行うため、訪問看護の充実を図り、看護師に加えて精神保健福祉士や作業療法士などを含めた複数訪問の積極的な実施に努めている。</p> <p>・第2期中期目標期間（H26～30） 早期退院の促進と退院後も安定的な生活を維持するためには、入院中から地域生活を見据えた支援が必要とされることから、22年度から取組を始めた「精神科急性期ケアマネジメント」を本年度も継続実施している。</p> <p>リハビリテーション活動実施件数 (単位:件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>精神科作業療法</td> <td>8,500</td> <td>8,187</td> <td>7,209</td> <td>7,649</td> <td>5,992</td> <td>2,813</td> </tr> <tr> <td>デイケア</td> <td>4,555</td> <td>4,100</td> <td>4,239</td> <td>4,448</td> <td>5,953</td> <td>3,176</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>13,055</td> <td>12,287</td> <td>11,448</td> <td>12,097</td> <td>11,947</td> <td>5,989</td> </tr> </tbody> </table> <p>訪問看護実施件数 (単位:件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>訪問看護実施件数</td> <td>2,698</td> <td>2,751</td> <td>2,883</td> <td>3,322</td> <td>4,068</td> <td>2,093</td> </tr> <tr> <td>(うち複数訪問)</td> <td>369</td> <td>344</td> <td>170</td> <td>147</td> <td>76</td> <td>19</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	精神科作業療法	8,500	8,187	7,209	7,649	5,992	2,813	デイケア	4,555	4,100	4,239	4,448	5,953	3,176	計	13,055	12,287	11,448	12,097	11,947	5,989	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	訪問看護実施件数	2,698	2,751	2,883	3,322	4,068	2,093	(うち複数訪問)	369	344	170	147	76	19	<p>患者の社会復帰及び地域生活支援に取り組み、リハビリテーション活動及び訪問看護件数については、ほぼ前年度並みとなっている。 訪問看護の複数訪問の拡充については、精神保健福祉士の体制強化が必要である。</p>	<p>・リハビリテーション活動及び訪問看護を通じた患者の社会復帰に向けた取り組みが継続して実施されている。</p>								
		区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末																																																					
精神科作業療法	8,500	8,187	7,209	7,649	5,992	2,813																																																							
デイケア	4,555	4,100	4,239	4,448	5,953	3,176																																																							
計	13,055	12,287	11,448	12,097	11,947	5,989																																																							
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末																																																							
訪問看護実施件数	2,698	2,751	2,883	3,322	4,068	2,093																																																							
(うち複数訪問)	369	344	170	147	76	19																																																							
21	【子】・言語聴覚業務における学校現場との連携、理学療法における退院後のフォロー、作業療法における急性期作業療法他の充実を図る。	<p>リハ実施実績 (単位:件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>理学療法</td> <td>17,617</td> <td>20,414</td> <td>17,811</td> <td>17,504</td> <td>18,944</td> <td>8,197</td> </tr> <tr> <td>作業療法</td> <td>6,972</td> <td>7,317</td> <td>6,335</td> <td>6,010</td> <td>6,656</td> <td>3,354</td> </tr> <tr> <td>言語聴覚療法</td> <td>7,883</td> <td>8,180</td> <td>7,825</td> <td>8,656</td> <td>7,306</td> <td>3,835</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>32,472</td> <td>35,911</td> <td>31,971</td> <td>32,170</td> <td>32,906</td> <td>15,386</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	理学療法	17,617	20,414	17,811	17,504	18,944	8,197	作業療法	6,972	7,317	6,335	6,010	6,656	3,354	言語聴覚療法	7,883	8,180	7,825	8,656	7,306	3,835	計	32,472	35,911	31,971	32,170	32,906	15,386	<p>H30年4月にリハビリテーション医1名（非常勤）を採用し、リハビリ需要の増加に対応している。今後もさらなる質の向上を図っていく。</p>	<p>・全国的にも希少な小児のリハビリテーション医1名を新たに採用し、リハビリ提供体制の強化に取り組んだ。</p>																						
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末																																																							
理学療法	17,617	20,414	17,811	17,504	18,944	8,197																																																							
作業療法	6,972	7,317	6,335	6,010	6,656	3,354																																																							
言語聴覚療法	7,883	8,180	7,825	8,656	7,306	3,835																																																							
計	32,472	35,911	31,971	32,170	32,906	15,386																																																							

第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

年度計画	No.	行動計画	業務の実績	30年度9月末実績 自己評価																													
				説明	医療政策課確認・評価																												
I 1 (3) カ	22	遺伝解析・診断を活用した疾患の予防、治療及び相談支援に取り組む。	<p>・ H30 遺伝診療科の受診患者数は順調に増加している。 がんゲノム検査のNCCオンコパネル（先進医療B）を1例実施 518,800円/回</p> <p>・ 第2期中期目標期間（H26～30） H27年度に院内の関係する部署間の調整を経て遺伝診療科を立ち上げた。当該科の存在を県民や診療所等の医師等に広報するため、ホームページへの掲載や講演会の開催等を行った。</p> <p>・ H30年3月27日「がんゲノム医療中核拠点病院」である京都大学医学部附属病院の連携病院として「がんゲノム医療連携病院」に指定された。</p> <p>遺伝診療科受診者数 (単位：人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>受診者数</td> <td></td> <td></td> <td>21</td> <td>39</td> <td>86</td> <td>43</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	受診者数			21	39	86	43	<p>H30年度の遺伝診療科の受診患者数は順調に増加している。世間の関心の高さから今後も患者数の増加が期待される。また、H29年度末に「がんゲノム医療連携病院」に指定され、がんゲノム医療の体制を整備・強化している。</p>	<p>・ 増加する遺伝診療科受診者数に対応しており、遺伝解析・診断を活用した疾患の予防、治療及び相談支援に取り組んでいる。</p> <p>・ がんゲノム医療連携病院の指定を受け、H30は、腫瘍組織および血液からDNAを抽出し、がん（腫瘍）遺伝子の変異を複数同時に測定する検査（NCCオンコパネル）を実施した。</p> <p>※遺伝子パネル検査による医療をがんゲノム医療連携病院とがんゲノム医療拠点病院（京大）と連携して行う。</p>														
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末																											
受診者数			21	39	86	43																											
I 1 (3) キ	23	認知症については、鑑別診断や周辺症状と身体合併に対する急性期治療、専門医療相談等の実施に取り組む。また、発達障害については、鑑別診断や治療を実施するとともに、地域の保健福祉関係者への助言等の医学的支援や、医療従事者や教育関係者に対する研修の実施に取り組む。	<p>鑑別診断や周辺症状と身体合併に対する急性期治療、専門医療相談等の実施については現状では困難な状況にあるが、脳FDG-PETについては、前年度並みである。</p> <p>脳FDG-PET (単位：件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実施件数</td> <td>137</td> <td>144</td> <td>131</td> <td>135</td> <td>147</td> <td>72</td> </tr> </tbody> </table> <p>認知症ケア加算 (単位：件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>算定件数</td> <td>0</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>803</td> <td>10,494</td> <td>5,077</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	実施件数	137	144	131	135	147	72	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	算定件数	0	-	-	803	10,494	5,077	<p>脳FDG-PETの件数は、過去最高となったH29年度並となる見込み。 H29年1月に認知症ケア加算の施設基準を取得し、算定件数は順調に増加している。</p>	<p>・ 社会的ニーズの高まりに対応し、ケアチームの整備に努めた結果、H29年1月の認知症ケア加算施設基準取得以降、算定件数は順調に推移している。</p> <p>・ 現在は、精神科医の不足により鑑別診断や周辺症状と身体合併に対する急性期治療、専門医療相談等の実施については困難状況であるが、H31.4から常勤の精神科医が配置される見込みである。</p>
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末																											
実施件数	137	144	131	135	147	72																											
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末																											
算定件数	0	-	-	803	10,494	5,077																											
	24	【心】・症状が重篤な認知症患者を受け入れるための、精神科救急・急性期医療体制を確保する。 【心】・老年期特有の専門外来（老年期こころと物忘れ外来）により専門的な医療相談を実施する。	<p>認知症入院患者数 (単位：件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>認知症入院患者</td> <td>20</td> <td>16</td> <td>6</td> <td>12</td> <td>11</td> <td>4</td> </tr> </tbody> </table> <p>老年期こころと物忘れ外来実施件数 (単位：件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>老年期こころと物忘れ外来実施件数</td> <td>793</td> <td>855</td> <td>797</td> <td>573</td> <td>441</td> <td>250</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	認知症入院患者	20	16	6	12	11	4	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	老年期こころと物忘れ外来実施件数	793	855	797	573	441	250	<p>精神科救急・急性期医療体制を確保して症状が重篤な認知症患者を受け入れるとともに、老年期特有の専門外来（老年期こころと物忘れ外来）により専門的な医療相談を実施している。</p>	<p>・ 症状が重篤な認知症患者を受け入れる体制や、老年期特有の専門外来（老年期こころと物忘れ外来）を確保し、精神科救急における県立病院としての責務を果たしている。</p>
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末																											
認知症入院患者	20	16	6	12	11	4																											
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末																											
老年期こころと物忘れ外来実施件数	793	855	797	573	441	250																											
	25	【子】・発達障害については、従来からの新生児退院診察や、新生児包括外来における低体重出生児の発達フォローを継続し、保護者向けのペアレントトレーニングについても継続して取り組む。	<p>発達小児科診療実績 (単位：人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>外来延患者数</td> <td>2,755</td> <td>2,960</td> <td>3,210</td> <td>3,563</td> <td>3,871</td> <td>1,991</td> </tr> </tbody> </table> <p>・ 発達障害児を持つ保護者を対象に、H29年6月～11月の間、計10回、医師や保育士を中心にペアレント・トレーニングを行った。 ・ 中期計画期間中、新生児退院診察を週1回実施した。また、新生児包括外来における低出生体重児の発達フォローを隔週1回実施した。</p>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	外来延患者数	2,755	2,960	3,210	3,563	3,871	1,991	<p>ペアレント・トレーニング、新生児退院診察、低出生体重児の発達フォローを継続的に実施した。</p>	<p>・ ペアレント・トレーニング、新生児退院診察、低出生体重時の発達フォロー等を継続的に実施し、増加傾向（H30.11末の実績で前年度同月時点と比較して延患者数は140人増）にある発達小児科診療に対応している。</p> <p>・ 受診患者が年々増加しており、初診待ちの長さは3～4ヶ月という状況である。</p> <p>※「子どもの心の診療ネットワーク事業」についてはNo.51参照</p>														
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末																											
外来延患者数	2,755	2,960	3,210	3,563	3,871	1,991																											

第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

年度計画	No.	行動計画	業務の実績	30年度9月末実績 自己評価																																																																																															
				説明	医療政策課確認・評価																																																																																														
I 1 (3) ク	26	<p>高度・専門・特殊医療を県民に提供する第一級の病院であり続けるために、低侵襲治療や高度な治療への対応の強化（ロボット支援手術・放射線治療等の拡充）など、医療を取り巻く環境変化に応じて、先進的な施設及び機器等の充実に取り組む。</p> <p>・中期計画に記載した施設及び機器等の整備を計画的に実施する。</p>	<p>・H30.9月末実績 ・総合病院の第1期リニューアル工事で、8月に幹部諸室及び事務部門を本館2階から6階へ移転した。 また、新産婦人科病棟の改修工事を行い、12月から運用予定である。 ・総合病院本館の既存不適格に対応するため、エントランスホール天井について、H30年1月から10月にかけて改修を行っている。 ・H29年3月に着工した第1立体駐車場の工事がH30年9月初旬に完了し、北立体駐車場として9月7日から供用を開始した。 ・H30年6月にリニアックを本館地階から先端医学棟1階に移設した。</p> <p>・第2期中期期間（H26～30） ・第2期中期計画期間に合わせて策定された施設整備計画に基づいて施設及び機器等の整備を実施した。 ・計画的に実施する一方で、策定時から情勢の変化があった場合には計画の見直しを図った。 ・総合病院本館の既存不適格に対応するため、防排煙設備の一部について、H28年度からH29年度にかけて改修を行った。 ・H27から進めていた先端医学棟（5階建 延床面積約20,569.6㎡）の建設工事が、H29年6月末に完了した。H29年7月に竣工式を挙げて、H29年9月に稼働した。 ・総合病院の先端医学棟の開棟に伴い、必要な機器等を整備した。 ・総合病院の第1期リニューアル工事がH29年7月より施工中である。 ・総合病院の北安東2丁目医師宿舍建設工事は、H30年10月の工事完了に向けて施工中である。 ・このころの医療センターは、病棟の個室化改修工事に係る設計作業が完了し、H30年度末までに完了する予定である。 ・このころの医療センターの院内トイレ改修工事は、実施設計を行い、本年度中に着工予定である。 ・こども病院の院内保育所の建替えは、H30年度9月から着工し、H30年度末に竣工予定である。</p> <p>施設及び機器等の整備状況 (単位：百万円)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区 分</th> <th colspan="7">施設整備</th> </tr> <tr> <th>計画</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>16,479</td> <td>31</td> <td>1,141</td> <td>1,863</td> <td>5,136</td> <td>5,783</td> <td>2,354</td> </tr> <tr> <td>こころ</td> <td>1,205</td> <td>32</td> <td>119</td> <td>623</td> <td>194</td> <td>3</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>2,260</td> <td>95</td> <td>525</td> <td>436</td> <td>494</td> <td>265</td> <td>263</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>19,944</td> <td>158</td> <td>1,785</td> <td>2,922</td> <td>5,824</td> <td>6,051</td> <td>2,630</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区 分</th> <th colspan="7">医療機器等</th> </tr> <tr> <th>計画</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>10,101</td> <td>1,292</td> <td>899</td> <td>587</td> <td>566</td> <td>4,322</td> <td>1,169</td> </tr> <tr> <td>こころ</td> <td>179</td> <td>21</td> <td>71</td> <td>46</td> <td>5</td> <td>10</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>2,098</td> <td>289</td> <td>439</td> <td>314</td> <td>279</td> <td>506</td> <td>32</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>12,378</td> <td>1,602</td> <td>1,409</td> <td>947</td> <td>850</td> <td>4,838</td> <td>1,214</td> </tr> </tbody> </table>	区 分	施設整備							計画	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	総合	16,479	31	1,141	1,863	5,136	5,783	2,354	こころ	1,205	32	119	623	194	3	13	こども	2,260	95	525	436	494	265	263	合計	19,944	158	1,785	2,922	5,824	6,051	2,630	区 分	医療機器等							計画	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	総合	10,101	1,292	899	587	566	4,322	1,169	こころ	179	21	71	46	5	10	13	こども	2,098	289	439	314	279	506	32	合計	12,378	1,602	1,409	947	850	4,838	1,214	<p>・H30年度はリニアックの移設も完了し、治療体制の充実を図ることができた。 ・北立体駐車場の供用開始により、病院周辺の道路で渋滞は発生しておらず、来院者の利便性向上に繋がった。 ・こども病院の院内保育所がH30年9月に着工され、職員の福利厚生向上が図られる。</p>	<p>・総合病院では先端医学棟整備を受けた本館リニューアル工事が進捗するとともに、立体駐車場を新たに整備した。また、先端医学棟に移動した手術室とHCU病棟の跡地を活用し、産婦人科病棟をリニューアルし12月から運用を開始した。</p> <p>・高度・専門・特殊医療の提供に向けた機能的な施設活用が図られている。</p> <p>・こころ、こどもにおいても、療養環境や職務環境の向上に向けた施設整備が進められている。</p>
区 分	施設整備																																																																																																		
	計画	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末																																																																																												
総合	16,479	31	1,141	1,863	5,136	5,783	2,354																																																																																												
こころ	1,205	32	119	623	194	3	13																																																																																												
こども	2,260	95	525	436	494	265	263																																																																																												
合計	19,944	158	1,785	2,922	5,824	6,051	2,630																																																																																												
区 分	医療機器等																																																																																																		
	計画	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末																																																																																												
総合	10,101	1,292	899	587	566	4,322	1,169																																																																																												
こころ	179	21	71	46	5	10	13																																																																																												
こども	2,098	289	439	314	279	506	32																																																																																												
合計	12,378	1,602	1,409	947	850	4,838	1,214																																																																																												

第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

年度計画	No.	行動計画	業務の実績	30年度9月末実績 自己評価		医療政策課確認・評価																												
				説明																														
ケ 各県立病院は医療の提供に当たり、次のとおり重点的に取り組む。	-	-	-	-	-																													
I 1 (3) ケ (ア)	-	-	-	-	-																													
県立総合病院診療事業 県内医療機関の中核的病院として、各疾患に対する総合的な医療をはじめ、3大疾患（心疾患、脳血管疾患、がん）に対する高度・専門医療や救急・急性期医療等を提供する。 各診療事業を推進するため、医師・看護師確保に取り組む。 県民に提供する医療<業務の予定量> 病床数 720床（670床） 一般病床 620床 結核病床 100床（50床） 外来患者 440,640人 入院患者 236,301人																																		
循環器疾患患者に対して循環器病センター機能を生かした24時間体制による高度な専門的治療を提供する体制の充実 ①重症心不全疾患の患者に対して冠動脈疾患集中治療室（CCU/ICU）機能を最大限に生かした高度な専門的治療の提供 ②急性心筋梗塞、脳卒中発症患者に対応する24時間救急受入体制の強化 ③循環器関連診療科の有機的な連携によるチーム医療の推進 ④ハイブリッド手術室の使用によるステントグラフト治療等の高度専門医療の提供	27	①・冠動脈疾患集中治療室（CCU/ICU）を中心に24時間365日体制を構築し、高度専門診療を提供する。	総合 ・H30.9月末実績 H30年9月、循環器病センター3階のCCU/ICUを2床増床して14床へ拡大した。 ・第2期中期期間（H26～30） ・H27は、循環器病センター3階のCCU/ICUを24時間体制（看護配置2：1）で10床稼働した。 心臓リハビリについても充実を図り、施設基準においてもIIからIへのランクアップを実現した（増収額480万円/年） ・H28は、循環器病センター3階のCCU/ICUを2床増床して12床へ拡大した。 ・H29は、6月に特定集中治療室管理料2の施設基準を取得しランクアップを実現した。（75,790円/日→118,680円/日等）増収額：128百万円 <table border="1"> <caption>CCU/ICU稼働率 (単位：%)</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>稼働率(%)</td> <td>96.1</td> <td>100.5</td> <td>102.6</td> <td>100.0</td> <td>113.1</td> <td>112.7</td> </tr> <tr> <td>入室患者数(人)</td> <td>717</td> <td>738</td> <td>771</td> <td>722</td> <td>780</td> <td>342</td> </tr> <tr> <td>1日平均(人)</td> <td>10.1</td> <td>10.1</td> <td>10.3</td> <td>11.5</td> <td>13.6</td> <td>13.5</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	稼働率(%)	96.1	100.5	102.6	100.0	113.1	112.7	入室患者数(人)	717	738	771	722	780	342	1日平均(人)	10.1	10.1	10.3	11.5	13.6	13.5	A	冠動脈疾患集中治療室（CCU/ICU）を中心に24時間365日体制を構築し、高度専門診療を提供している。 院内で不足気味であった重症系病棟を増加させることで、高度急性期の治療をより手厚く行える体制を整えた。病床を増加しても稼働率は前年並みを維持しており、その必要性を表している。	・循環器病センター3階のCCU/ICUを2床増床して14床へ拡大し、高い稼働率を維持しており、高度な専門治療提供体制を強化している。
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末																												
稼働率(%)	96.1	100.5	102.6	100.0	113.1	112.7																												
入室患者数(人)	717	738	771	722	780	342																												
1日平均(人)	10.1	10.1	10.3	11.5	13.6	13.5																												
	28	②・脳卒中発症患者に対する急性期医療の提供体制を整備するとともに、在宅医療への情報提供等、在宅復帰に向けた取り組みを推進する。	総合 ・第2期中期目標期間（H26～30） ・脳卒中の地域連携クリニカルパスを運用している。 ・脳血管内治療のできる医師を確保した。（脳神経外科） ・先端医学棟にMRI、CT、血管造影の3種類のハイブリッド手術室を整備し、急性期医療に対応する体制が整備された。 ・H29 超急性期脳卒中加算は前年度比1.8倍に増加した。 ・H30.9月末実績 脳卒中地域連携クリニカルパス適用患者数 (単位：件) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>算定件数</td> <td>38</td> <td>42</td> <td>68</td> <td>52</td> <td>42</td> <td>30</td> </tr> </tbody> </table> 超急性期脳卒中加算 (単位：件) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>算定件数</td> <td>11</td> <td>11</td> <td>15</td> <td>15</td> <td>27</td> <td>7</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	算定件数	38	42	68	52	42	30	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	算定件数	11	11	15	15	27	7	A	先端医学棟にMRI、CT、血管造影の3種類のハイブリッド手術室を整備し、脳卒中発症患者に対して、高度な専門的治療が最大限に提供されている。	先端医学棟に整備されたMRI、CT、血管造影の3種類のハイブリッド手術室の活用を通じて、脳卒中患者に対する充実した急性期医療を提供している。 ※脳神経外科の確保はH28。
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末																												
算定件数	38	42	68	52	42	30																												
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末																												
算定件数	11	11	15	15	27	7																												

第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

年度計画	No.	行動計画	業務の実績	30年度9月末実績 自己評価		医療政策課確認・評価																																																	
				説明																																																			
	29	③・生活習慣病を心血管疾患の発症危険因子としてとらえ、循環器内科、神経内科、腎臓内科、心臓血管外科等が有機的に連携して、チーム医療の推進を図る。	<p>総合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・H30.9月末実績 ・件数増加を目指し、新たに糖尿病透析予防指導を行う「そらまめ外来」の午後診療を開始した。 ・糖尿病透析予防指導の資格を有する看護師の外来配置人数を増やし、体制を強化した。 配置数 H29：2人→H30：9人（+7人） ・第2期中期目標期間（H26～30） ・関係科の医師及びコメディカルによる合同検討会（下肢救済チーム）を開催し、スタッフが協力して患者の治療にあたるチーム医療の連携を推進している。 ・糖尿病透析予防指導管理料については、専門外来を開設し活動している。 ・指導に必要な検査（尿アルブミン値）の実施率が低いため、検査実施率の向上を検討する。 ・末梢動脈疾患検査は着実に件数が増加している。 <table border="1"> <caption>糖尿病透析予防指導管理料 (単位：件)</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>算定件数</td> <td>44</td> <td>24</td> <td>37</td> <td>132</td> <td>75</td> <td>51</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <caption>末梢動脈疾患（PAD）検査 (単位：件)</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ABI</td> <td>1,123</td> <td>1,446</td> <td>1,725</td> <td>1,831</td> <td>2,096</td> <td>1,119</td> </tr> <tr> <td>SPP</td> <td>171</td> <td>143</td> <td>258</td> <td>220</td> <td>230</td> <td>136</td> </tr> <tr> <td>下肢動脈超音波</td> <td>73</td> <td>111</td> <td>188</td> <td>195</td> <td>268</td> <td>134</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	算定件数	44	24	37	132	75	51	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	ABI	1,123	1,446	1,725	1,831	2,096	1,119	SPP	171	143	258	220	230	136	下肢動脈超音波	73	111	188	195	268	134	A-	<p>循環器内科、神経内科、腎臓内科、心臓血管外科等が有機的に連携して、チーム医療を推進している。末梢動脈疾患検査は着実に件数が増加している。</p> <p>糖尿病透析予防管理料については、糖尿病・内分泌内科やそらまめ外来、透析室などでも指導できるようになり、前年度を上回る見込みとなっている。</p>	<p>糖尿病透析予防指導の専門外来の診療時間を拡大し、有資格看護の外来配置を7人増員するなど、心血管疾患の発症危険因子である生活習慣病への対応を強化している。</p>							
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末																																																	
算定件数	44	24	37	132	75	51																																																	
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末																																																	
ABI	1,123	1,446	1,725	1,831	2,096	1,119																																																	
SPP	171	143	258	220	230	136																																																	
下肢動脈超音波	73	111	188	195	268	134																																																	
	30	④・ハイブリッド手術室を運用する体制を整備し、高度専門医療を提供する。	<p>総合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・H30.9月末実績 ・TAVI（経カテーテル大動脈弁置換術）34件 ・日本循環器学会から経皮的僧帽弁接合不全修復術（Mitra Clip）の実施施設として10月に認定を受ける見込み。 ・第2期中期期間（H26～30） ・H26年10月からハイブリッド手術室の稼働を開始した。 ・TAVI（経カテーテル大動脈弁置換術）の施設基準を取得し、H27年度は4例、H28年度は28例、H29年度は67例実施した ・H29から先端医学棟にMRI、CT、血管造影の3種類のハイブリッド手術室を整備し、稼働を開始した。 <table border="1"> <caption>ハイブリッド手術室稼働状況 (単位：件)</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ハイブリッド手術室使用件数</td> <td>-</td> <td>77</td> <td>217</td> <td>163</td> <td>475</td> <td>321</td> </tr> <tr> <td>TAVI実施件数 ※上記の内数</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>4</td> <td>28</td> <td>67</td> <td>34</td> </tr> <tr> <td>トランスカテータリ挿入 ※上記の内数</td> <td>50</td> <td>80</td> <td>81</td> <td>107</td> <td>91</td> <td>39</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <caption>参考 (単位：件)</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>PCI</td> <td>322</td> <td>506</td> <td>515</td> <td>517</td> <td>447</td> <td>224</td> </tr> <tr> <td>アブレーション</td> <td>94</td> <td>43</td> <td>189</td> <td>229</td> <td>256</td> <td>106</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	ハイブリッド手術室使用件数	-	77	217	163	475	321	TAVI実施件数 ※上記の内数	-	-	4	28	67	34	トランスカテータリ挿入 ※上記の内数	50	80	81	107	91	39	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	PCI	322	506	515	517	447	224	アブレーション	94	43	189	229	256	106	A	<p>先端医学棟に整備された同一手術室内での画像診断に基づく、精密で正確な手術が可能となる。MRI、CT、血管造影の3種類のハイブリッド手術室の特性を最大限に生かし、TAVIをはじめとする高度専門医療の提供を行っている。ハイブリッド手術室を使用した手術件数は順調に増加している。</p> <p>加えて、日本循環器学会から経皮的僧帽弁接合不全修復術（Mitra Clip）の実施施設として10月に認定を受ける見込み。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・MRI、CT、血管造影の3種類のハイブリッド手術室の稼働により、ハイブリッド手術室の利用実績が、H30上半期時点において前年度の7割近くに達するなど、高度専門医療の提供に努めている。 ・TAVIの利用実績も順調に伸びており、症例が蓄積されている。 ・手術・カテーテル治療実績や専門医の配置状況が認められ、経皮的僧帽弁接合不全修復術（Mitra Clip）の実施施設として県内で初めて認定された。 ※全国に42施設、うち東海地区は3施設
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末																																																	
ハイブリッド手術室使用件数	-	77	217	163	475	321																																																	
TAVI実施件数 ※上記の内数	-	-	4	28	67	34																																																	
トランスカテータリ挿入 ※上記の内数	50	80	81	107	91	39																																																	
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末																																																	
PCI	322	506	515	517	447	224																																																	
アブレーション	94	43	189	229	256	106																																																	

年度計画	No.	行動計画	業務の実績	30年度9月末実績 自己評価																																																																																																																			
				説明	医療政策課確認・評価																																																																																																																		
I 1 (3) ケ (ア)		がん疾患患者に対して地域がん診療連携拠点病院としての高度な集学的治療を提供する体制の充実及び地域の医療機関等と連携した緩和ケアや終末期医療の提供 ①先端医学棟を設置し、手術、放射線治療、化学療法に係るがん診療体制の充実 ②地域の医療機関等との連携による緩和ケアや終末期ケアの推進 ③がん相談及び情報提供機能の強化 ④ロボット支援手術の活用	<p>・ H30.9月末実績 4月より胃がん、直腸がんに対するロボット手術が保険適用となったことに伴い、当院でも保険診療を開始した。</p> <p>・ 第2期中期目標期間（H26～30） 手術支援ロボット(ダヴィンチ)を導入し、泌尿器科領域、産婦人科領域、消化器外科領域において運用している。</p> <p>・ H26 前立腺がん、子宮頸がんにダヴィンチを用いた手術を開始</p> <p>・ H27 膀胱がんにダヴィンチの適用を拡大した。</p> <p>・ H28 大腸がんにダヴィンチの適用を拡大した。</p> <p>H28.10 ダヴィンチを用いた腹腔鏡下膀胱全摘術の自由診療開始</p> <p>H28.12 ダヴィンチを用いた腹腔鏡下広汎子宮全摘術の先進医療開始（全国5番目、大学病院以外では全国初、県内初）</p> <p>・ H29 胃がんロボット支援手術の適用を拡大した。 10月から先端医学棟手術室にダヴィンチを1台追加し、2台体制となり並行稼動が可能運用体制を整備した。 麻酔科医5名の増員が実現できた。</p>	<p>先端医学棟1階に最新鋭の大型放射線機器に対応できる放射線治療室4室を整備した。加えて先端医学棟手術室にロボット支援手術室や内視鏡手術室を整備するなど高度ながん手術が安全に行われている。H29年10月からはダヴィンチを1台追加し、2台体制となり並行稼動が可能となり、手術、放射線治療とも十分に提供できている。</p>	<p>・ がん手術件数は前年を上回る水準で実施されているほか、院内の内視鏡検査・処置にしろがん検査・処置の割合が前年度の9%からH30上半期は31%と、大幅に増加している。</p> <p>・ ロボット支援手術の適用が胃がん・直腸がんにも保険診療適用されたことを受け取り組むなど、がん患者が速やかに検査や治療を受けられる体制構築に努めている。（ダヴィンチの実績はNo.35に記載）</p> <p>・ H29に麻酔科医を5人増員した効果として、麻酔科医の介入が必要な手術件数の増加が確認できる。 H30.11末時点（累計）全身麻酔 H29：2,981件 H30：3,115件 +134件（前年比）</p>																																																																																																																		
	31	①・がん患者が速やかに検査や治療を受けられる体制を構築し、手術件数の増加に努める。	<p>総合</p> <p>がん手術件数 (がん登録と同様の病名ICDコードにて対象患者を抽出) (単位:件、%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>胃がん</td> <td>158</td> <td>149</td> <td>135</td> <td>136</td> <td>163</td> <td>60</td> </tr> <tr> <td>大腸がん</td> <td>246</td> <td>262</td> <td>310</td> <td>264</td> <td>287</td> <td>156</td> </tr> <tr> <td>肝がん</td> <td>87</td> <td>135</td> <td>133</td> <td>135</td> <td>115</td> <td>53</td> </tr> <tr> <td>肺がん</td> <td>110</td> <td>114</td> <td>138</td> <td>156</td> <td>149</td> <td>58</td> </tr> <tr> <td>乳がん</td> <td>285</td> <td>320</td> <td>334</td> <td>343</td> <td>352</td> <td>158</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>1,028</td> <td>1,107</td> <td>999</td> <td>1,131</td> <td>1,210</td> <td>584</td> </tr> <tr> <td>がん手術合計</td> <td>1,906</td> <td>2,075</td> <td>2,011</td> <td>2,135</td> <td>2,235</td> <td>1,052</td> </tr> <tr> <td>手術全体</td> <td>6,867</td> <td>7,230</td> <td>7,753</td> <td>7,764</td> <td>8,406</td> <td>4,549</td> </tr> <tr> <td>がん手術割合</td> <td>27.8</td> <td>28.7</td> <td>25.9</td> <td>27.5</td> <td>26.6</td> <td>23.1</td> </tr> </tbody> </table> <p>※年度別各種がん手術は1患者が複数手術をした場合は、それぞれ計上 ※がん手術合計、手術全体は複数手術をした場合は、主たる手術に計上</p> <p>内視鏡検査・処置(30年9月末) (単位:件、%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>胃がん</th> <th>大腸がん</th> <th>肝がん</th> <th>肺がん</th> <th>乳がん</th> <th>その他</th> <th>がん処置合計</th> <th>検査・処置全体</th> <th>がん処置割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>29年度</td> <td>301</td> <td>101</td> <td>40</td> <td>75</td> <td>0</td> <td>575</td> <td>1,092</td> <td>12,718</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>30年度(9月末)</td> <td>261</td> <td>256</td> <td>49</td> <td>92</td> <td>40</td> <td>1,156</td> <td>1,854</td> <td>6,072</td> <td>31</td> </tr> </tbody> </table> <p>放射線治療 (単位:件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>件数</td> <td>15,077</td> <td>15,545</td> <td>16,384</td> <td>16,330</td> <td>15,795</td> <td>7,145</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	胃がん	158	149	135	136	163	60	大腸がん	246	262	310	264	287	156	肝がん	87	135	133	135	115	53	肺がん	110	114	138	156	149	58	乳がん	285	320	334	343	352	158	その他	1,028	1,107	999	1,131	1,210	584	がん手術合計	1,906	2,075	2,011	2,135	2,235	1,052	手術全体	6,867	7,230	7,753	7,764	8,406	4,549	がん手術割合	27.8	28.7	25.9	27.5	26.6	23.1	年度	胃がん	大腸がん	肝がん	肺がん	乳がん	その他	がん処置合計	検査・処置全体	がん処置割合	29年度	301	101	40	75	0	575	1,092	12,718	9	30年度(9月末)	261	256	49	92	40	1,156	1,854	6,072	31	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	件数	15,077	15,545	16,384	16,330	15,795	7,145		
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末																																																																																																																	
胃がん	158	149	135	136	163	60																																																																																																																	
大腸がん	246	262	310	264	287	156																																																																																																																	
肝がん	87	135	133	135	115	53																																																																																																																	
肺がん	110	114	138	156	149	58																																																																																																																	
乳がん	285	320	334	343	352	158																																																																																																																	
その他	1,028	1,107	999	1,131	1,210	584																																																																																																																	
がん手術合計	1,906	2,075	2,011	2,135	2,235	1,052																																																																																																																	
手術全体	6,867	7,230	7,753	7,764	8,406	4,549																																																																																																																	
がん手術割合	27.8	28.7	25.9	27.5	26.6	23.1																																																																																																																	
年度	胃がん	大腸がん	肝がん	肺がん	乳がん	その他	がん処置合計	検査・処置全体	がん処置割合																																																																																																														
29年度	301	101	40	75	0	575	1,092	12,718	9																																																																																																														
30年度(9月末)	261	256	49	92	40	1,156	1,854	6,072	31																																																																																																														
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末																																																																																																																	
件数	15,077	15,545	16,384	16,330	15,795	7,145																																																																																																																	

第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

年度計画	No.	行動計画	業務の実績	30年度9月末実績 自己評価		医療政策課確認・評価														
				説明																
	32	①・外来化学療法センターの環境整備を行い、化学療法の充実を図る。	<p>総合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・H30.9月末実績 外来化学療法センターでは、専門の認定看護師1名と認定薬剤師6名を配置し、40床のベッドを活用し安心・安全な治療に貢献している。 ・第2期中期期間（H26～30） ・外来化学療法センターは、専門の認定看護師1名と認定薬剤師6名を配置し、40床のベッドを活用し、安心・安全な治療に貢献している。 ・H26年5月厚生労働省より抗がん剤ばく露防止に関する課長通知が出され、現在の抗がん剤調製室の設備改善が必要となった。 ・先端医学棟建設後の跡地利用の中で中央滅菌材料室跡地に移転する設計を完了した。 <p>外来化学療法加算 (単位:件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>件数</td> <td>9,733</td> <td>9,963</td> <td>10,509</td> <td>11,171</td> <td>11,680</td> <td>6,125</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	件数	9,733	9,963	10,509	11,171	11,680	6,125	A	<p>外来化学療法が順調に伸びている。オブジーボ等の先進的な化学療法も順調に増加している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・専門の認定看護師1名と認定薬剤師6名の人的配置、40床のベッドを活用した外来化学療法センターの機能的運用により、がん患者に対する化学療法によるがん診療体制が確保されている。 <p>※H30.9月末実績 アバスチン：1,212件 オブジーボ：342件</p>
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末														
件数	9,733	9,963	10,509	11,171	11,680	6,125														
	33	②・地域の医療機関等と連携し、緩和ケアや終末期ケアを推進する。	<p>総合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・H30.9月末実績 緩和ケアチーム介入件数 229件 (5E病棟がん患者143件、5E病棟非がん患者0件、5E病棟外がん患者80件、5E病棟外非がん患者6件) ・第2期中期目標期間（H26～30） ・緩和ケアチーム介入症例数 H29年度実績：389件 (5E病棟がん患者260件、5E病棟非がん患者1件、5E病棟外がん患者114件、5E病棟外非がん患者14件) <p>緩和ケアチーム介入症例数 (単位:件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>症例数</td> <td>426</td> <td>381</td> <td>403</td> <td>372</td> <td>389</td> <td>229</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	症例数	426	381	403	372	389	229	A-	<p>がん疾患患者に対して、緩和ケアチームが積極的に介入し、介入症例数は増加傾向にある。</p> <p>がん疾患患者に対して、緩和ケアチームが積極的に介入して、介入症例数を維持している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・こころの医療センターから精神科医師の派遣を受け、水曜日午後にチームメンバーによる対象病棟の回診を実施している。
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末														
症例数	426	381	403	372	389	229														
	34	③・がん相談支援センターの機能を増強し、がんに関する相談支援、情報の提供に努める。	<p>総合</p> <p>がん相談件数 (単位:件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>がん相談</td> <td>2,457</td> <td>3,784</td> <td>3,065</td> <td>4,587</td> <td>5,896</td> <td>1,815</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	がん相談	2,457	3,784	3,065	4,587	5,896	1,815	A	<p>H28年度からがん相談体制を強化し、がん関連の各種認定看護師、がん看護専門看護師が相談に当たっている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・左記に加え、入退院センターや地域連携室の看護師もがん相談に対応している。 <p>※がん相談件数の集計方法が変更された：H29までは対面相談に加え、地域医療支援センターでの退院支援・調整件数もカウントしていたが、H30からは対面相談のみとなったため、件数は見かけ上減少している。</p>
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末														
がん相談	2,457	3,784	3,065	4,587	5,896	1,815														

第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

年度計画	No.	行動計画	業務の実績	30年度9月末実績 自己評価																																																									
				説明	医療政策課確認・評価																																																								
	35	④・ロボット支援手術の件数増加に努める	<p>総合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ H30. 9月末実績 4月より胃がん、直腸がんに対するロボット手術が保険適用となったことに伴い、当院でも保険診療を開始した。 ・ 第2期中期期間 (H26～30) ・ 手術支援ロボット(ダヴィンチ)を導入し、泌尿器科領域、産婦人科領域、消化器外科領域において運用している。 ・ 臨床研究 H28 ロボット支援手術 (消化器外科領域) 9件実施 H29 ロボット支援手術 (消化器外科領域) 30件実施 ・ 適応疾患の拡大 ・ H26 前立腺がん、子宮頸がんにダヴィンチを用いた手術を開始 ・ H27 膀胱がんにも適用を拡大した。 ・ H28 大腸がんにも適用を拡大した。 H28.10 ダヴィンチを用いた腹腔鏡下膀胱全摘術の自由診療開始 H28.12 ダヴィンチを用いた腹腔鏡下広汎子宮全摘術の先進医療開始 (全国5番目、大学病院以外では全国初、県内初) ・ H29 ・ 臨床研究 胃がんにもロボット支援手術の適用を拡大した。 ロボット支援手術 (消化器外科領域 大腸・胃) 30件 ・ 10月から先端医学棟手術室にダヴィンチを1台追加し、2台体制となり並行稼働が可能な運用体制を整備した。 <p>ダヴィンチ使用手術件数 (単位: 件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>診療科</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>診療科</td> <td>-</td> <td>31</td> <td>77</td> <td>102</td> <td>122</td> <td>51</td> </tr> <tr> <td>泌尿器科</td> <td>-</td> <td>5</td> <td>4</td> <td>1</td> <td>-</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td>婦人科</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>9</td> <td>30</td> <td>41</td> </tr> <tr> <td>消化器外科</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>0</td> <td>36</td> <td>81</td> <td>112</td> <td>152</td> <td>103</td> </tr> </tbody> </table> <p>ダヴィンチ使用術者数 (単位: 人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>人数</td> <td>-</td> <td>5</td> <td>6</td> <td>6</td> <td>7</td> <td>11</td> </tr> </tbody> </table>	診療科	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	診療科	-	31	77	102	122	51	泌尿器科	-	5	4	1	-	11	婦人科	-	-	-	9	30	41	消化器外科	-	-	-	-	-	-	計	0	36	81	112	152	103	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	人数	-	5	6	6	7	11	<p>A</p> <p>H29年10月よりダヴィンチの運用が2台となり、2件の手術を並行して2件実施できるようになった。術式は泌尿器科の前立腺や腎臓の腫瘍摘出手術に加え消化器領域の胃、大腸に実施している。件数、適用疾患ともに増加している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ H29. 10月から先端医学棟の手術室にダヴィンチを追加導入し2台体制とし、保険適用となった胃がん・直腸がんといった消化器外科での実績が増加している。 ・ ダヴィンチ使用術者数も前年の7人から4人 (消化器外科2人、泌尿器科2人) の増となっており、先進的な医療機器の有効活用に向けた体制が図られている。
診療科	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末																																																							
診療科	-	31	77	102	122	51																																																							
泌尿器科	-	5	4	1	-	11																																																							
婦人科	-	-	-	9	30	41																																																							
消化器外科	-	-	-	-	-	-																																																							
計	0	36	81	112	152	103																																																							
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末																																																							
人数	-	5	6	6	7	11																																																							

第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

年度計画	No.	行動計画	業務の実績	30年度9月末実績 自己評価																																																																								
				説明	医療政策課確認・評価																																																																							
重篤な救急患者に対応する高度救命救急センターの運営 ①高度救命救急センター運営に必要な専門スタッフの確保・育成 ②集中治療専門医の確保 ③救急搬送患者の受入体制の充実	36	①②・医師の増員を図るとともに、働きやすさに配慮した変則勤務が可能な体制を維持する。	総合 ・H30.9月末実績 ・H30年度は救急科医師9名体制で稼働 ・第2期中期目標期間（H26～30） ・医師の変則勤務の試行を継続し、当直明けに休める制度を整えた。 ・H25年7月から、救急科医師5名体制（うち専門医2名）により、救命救急センターが稼働した。 ・H27年3月から高度救命救急センターに指定 ・H28年度は救急科医師8名、H29年度は救急科医師7名体制で稼働 医師の変則勤務試行状況 (単位：%) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>該当者(人)</td> <td>1,553</td> <td>1,547</td> <td>1,444</td> <td>1,634</td> <td>1,722</td> <td>883</td> </tr> <tr> <td>利用者(人)</td> <td>858</td> <td>924</td> <td>935</td> <td>961</td> <td>889</td> <td>478</td> </tr> <tr> <td>利用率(%)</td> <td>55.2</td> <td>59.7</td> <td>64.7</td> <td>58.8</td> <td>51.6</td> <td>54.1</td> </tr> </tbody> </table> ※該当者：変則勤務を行うことが可能な延べ医師数 ※利用者：変則勤務を行った延べ医師数	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	該当者(人)	1,553	1,547	1,444	1,634	1,722	883	利用者(人)	858	924	935	961	889	478	利用率(%)	55.2	59.7	64.7	58.8	51.6	54.1	A- 救急委員会を中心にして効果的な制度設計を検討し救急患者の円滑な受入体制を維持している。	・前年度の救急科医師7名体制から、2名採用し、9名体制に拡充された。 （件数の増加に対応） ・救急患者数の増加（前年比+365人） H30.4～9末：6,268人 H29.4～9末：5,903人 ・救急車受入件数の増加（+242人） H30.4～9末：2,667件 H29.4～9末：2,425件 ・救急医療等に対応した働きやすい変則勤務の利用状況も半数以上の割合の医師が活用しているが、救命救急科の医師の時間外勤務数は多く、人員はなお不足している。現行の変則勤務を維持しつつ、時間外勤務を削減するためには、さらに4人程度の増員が必要とみられる。																																											
	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末																																																																					
該当者(人)	1,553	1,547	1,444	1,634	1,722	883																																																																						
利用者(人)	858	924	935	961	889	478																																																																						
利用率(%)	55.2	59.7	64.7	58.8	51.6	54.1																																																																						
37	③・救急車の受入を確実にできる診療体制を維持する。 ・ドクターカーの運用に関して、出動可能な市町の拡大に努める。	総合 救急車受入率 (単位：%) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>当番日</td> <td>97.4</td> <td>94.2</td> <td>97.1</td> <td>96.5</td> <td>94.6</td> <td rowspan="2">集計中</td> </tr> <tr> <td>全日</td> <td>91.9</td> <td>89.3</td> <td>93.0</td> <td>93.1</td> <td>94.9</td> </tr> </tbody> </table> 特殊疾病患者受入数 (単位：件) <table border="1"> <thead> <tr> <th>疾病名</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>重症熱傷</td> <td>4</td> <td>7</td> <td>14</td> <td>12</td> <td>12</td> <td rowspan="5">実施集計中</td> </tr> <tr> <td>重症外傷</td> <td>249</td> <td>293</td> <td>368</td> <td>446</td> <td>539</td> </tr> <tr> <td>急性中毒</td> <td>2</td> <td>5</td> <td>18</td> <td>18</td> <td>18</td> </tr> <tr> <td>病院外心停止</td> <td>127</td> <td>202</td> <td>210</td> <td>207</td> <td>207</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>382</td> <td>507</td> <td>610</td> <td>683</td> <td>776</td> </tr> </tbody> </table> ドクターカー出動状況 (単位：件) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>件数</td> <td>2</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>7</td> <td>10</td> <td>3</td> </tr> </tbody> </table> ・ドクターカー協定書締結状況 ・H26 静岡市 ・H27 富士市、富士宮市 ・H28 静岡市消防局の管轄区域が3市2町に拡大 静岡市、島田市、牧之原市、吉田町 川根本町 ・H29 志太消防本部と協議（焼津市、藤枝市）	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	当番日	97.4	94.2	97.1	96.5	94.6	集計中	全日	91.9	89.3	93.0	93.1	94.9	疾病名	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	重症熱傷	4	7	14	12	12	実施集計中	重症外傷	249	293	368	446	539	急性中毒	2	5	18	18	18	病院外心停止	127	202	210	207	207	計	382	507	610	683	776	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	件数	2	4	4	7	10	3	A ドクターカーの出動出動状況は、現場での救命救急措置が必要とされる状況が発生し、消から要請があった場合に限られるため、年度ごとに変動が大きいですが、要請を受けた場合は、迅速に対応できている。出動可能な市町は5市2町となっており、広範囲をカバーしている。	・H30上半期は、当番日における救急搬送の受入において97.1%の受入率であり、体制が維持されている。（受入不可の例：外科当番日に内科系の患者搬送希望があった場合等） ・厚生労働省が実施する「救命救急センターの充実段階評価」では、平成26年から最も良い評価であるA評価を継続 ・上半期のドクヘリ搬送患者は23人であり、重症度の高い患者の受入件数も年々増加しており、診療体制が維持できている
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末																																																																						
当番日	97.4	94.2	97.1	96.5	94.6	集計中																																																																						
全日	91.9	89.3	93.0	93.1	94.9																																																																							
疾病名	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末																																																																						
重症熱傷	4	7	14	12	12	実施集計中																																																																						
重症外傷	249	293	368	446	539																																																																							
急性中毒	2	5	18	18	18																																																																							
病院外心停止	127	202	210	207	207																																																																							
計	382	507	610	683	776																																																																							
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末																																																																						
件数	2	4	4	7	10	3																																																																						

第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

年度計画	No.	行動計画	業務の実績	30年度9月末実績 自己評価		医療政策課確認・評価																																																								
				説明																																																										
県立こころの医療センター診療事業 県内精神医療の中核病院として、総合的・専門的な精神科医療を提供するとともに、精神科救急・急性期医療や、他の医療機関では対応困難な治療の実施及び司法精神医療の充実を図る。 県民に提供する医療<業務の予定量> 病床数 280床 精神病床 280床 外来患者 38,942人 入院患者 55,956人	-	-	-	-	-	-																																																								
精神科救急・急性期医療の提供体制の充実 ①救急患者が常時受け入れ可能な体制の整備及び新たな入院患者の早期退院を支援する精神科救急・急性期医療の提供体制の整備 ②24時間365日精神科救急医療相談に対応可能な体制の整備	38	①②・24時間体制で精神科救急医療相談に応じ患者を受入れるとともに、新たな入院患者が90日以内に退院し社会復帰できるよう支援する精神科救急・急性期医療の提供体制の整備を図る。	・県内全域を対象とする「精神科救急ダイヤル」を敷設し、24時間体制で救急医療相談に対応した。 ・当センター広報誌「ぬくもり」への掲載頻度を増やし、広報に努めた。 ・当センターホームページに「精神科救急ダイヤル」に関する情報を掲載し周知を図った。 精神科救急ダイヤル件数 (単位:件) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>全相談件数</td> <td>2,462</td> <td>2,605</td> <td>4,174</td> <td>3,956</td> <td>3,020</td> <td>1,069</td> </tr> <tr> <td>うち時間外</td> <td>1,967</td> <td>2,049</td> <td>3,174</td> <td>2,082</td> <td>2,365</td> <td>861</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	全相談件数	2,462	2,605	4,174	3,956	3,020	1,069	うち時間外	1,967	2,049	3,174	2,082	2,365	861	A-	24時間体制で精神科救急医療相談に応じ、新たな入院患者が早期退院し社会復帰できるよう精神科救急・急性期医療の提供体制の整備に努めているが、救急ダイヤル件数は減少傾向にある。	・県内全域を対象とした精神科救急ダイヤルを24時間体制で運用しており、時間外の相談件数の比率が増加している。 ・過去に著しく利用頻度の高かった特定の相談者の入院により、H29年10月から減少しており、この影響は、30年4月～9月までの実績にも表れている。																																			
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末																																																								
全相談件数	2,462	2,605	4,174	3,956	3,020	1,069																																																								
うち時間外	1,967	2,049	3,174	2,082	2,365	861																																																								
	39	①・新たな入院患者が90日以内に退院できるよう促進し、精神科救急入院料の施設基準を維持する。	早期治療、早期退院の実践により、救急病棟（南2）、急性期治療病棟（北2）における「新規患者率」、「新規患者3ヶ月以内在院移行率」はそれぞれの施設基準を満たしている。 新規患者率 (単位:%) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>施設基準</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>救急 南2</td> <td>80%以上</td> <td>77.4</td> <td>72.6</td> <td>71.8</td> <td>79.2</td> <td>72.6</td> <td>71.1</td> </tr> <tr> <td>救急 北2</td> <td>80%以上</td> <td>68.0</td> <td>70.9</td> <td>68.6</td> <td>76.4</td> <td>74.7</td> <td>77.9</td> </tr> </tbody> </table> 新規患者3ヶ月以内在院移行率 (単位:%) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>施設基準</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>救急 南2</td> <td>60%以上</td> <td>82.0</td> <td>77.6</td> <td>68.9</td> <td>81.2</td> <td>72.9</td> <td>76.8</td> </tr> <tr> <td>救急 北2</td> <td>60%以上</td> <td>78.0</td> <td>82.4</td> <td>85.5</td> <td>82.3</td> <td>87.4</td> <td>86.8</td> </tr> </tbody> </table>	区分	施設基準	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	救急 南2	80%以上	77.4	72.6	71.8	79.2	72.6	71.1	救急 北2	80%以上	68.0	70.9	68.6	76.4	74.7	77.9	区分	施設基準	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	救急 南2	60%以上	82.0	77.6	68.9	81.2	72.9	76.8	救急 北2	60%以上	78.0	82.4	85.5	82.3	87.4	86.8	A	精神科救急入院料の施設基準を維持するため、新規入院患者が90日以内に退院できるよう早期退院を促進している。	・引き続き、南2・北2病棟では精神科救急入院料を算定できる施設基準：新規患者3ヶ月以内在宅移行率60%を大幅に上回るとともに、新規患者率も70%（基準：40%以上）を達成しており、早期退院の促進が図られている。								
区分	施設基準	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末																																																							
救急 南2	80%以上	77.4	72.6	71.8	79.2	72.6	71.1																																																							
救急 北2	80%以上	68.0	70.9	68.6	76.4	74.7	77.9																																																							
区分	施設基準	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末																																																							
救急 南2	60%以上	82.0	77.6	68.9	81.2	72.9	76.8																																																							
救急 北2	60%以上	78.0	82.4	85.5	82.3	87.4	86.8																																																							
他の医療機関では対応困難な精神疾患患者に対する高度医療への積極的な取組 ①高度医療（クロザピン、m-ECT（修正型電気けいれん療法）、心理・社会的治療（心理教育、家族教室等））への取組	40	①・薬物療法による治療効果が低い重症患者に対する治療法として、m-ECT（修正型電気けいれん療法）を積極的に実施する。	・H30.9月末実績 H21年7月から開始したm-ECTの治療を本年度も継続して積極的に実施している。 m-ECT実施件数 (単位:人) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>延件数(件)</td> <td>578</td> <td>836</td> <td>596</td> <td>605</td> <td>693</td> <td>415</td> </tr> <tr> <td>実患者数</td> <td>56</td> <td>68</td> <td>53</td> <td>54</td> <td>60</td> <td>40</td> </tr> <tr> <td>中部地区</td> <td>53</td> <td>61</td> <td>47</td> <td>51</td> <td>54</td> <td>35</td> </tr> <tr> <td>(静岡市)</td> <td>36</td> <td>50</td> <td>32</td> <td>43</td> <td>40</td> <td>26</td> </tr> <tr> <td>東部地区</td> <td>1</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>西部地区</td> <td>1</td> <td>3</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>3</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	延件数(件)	578	836	596	605	693	415	実患者数	56	68	53	54	60	40	中部地区	53	61	47	51	54	35	(静岡市)	36	50	32	43	40	26	東部地区	1	3	4	2	3	1	西部地区	1	3	1	1	3	4	その他	1	1	1	0	0	0	A	薬物療法による治療効果が低い重症患者に対する治療法として、精神科医療では高度医療とされるm-ECT（修正型電気けいれん療法）を積極的に実施しており、実施件数は前年度から増加見込みである。	・継続して薬物療法の治療効果が低い重症患者に対して、m-ECT（修正型電気けいれん療法）の実績は前年度を上回る水準である上、県東部・西部からの患者にも広く対応しており、他の医療機関では対応困難な高度医療に積極的に取り組んでいる。
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末																																																								
延件数(件)	578	836	596	605	693	415																																																								
実患者数	56	68	53	54	60	40																																																								
中部地区	53	61	47	51	54	35																																																								
(静岡市)	36	50	32	43	40	26																																																								
東部地区	1	3	4	2	3	1																																																								
西部地区	1	3	1	1	3	4																																																								
その他	1	1	1	0	0	0																																																								

第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

年度計画	No.	行動計画	業務の実績	30年度9月末実績 自己評価		医療政策課確認・評価																																			
				説明																																					
	41	①・先端薬物療法（クロザピンなど）を積極的に実施する。	<p>こころ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・H30.9月末実績 H23年度に作成したクリニカルパスに基づき治療を開始し、H30年9月末までに53名の患者に投与しており、現在41名に対して継続投与中である。 ・クロザピンによる治療体制が整い、H22年4月27日、クロザピル適正使用委員会において、C PMS（クロザピル患者モニタリングサービス）登録機関として承認された。 ・静岡県内では、浜松医科大学医学部付属病院、聖隷三方原病院に次いで3番目の登録である。 <table border="1"> <caption>クロザピン投与患者数 (単位:人)</caption> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>患者数</td> <td>13</td> <td>25</td> <td>32</td> <td>39</td> <td>44</td> <td>53</td> </tr> </tbody> </table>	項目	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	患者数	13	25	32	39	44	53	A	<p>他の医療機関では対応困難な難治性の統合失調症に高い効果を示す先端薬物療法を積極的に実施している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に先端薬物療法（クロザピン）を実施しており、開始以降の使用実績が53人中現在も41人の患者に継続して投与しており、他の医療機関では対応困難な高度医療に積極的に取り組んでいる。 <p>※県内でクロザピンを導入しているのは8病院（うち2病院は外来のみ）</p>																					
項目	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末																																			
患者数	13	25	32	39	44	53																																			
	42	①・心理・社会的治療についての取組を積極的に実施する。	<p>こころ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・H30.9月末実績 H22年度から取組を始めた認知行動療法プロジェクトを、心理・社会的治療プロジェクトに発展し、認知行動療法に加え、新たに心理教育・家族教室への取り組みを実施している。 また、心理教育に関する院内外研修会を開催し、スタッフのレベルアップに努めている。 ・第2期中期目標期間（H26～30） 入院・外来患者心理教室8クール開催 参加者延230名（H30.3.31現在） <table border="1"> <caption>心理教育参加者数 (単位:人)</caption> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>参加者数</td> <td>34</td> <td>54</td> <td>172</td> <td>206</td> <td>230</td> <td>128</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <caption>心理教育研修会参加者数 (単位:人)</caption> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>参加者数</td> <td>41</td> <td>162</td> <td>66</td> <td>142</td> <td>155</td> <td>59</td> </tr> </tbody> </table>	項目	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	参加者数	34	54	172	206	230	128	項目	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	参加者数	41	162	66	142	155	59	A	<p>薬物療法に頼らない有効な治療の一環として、心理・社会的治療についての取組を積極的に実施している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・心理教育研修会の参加スタッフ全職種を対象としており、デモンストレーションやグループワーク等により、心理教育の振り返りとクライシスプランへのつながりに寄与している。 							
項目	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末																																			
参加者数	34	54	172	206	230	128																																			
項目	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末																																			
参加者数	41	162	66	142	155	59																																			
<p>○多職種チームによる包括的在宅医療支援体制の構築 ①入院患者が早期に退院し、地域で安心して生活できるようになるための、多職種チームによる包括的在宅医療支援体制の構築</p>	43	①・在宅医療支援部を中心とした包括的在宅ケア（ACT）チームによる退院支援と手厚い24時間365日サポート体制による退院後の地域生活を支援する。	<p>こころ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・H21年度に作成したガイドラインに沿って、ACTによる支援を実施している。 H22年2月の支援開始以来延べ23名の支援活動を実施し、うち11名は安定した在宅生活に移行したため支援終了、1名は転院により支援終了、2名は死亡により終了。 H30年9月末現在、外来患者8名、入院患者1名の支援を継続している。 <table border="1"> <caption>ACT実施状況</caption> <thead> <tr> <th></th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">対象者</td> <td>外来</td> <td>6人</td> <td>6人</td> <td>5人</td> <td>7人</td> <td>9人</td> <td>8人</td> </tr> <tr> <td>入院</td> <td>2人</td> <td>1人</td> <td>2人</td> <td>0人</td> <td>0人</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">活動状況</td> <td>外来</td> <td colspan="5">多職種による定期訪問、ケースカンファレンス</td> </tr> <tr> <td>入院</td> <td colspan="5">多職種による退院前訪問、ケースカンファレンス</td> </tr> </tbody> </table>		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	対象者	外来	6人	6人	5人	7人	9人	8人	入院	2人	1人	2人	0人	0人	1人	活動状況	外来	多職種による定期訪問、ケースカンファレンス					入院	多職種による退院前訪問、ケースカンファレンス					A	<p>在宅医療支援部を中心とした包括的在宅ケア（ACT）チームによる退院支援と手厚い24時間365日サポート体制により退院後の地域生活を支援している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・包括的在宅ケア（ACT）チームによる退院支援と手厚い24時間365日サポート体制により、外来患者8名、入院患者1名への支援を継続して実施している。 <p>※県内ではこころの医療センターと浜松市の1施設、計2施設で実施。対外的にアピールしていくことが今後の課題。</p>
	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末																																			
対象者	外来	6人	6人	5人	7人	9人	8人																																		
	入院	2人	1人	2人	0人	0人	1人																																		
活動状況	外来	多職種による定期訪問、ケースカンファレンス																																							
	入院	多職種による退院前訪問、ケースカンファレンス																																							
<p>○医療観察法等の司法精神医療への積極的な関与 ①「心身喪失等の状態で重大な他害行為を行った者の医療及び観察等に関する法律」の司法精神医療への、指定医療機関としての積極的な関与</p>	44	①・医療観察法による入院処遇対象者を受け入れ、指定医療機関としての機能を最大限に発揮する。	<p>こころ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・H30.9月末実績 ・H21年8月より指定入院医療機関として2床で運用を開始、H23年3月末には12床への増床が完了した。 ・増床完了後対象患者の受入が進んだ結果、H23年8月以降ほぼ満床の状態が続いており、高い利用率で推移している。 <table border="1"> <caption>医療観察法病棟の後働状況 (単位:床・%)</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>病床数(床)</td> <td>12</td> <td>12</td> <td>12</td> <td>12</td> <td>12</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>病床利用率(%)</td> <td>94.1</td> <td>97.3</td> <td>97.4</td> <td>99.1</td> <td>96.9</td> <td>99.1</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	病床数(床)	12	12	12	12	12	12	病床利用率(%)	94.1	97.3	97.4	99.1	96.9	99.1	A	<p>年間を通じて満床に近い状態が続いており、医療観察法指定医療機関としての機能を最大限に発揮している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・99.1%と高い病床利用率であり、医療観察法の指定医療機関としての体制が維持されている。 														
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末																																			
病床数(床)	12	12	12	12	12	12																																			
病床利用率(%)	94.1	97.3	97.4	99.1	96.9	99.1																																			

第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

年度計画	No.	行動計画	業務の実績	30年度9月末実績 自己評価		医療政策課確認・評価																																																																																																																													
				説明																																																																																																																															
I 1 (3) (ウ)	-	-	-	-	-	-																																																																																																																													
I 1 (3) (ウ)	45	<p>①・心臓血管外科、循環器科の連携による専門治療と、術後の集中治療を行うCCUを加えた循環器センターの体制を維持・充実させる。</p> <p>②・新生児科（NICU）・小児集中治療科（PICU）と共同でカンファレンスを実施し、より研修効果をあげ、治療レベルの向上を図る。</p> <p>③・補助人工心臓装置の活用を図る。</p> <p>④・心エコー画像の遠隔診断を継続実施する。</p> <p>⑤・ハイブリッド手術の小児への適用症例拡大を検討する。</p>	<p>・H28年に設置した循環器病棟に準重症患者対応病室は、順調に運用されている。</p> <p>・H29年1月に自治体立病院では全国初、小児専門病院では全国2番目となる小児用補助人工心臓を導入し、現在も稼働中である。</p> <p>CCU稼働率 (単位:人、%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>入院延患者数</td> <td>3,307</td> <td>3,553</td> <td>3,745</td> <td>3,297</td> <td>2,939</td> <td>1,503</td> </tr> <tr> <td>病床稼働率</td> <td>90.6</td> <td>87.2</td> <td>85.3</td> <td>87.4</td> <td>80.5</td> <td>82.1</td> </tr> </tbody> </table> <p>心臓カテーテル治療実績 (単位:件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実施件数</td> <td>121</td> <td>133</td> <td>156</td> <td>170</td> <td>200</td> <td>86</td> </tr> </tbody> </table> <p>ハイブリッド手術実績 (単位:件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>件数</td> <td>-</td> <td>6</td> <td>12</td> <td>12</td> <td>6</td> <td>4</td> </tr> </tbody> </table> <p>心エコー画像遠隔診断実績 (単位:件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>施設数</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>症例数</td> <td>15</td> <td>9</td> <td>7</td> <td>5</td> <td>7</td> <td>5</td> </tr> </tbody> </table>	区 分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	入院延患者数	3,307	3,553	3,745	3,297	2,939	1,503	病床稼働率	90.6	87.2	85.3	87.4	80.5	82.1	区 分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	実施件数	121	133	156	170	200	86	区 分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	件数	-	6	12	12	6	4	区 分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	施設数	4	4	4	4	4	4	症例数	15	9	7	5	7	5	<p>・心臓血管外科、循環器科の連携による専門治療と、術後の集中治療を行うCCUを加えた循環器センターの体制を維持・充実により、多くの小児重症心疾患患者を受け入れている。</p> <p>・準重症患者対応病室を設置し、小児重症心疾患患者を受け入れる体制の拡充を図り、順調に運用している。</p> <p>・H28年度に導入した小児用補助人工心臓は現在も稼働中である。</p> <p>・ハイブリッド手術室では手術を行い実績を重ねるとともに、心臓カテーテル治療件数も順調に推移している。</p>	<p>・自治体立病院では全国初、小児専門病院では2番目となる小児用補助人工心臓の導入、全国初となる小児循環器集中治療専門医を配置したCCU、カテーテル治療、遠隔エコー診断等、高水準な受入体制を維持し、小児重症心疾患患者に高い技術で対応している。</p> <p>※映像情報システムの活用についてはNo.93参照</p>																																																								
区 分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末																																																																																																																													
入院延患者数	3,307	3,553	3,745	3,297	2,939	1,503																																																																																																																													
病床稼働率	90.6	87.2	85.3	87.4	80.5	82.1																																																																																																																													
区 分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末																																																																																																																													
実施件数	121	133	156	170	200	86																																																																																																																													
区 分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末																																																																																																																													
件数	-	6	12	12	6	4																																																																																																																													
区 分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末																																																																																																																													
施設数	4	4	4	4	4	4																																																																																																																													
症例数	15	9	7	5	7	5																																																																																																																													
地域医療機関と連携したハイリスク胎児・妊婦を早期に把握、治療するための一貫した医療システムの維持・充実と新生児に対しての高度な専門的治療を提供する体制の拡充	46	<p>①・地域の産科医療機関との前方・後方連携を更に強化、症例検討会・研修会を通じ産科医の診断能力向上を図る。</p> <p>②・最新式の超音波診断装置を導入する。</p> <p>③・必要に応じNICU内での手術を継続実施する。</p>	<p>周産期医療に係る地域医療機関向け研修会等開催実績 (単位:回、人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>研修会等回数</td> <td>6</td> <td>6</td> <td>14</td> <td>10</td> <td>9</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>参加者数</td> <td>188</td> <td>158</td> <td>743</td> <td>637</td> <td>439</td> <td>50</td> </tr> </tbody> </table> <p>NICU診療実績 (単位:人、%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>入院延患者数</td> <td>5,444</td> <td>5,410</td> <td>5,927</td> <td>6,411</td> <td>6,311</td> <td>2,861</td> </tr> <tr> <td>病床稼働率</td> <td>99.4</td> <td>98.8</td> <td>95.3</td> <td>97.6</td> <td>96.1</td> <td>86.9</td> </tr> </tbody> </table> <p>GCU診療実績 (単位:人、%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>入院延患者数</td> <td>5,014</td> <td>4,863</td> <td>4,679</td> <td>4,855</td> <td>4,536</td> <td>2,147</td> </tr> <tr> <td>病床稼働率</td> <td>76.3</td> <td>74.0</td> <td>71.0</td> <td>73.9</td> <td>69.0</td> <td>65.2</td> </tr> </tbody> </table> <p>MFICU診療実績 (単位:人、%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>入院延患者数</td> <td>2,095</td> <td>2,087</td> <td>2,098</td> <td>2,007</td> <td>2,068</td> <td>920</td> </tr> <tr> <td>病床稼働率</td> <td>95.7</td> <td>95.3</td> <td>95.5</td> <td>91.6</td> <td>94.4</td> <td>83.8</td> </tr> </tbody> </table> <p>新生児出生体重別入院患者実績 (単位:人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>体重(g)</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>500未満</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>7</td> <td>3</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>500~1,000</td> <td>33</td> <td>48</td> <td>26</td> <td>36</td> <td>28</td> <td>22</td> </tr> <tr> <td>1,000~1,500</td> <td>48</td> <td>44</td> <td>36</td> <td>22</td> <td>28</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td>1,500以上</td> <td>166</td> <td>148</td> <td>160</td> <td>144</td> <td>143</td> <td>60</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>250</td> <td>242</td> <td>225</td> <td>209</td> <td>202</td> <td>94</td> </tr> </tbody> </table> <p>・NICU内の手術は、H25年度に3件、H26年度に3件を行った。</p>	区 分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	研修会等回数	6	6	14	10	9	2	参加者数	188	158	743	637	439	50	区 分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	入院延患者数	5,444	5,410	5,927	6,411	6,311	2,861	病床稼働率	99.4	98.8	95.3	97.6	96.1	86.9	区 分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	入院延患者数	5,014	4,863	4,679	4,855	4,536	2,147	病床稼働率	76.3	74.0	71.0	73.9	69.0	65.2	区 分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	入院延患者数	2,095	2,087	2,098	2,007	2,068	920	病床稼働率	95.7	95.3	95.5	91.6	94.4	83.8	体重(g)	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	500未満	3	2	3	7	3	1	500~1,000	33	48	26	36	28	22	1,000~1,500	48	44	36	22	28	11	1,500以上	166	148	160	144	143	60	合計	250	242	225	209	202	94	<p>・地域医療機関を対象とした研修会、検討会を定期的に開催し、地域の周産期医療のレベルアップを図っている。</p> <p>・NICUの入院延患者数は一定の水準にある。</p> <p>・他の医療機関では対応が困難な超低出生体重児、極低出生体重児を数多く受け入れている。</p> <p>・H30年9月には、これまでの産科医療への貢献が認められ、産科医療功労者厚生労働大臣表彰を受けた。</p>	<p>・引き続き、NICU、GCU、MFICU等の診療実績より、ハイリスク出産に対応可能な体制が維持できている。</p> <p>・近隣公的病院の産婦人科で、分娩制限、分娩休止がなされている中で、ハイリスク胎児・妊婦の受け入れ先となっている。</p> <p>・大動脈狭窄症を発症した超低出生体重児（1,000g未満）に対するカテーテル治療を国内で初めて成功させ救命した。</p> <p>・総合周産期母子医療センターの指定から10年が経過し、周産期医療への実績や講習会の開催による地域医療への貢献が評価され、厚生労働大臣表彰を受けた。</p>
区 分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末																																																																																																																													
研修会等回数	6	6	14	10	9	2																																																																																																																													
参加者数	188	158	743	637	439	50																																																																																																																													
区 分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末																																																																																																																													
入院延患者数	5,444	5,410	5,927	6,411	6,311	2,861																																																																																																																													
病床稼働率	99.4	98.8	95.3	97.6	96.1	86.9																																																																																																																													
区 分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末																																																																																																																													
入院延患者数	5,014	4,863	4,679	4,855	4,536	2,147																																																																																																																													
病床稼働率	76.3	74.0	71.0	73.9	69.0	65.2																																																																																																																													
区 分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末																																																																																																																													
入院延患者数	2,095	2,087	2,098	2,007	2,068	920																																																																																																																													
病床稼働率	95.7	95.3	95.5	91.6	94.4	83.8																																																																																																																													
体重(g)	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末																																																																																																																													
500未満	3	2	3	7	3	1																																																																																																																													
500~1,000	33	48	26	36	28	22																																																																																																																													
1,000~1,500	48	44	36	22	28	11																																																																																																																													
1,500以上	166	148	160	144	143	60																																																																																																																													
合計	250	242	225	209	202	94																																																																																																																													

第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

年度計画	No.	行動計画	業務の実績	30年度9月末実績 自己評価		医療政策課確認・評価																																																																																											
				説明																																																																																													
小児がん診療の連携拠点病院として、高度な集学的治療への積極的な取組 ①小児がんの集学的治療推進、セカンドオピニオンの受入れなど、静岡県小児がん拠点病院としての機能強化 ②院内がん登録の推進 ③県立静岡がんセンターとの連携強化	47	①②・静岡県小児がん拠点病院として血液腫瘍に対しては、骨髄・末梢血幹細胞・臍帯血移植などの治療法を利用して対応する。 ①②・小児がん連携拠点病院の指定を念頭に置き、診療の更なる充実を図る。 ③・県立静岡がんセンターとの共同カンファレンスを実施する。	<p>血液腫瘍科延患者数実績 (単位:人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>入院</td> <td>7,032</td> <td>6,947</td> <td>9,613</td> <td>8,301</td> <td>7,977</td> <td>4,337</td> </tr> <tr> <td>外来</td> <td>3,645</td> <td>3,396</td> <td>3,533</td> <td>3,691</td> <td>3,711</td> <td>1,860</td> </tr> </tbody> </table> <p>造血幹細胞移植実績 (単位:件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>骨髄移植</td> <td>9</td> <td>9</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>2</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>臍帯血</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>自家末梢血</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>8</td> <td>5</td> <td>7</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>同種末梢血</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>13</td> <td>13</td> <td>13</td> <td>11</td> <td>10</td> <td>7</td> </tr> </tbody> </table> <p>小児がん登録件数 (単位:件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>登録件数</td> <td>12</td> <td>57</td> <td>46</td> <td>61</td> <td>58</td> <td>45</td> </tr> </tbody> </table> <p>・概ね2ヶ月に1回県立静岡がんセンターとの共同カンファレンスを実施した。</p>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	入院	7,032	6,947	9,613	8,301	7,977	4,337	外来	3,645	3,396	3,533	3,691	3,711	1,860	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	骨髄移植	9	9	4	4	2	1	臍帯血	1	1	0	2	1	1	自家末梢血	2	2	8	5	7	4	同種末梢血	1	1	1	0	0	1	計	13	13	13	11	10	7	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	登録件数	12	57	46	61	58	45	A	<p>・静岡県小児がん拠点病院として、県内小児がん患者の半数以上を受入れ、固形がんについても脳神経外科等との連携のもと対応している。 ・県立静岡がんセンターとの共同カンファレンスを行い、連携を図っている。</p>	<p>・県内唯一の小児がん拠点病院として、県内の小児がん患者を受け入れ、造血幹細胞移植など高度な集学的治療に積極的に取り組んでいる。</p>														
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末																																																																																											
入院	7,032	6,947	9,613	8,301	7,977	4,337																																																																																											
外来	3,645	3,396	3,533	3,691	3,711	1,860																																																																																											
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末																																																																																											
骨髄移植	9	9	4	4	2	1																																																																																											
臍帯血	1	1	0	2	1	1																																																																																											
自家末梢血	2	2	8	5	7	4																																																																																											
同種末梢血	1	1	1	0	0	1																																																																																											
計	13	13	13	11	10	7																																																																																											
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末																																																																																											
登録件数	12	57	46	61	58	45																																																																																											
24時間を通して重篤な小児救急患者を受け入れる体制の維持及び地域で不足する小児救急医療体制の補完等、小児救急医療のモデルとなる体制整備 ①院内各専門領域のバックアップによる、小児救急センター・小児集中治療センターを中心とした小児救急医療全般にわたる受入体制の強化、拡充 ②小児救命救急センターとしてメディカルコントロール体制整備への協力 ③小児救急専門スタッフの教育の充実	48	①・PICU（小児集中治療センター）・救急総合診療科を中心として小児救急医療体制の強化を図る。 ①・小児救急センター・小児集中治療センターを中心とした、365日24時間小児救急患者の受入可能な体制を維持、充実させる。 ③・院内の小児救急専門スタッフ（医師、看護師）育成に努める。	<p>PICU診療実績 (単位:人、%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>入院延患者数</td> <td>2,568</td> <td>2,502</td> <td>2,565</td> <td>2,462</td> <td>2,390</td> <td>1,258</td> </tr> <tr> <td>病床稼働率</td> <td>84.9</td> <td>85.4</td> <td>87.6</td> <td>84.3</td> <td>81.8</td> <td>85.9</td> </tr> </tbody> </table> <p>ER診療実績 (単位:人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>入院患者数</td> <td>1,424</td> <td>1,734</td> <td>1,716</td> <td>1,338</td> <td>1,299</td> <td>675</td> </tr> <tr> <td>外来患者数</td> <td>3,995</td> <td>4,792</td> <td>4,949</td> <td>4,170</td> <td>4,110</td> <td>2,095</td> </tr> </tbody> </table> <p>ドクターヘリ搬送実績 (単位:回)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>回数</td> <td>56</td> <td>70</td> <td>45</td> <td>35</td> <td>34</td> <td>17</td> </tr> </tbody> </table> <p>ドクターカー出動実績 (単位:回)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>回数</td> <td>369</td> <td>313</td> <td>291</td> <td>298</td> <td>268</td> <td>137</td> </tr> </tbody> </table> <p>PICU配置医師・看護師 (単位:人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医師(有期含む)</td> <td>14</td> <td>14</td> <td>12</td> <td>9</td> <td>11</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>看護師</td> <td>32</td> <td>34</td> <td>31</td> <td>30</td> <td>32</td> <td>31</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	入院延患者数	2,568	2,502	2,565	2,462	2,390	1,258	病床稼働率	84.9	85.4	87.6	84.3	81.8	85.9	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	入院患者数	1,424	1,734	1,716	1,338	1,299	675	外来患者数	3,995	4,792	4,949	4,170	4,110	2,095	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	回数	56	70	45	35	34	17	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	回数	369	313	291	298	268	137	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	医師(有期含む)	14	14	12	9	11	10	看護師	32	34	31	30	32	31	A	<p>・小児救命救急センターの指定を受けているPICUと小児救急センターを中心に、24時間365日を通して、軽症から重症まで小児救急患者を多く受け入れている。 ・ER開設以降、富士富士宮、志太榛原等の救急患者が増加しており、地域で不足する小児救急体制を補完している。 ・PICU病棟に専門スタッフを配置し、小児救急体制の充実を図っている。</p>	<p>・PICUとERの診療実績は昨年度を若干上回る見込み。 ・24時間365日小児重症患者を受け入れることができる体制を継続して維持しており、ドクターカーやドクターヘリを活用した搬送にも対応している。</p>
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末																																																																																											
入院延患者数	2,568	2,502	2,565	2,462	2,390	1,258																																																																																											
病床稼働率	84.9	85.4	87.6	84.3	81.8	85.9																																																																																											
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末																																																																																											
入院患者数	1,424	1,734	1,716	1,338	1,299	675																																																																																											
外来患者数	3,995	4,792	4,949	4,170	4,110	2,095																																																																																											
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末																																																																																											
回数	56	70	45	35	34	17																																																																																											
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末																																																																																											
回数	369	313	291	298	268	137																																																																																											
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末																																																																																											
医師(有期含む)	14	14	12	9	11	10																																																																																											
看護師	32	34	31	30	32	31																																																																																											
	49	②・地域の医療・消防機関で構成されるメディカルコントロール協議会に参加するとともに、PICUの主催により、救急医療・救急（消防）業務従事者向けの研究会、実習講習を行う。	<p>各地域の医療機関、消防機関が参加するメディカルコントロール協議会に当院も参加した。</p> <p>救急関係研修会等開催実績 (単位:人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>対象</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小児救命救急研究会</td> <td>小児医療、救急医療関係者</td> <td>193</td> <td>210</td> <td>155</td> <td>150</td> <td>135</td> <td>83</td> </tr> <tr> <td>救急救命士再教育病院実習</td> <td>救急救命士</td> <td>12</td> <td>9</td> <td>2</td> <td>6</td> <td>10</td> <td>4</td> </tr> </tbody> </table>	区分	対象	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	小児救命救急研究会	小児医療、救急医療関係者	193	210	155	150	135	83	救急救命士再教育病院実習	救急救命士	12	9	2	6	10	4	A	<p>救急隊員を対象とした研修会等を定期的に開催し、県下の小児救急医療の質の向上を図っている。</p>	<p>・引き続き、地域のメディカルコントロール協議会に参加するほか、医療関係者を対象とした研修及び救急救命士を対象とした研修等を定期的に開催することで関係者のスキルアップに努めている。</p>																																																																			
区分	対象	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末																																																																																										
小児救命救急研究会	小児医療、救急医療関係者	193	210	155	150	135	83																																																																																										
救急救命士再教育病院実習	救急救命士	12	9	2	6	10	4																																																																																										

第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

年度計画	No.	行動計画	業務の実績	30年度9月末実績 自己評価		医療政策課確認・評価																																																																												
				説明																																																																														
子どものこころの診療分野の県内における中核的機能の発揮 ①子どもの精神科専門病棟を有する子ども病院としての強みを発揮 ②「子どもの心の診療ネットワーク事業」の拠点病院として、教育・福祉・医療機関の連携ネットワークの更なる拡大、充実 ③臨床研修の充実による児童精神科医の継続的育成	50	①・県内の児童精神科医療の中核機関としての治療の充実と、必要に応じ、身体疾患を有する患者に対し当該担当科と連携して治療する。	子どものこころの診療科診療実績 (単位：人) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>入院延患者数</td> <td>10,688</td> <td>10,546</td> <td>9,455</td> <td>10,086</td> <td>10,864</td> <td>4,884</td> </tr> <tr> <td>入院新患者数</td> <td>54</td> <td>44</td> <td>54</td> <td>54</td> <td>58</td> <td>29</td> </tr> <tr> <td>外来延患者数</td> <td>12,188</td> <td>12,331</td> <td>12,532</td> <td>12,311</td> <td>12,607</td> <td>6,160</td> </tr> <tr> <td>外来初診患者数</td> <td>521</td> <td>540</td> <td>492</td> <td>477</td> <td>502</td> <td>226</td> </tr> </tbody> </table> こころの診療科地域別実患者数実績 (単位：人) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>東部</td> <td>671</td> <td>715</td> <td>732</td> <td>755</td> <td>766</td> <td>656</td> </tr> <tr> <td>中部</td> <td>1,010</td> <td>1,034</td> <td>1,094</td> <td>1,077</td> <td>1,157</td> <td>992</td> </tr> <tr> <td>西部</td> <td>52</td> <td>53</td> <td>52</td> <td>54</td> <td>59</td> <td>52</td> </tr> <tr> <td>県外</td> <td>11</td> <td>11</td> <td>7</td> <td>10</td> <td>15</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>1,744</td> <td>1,813</td> <td>1,885</td> <td>1,896</td> <td>1,997</td> <td>1,707</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	入院延患者数	10,688	10,546	9,455	10,086	10,864	4,884	入院新患者数	54	44	54	54	58	29	外来延患者数	12,188	12,331	12,532	12,311	12,607	6,160	外来初診患者数	521	540	492	477	502	226	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	東部	671	715	732	755	766	656	中部	1,010	1,034	1,094	1,077	1,157	992	西部	52	53	52	54	59	52	県外	11	11	7	10	15	7	合計	1,744	1,813	1,885	1,896	1,997	1,707	A 中部地域だけでなく、児童精神科の医療機関が少ない東部地域からも多くの患者を受け入れた。	・入院・外来ともに減少する見込みである。東部地域からの患者数も4割近い数字にのぼっており、県内児童精神科医療の中核機関としての役割を果たしている。
	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末																																																																											
	入院延患者数	10,688	10,546	9,455	10,086	10,864	4,884																																																																											
入院新患者数	54	44	54	54	58	29																																																																												
外来延患者数	12,188	12,331	12,532	12,311	12,607	6,160																																																																												
外来初診患者数	521	540	492	477	502	226																																																																												
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末																																																																												
東部	671	715	732	755	766	656																																																																												
中部	1,010	1,034	1,094	1,077	1,157	992																																																																												
西部	52	53	52	54	59	52																																																																												
県外	11	11	7	10	15	7																																																																												
合計	1,744	1,813	1,885	1,896	1,997	1,707																																																																												
51	②・厚生労働省の「子どもの心の診療ネットワーク事業」に静岡県拠点病院として参加する。	こども 事業を行っている全国18都府県1政令指定都市にある25の拠点病院の一つとして参加し、学校・地域との連携強化を図った。 (拠点病院を配置している都府県等) 岩手県、東京都、石川県、山梨県、長野県、静岡県、三重県、大阪府、兵庫県、鳥取県、島根県、岡山県、香川県、福岡県、佐賀県、大分県、熊本県、沖縄県、札幌市 精神保健講座等開催実績 <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="2">25年度</th> <th colspan="2">26年度</th> <th colspan="2">27年度</th> <th colspan="2">28年度</th> <th colspan="2">29年度</th> <th colspan="2">30年9月末</th> </tr> <tr> <th>精神保健講座</th> <th>児童養護施設巡回</th> <th>精神保健講座</th> <th>児童養護施設巡回</th> <th>精神保健講座</th> <th>児童養護施設巡回</th> <th>精神保健講座</th> <th>児童養護施設巡回</th> <th>精神保健講座</th> <th>児童養護施設巡回</th> <th>精神保健講座</th> <th>児童養護施設巡回</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>対象</td> <td>県内小中子ども</td> <td>県内小中子ども</td> <td>県内小中子ども</td> <td>県内小中子ども</td> <td>県内小中子ども</td> <td>県内小中子ども</td> <td>県内小中子ども</td> <td>県内小中子ども</td> <td>県内小中子ども</td> <td>県内小中子ども</td> <td>県内小中子ども</td> <td>県内小中子ども</td> </tr> <tr> <td></td> <td>学校教諭・家族</td> <td>学校教諭・家族</td> <td>学校教諭・家族</td> <td>学校教諭・家族</td> <td>学校教諭・家族</td> <td>学校教諭・家族</td> <td>学校教諭・家族</td> <td>学校教諭・家族</td> <td>学校教諭・家族</td> <td>学校教諭・家族</td> <td>学校教諭・家族</td> <td>学校教諭・家族</td> </tr> <tr> <td>参加者数等</td> <td>5回</td> <td>16回</td> <td>5回</td> <td>20回</td> <td>5回</td> <td>22回</td> <td>5回</td> <td>10回</td> <td>5回</td> <td>11回</td> <td>3回</td> <td>6回</td> </tr> <tr> <td></td> <td>153人</td> <td>8施設</td> <td>196人</td> <td>10施設</td> <td>166人</td> <td>11施設</td> <td>135人</td> <td>10施設</td> <td>156人</td> <td>11施設</td> <td>110人</td> <td>6施設</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度		26年度		27年度		28年度		29年度		30年9月末		精神保健講座	児童養護施設巡回	精神保健講座	児童養護施設巡回	精神保健講座	児童養護施設巡回	精神保健講座	児童養護施設巡回	精神保健講座	児童養護施設巡回	精神保健講座	児童養護施設巡回	対象	県内小中子ども	県内小中子ども	県内小中子ども	県内小中子ども	県内小中子ども	県内小中子ども	県内小中子ども	県内小中子ども	県内小中子ども	県内小中子ども	県内小中子ども	県内小中子ども		学校教諭・家族	学校教諭・家族	学校教諭・家族	学校教諭・家族	学校教諭・家族	学校教諭・家族	学校教諭・家族	学校教諭・家族	学校教諭・家族	学校教諭・家族	学校教諭・家族	学校教諭・家族	参加者数等	5回	16回	5回	20回	5回	22回	5回	10回	5回	11回	3回	6回		153人	8施設	196人	10施設	166人	11施設	135人	10施設	156人	11施設	110人	6施設	A 急増する子どもの心の問題に関するネットワーク構築のため、学校・地域との連携強化を図り、県内の小児精神保健ネットワークの中核的な役割を果たしている。	・子どもの心の診療ネットワーク推進事業における静岡県の拠点病院として、小中学校教諭を対象とした精神保健講座の開催や、児童擁護施設巡回相談を開催しており、診療実績から県内における中核機関としての役割を發揮していると言える。 (=No. 98)	
区分	25年度			26年度		27年度		28年度		29年度		30年9月末																																																																						
	精神保健講座	児童養護施設巡回	精神保健講座	児童養護施設巡回	精神保健講座	児童養護施設巡回	精神保健講座	児童養護施設巡回	精神保健講座	児童養護施設巡回	精神保健講座	児童養護施設巡回																																																																						
対象	県内小中子ども	県内小中子ども	県内小中子ども	県内小中子ども	県内小中子ども	県内小中子ども	県内小中子ども	県内小中子ども	県内小中子ども	県内小中子ども	県内小中子ども	県内小中子ども																																																																						
	学校教諭・家族	学校教諭・家族	学校教諭・家族	学校教諭・家族	学校教諭・家族	学校教諭・家族	学校教諭・家族	学校教諭・家族	学校教諭・家族	学校教諭・家族	学校教諭・家族	学校教諭・家族																																																																						
参加者数等	5回	16回	5回	20回	5回	22回	5回	10回	5回	11回	3回	6回																																																																						
	153人	8施設	196人	10施設	166人	11施設	135人	10施設	156人	11施設	110人	6施設																																																																						
52	③・児童精神科医の育成に努める。	こども 有期職員医師を1名採用し(H25年度から延べ5名)、専門的な児童精神科医を育成している。 有期職員医師採用実績 (単位：人) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>採用人数</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	採用人数	1	1	1	1	1	1	A 児童精神科臨床研修として有期職員医師を採用し、児童精神科医の育成を行った。	・1名の有期職員医師を採用し、診療やカンファレンスを通じて指導を行い、児童精神科医の育成に努めている。																																																																
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末																																																																												
採用人数	1	1	1	1	1	1																																																																												

第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

年度計画	No.	行動計画	業務の実績	30年度9月末実績 自己評価		医療政策課確認・評価																																										
				説明																																												
1 2 医療に関する技術者(医師、看護師等医療従事者)の研修を通じた育成と質の向上	53	・業務運営に必要な人材の確保に努める。	総合	<p>総合病院正規職員数(医師除く) 各年度4月1日時点(単位:人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>看護師</td> <td>646</td> <td>654</td> <td>678</td> <td>748</td> <td>804</td> <td>790</td> </tr> <tr> <td>医療技術者</td> <td>184</td> <td>196</td> <td>215</td> <td>211</td> <td>208</td> <td>215</td> </tr> <tr> <td>事務</td> <td>38</td> <td>41</td> <td>49</td> <td>51</td> <td>52</td> <td>52</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	看護師	646	654	678	748	804	790	医療技術者	184	196	215	211	208	215	事務	38	41	49	51	52	52	A	<p>人材確保対策本部を設置し、キャラバン隊による県外養成校の訪問や広報活動の強化、看護師就学金貸与制度の拡充等の多岐にわたる新たな取組を導入し、積極的な人材確保に努めた結果、30年度は79名の看護師を確保した。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き看護師確保対策を推進し、必要な看護師数を確保することができている。 医療技術者や事務についてもアソシエイトの選考採用を実施するなど即戦力の確保に努めている。 													
			区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度																																							
看護師	646	654	678	748	804	790																																										
医療技術者	184	196	215	211	208	215																																										
事務	38	41	49	51	52	52																																										
54	・研修医の確保に努める。	総合	<p>初期臨床研修医数 (単位:人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>初期臨床研修医</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1年生</td> <td>19 (2)</td> <td>22 (2)</td> <td>20 (2)</td> <td>21 (2)</td> <td>22(2)</td> <td>24 (3)</td> </tr> <tr> <td>2年生</td> <td>18 (3)</td> <td>18 (2)</td> <td>22 (2)</td> <td>19 (2)</td> <td>21(2)</td> <td>20 (2)</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>37 (5)</td> <td>40 (4)</td> <td>42 (4)</td> <td>40 (4)</td> <td>43 (4)</td> <td>44 (5)</td> </tr> </tbody> </table> <p>※()うち自治医科大学出身者</p> <p>後期臨床研修医数 (単位:人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>後期臨床研修医</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>人数</td> <td>42</td> <td>50</td> <td>54</td> <td>58</td> <td>50</td> <td>46</td> </tr> </tbody> </table>	初期臨床研修医	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	1年生	19 (2)	22 (2)	20 (2)	21 (2)	22(2)	24 (3)	2年生	18 (3)	18 (2)	22 (2)	19 (2)	21(2)	20 (2)	計	37 (5)	40 (4)	42 (4)	40 (4)	43 (4)	44 (5)	後期臨床研修医	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	人数	42	50	54	58	50	46	B	<p>H30年度は初期臨床研修医1年生24名、2年生20名の合計44名を確保した。 H31年度に向けては、初期臨床研修医1年生20名、2年生23名の合計43名を確保しており、今後2次募集等も行う予定。 後期研修医は10月より専門研修プログラムへの登録開始となっており、動向を随時確認している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 新専門医制度における医師確保の取組はNo. 89参照 後期研修後、病院に定着した医師9人、県内他病院1人、県外2人
初期臨床研修医	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度																																										
1年生	19 (2)	22 (2)	20 (2)	21 (2)	22(2)	24 (3)																																										
2年生	18 (3)	18 (2)	22 (2)	19 (2)	21(2)	20 (2)																																										
計	37 (5)	40 (4)	42 (4)	40 (4)	43 (4)	44 (5)																																										
後期臨床研修医	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度																																										
人数	42	50	54	58	50	46																																										
		こころ	<p>後期研修医数 (単位:人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>人数</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>2</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	人数	3	2	2	4	4	2	A	<p>研修医については、計画どおり受け入れている。 新専門医制度の研修プログラムによる研修を行っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 後期研修後、病院に定着した医師2人(研修期間中の採用)、当院で研修継続中1人、県外病院採用1人 																												
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度																																										
人数	3	2	2	4	4	2																																										
		こども	<p>後期研修医数 (単位:人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>人数</td> <td>14</td> <td>15</td> <td>16</td> <td>16</td> <td>15</td> <td>14</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	人数	14	15	16	16	15	14	A-	<p>後期研修医は定員15名から1名減の14名を受け入れている。 新専門医制度へも対応し、新プログラムで研修を行っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 後期研修後、病院に定着した医師1人、県内他病院3人(総合)、県外2人 																												
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度																																										
人数	14	15	16	16	15	14																																										

第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

年度計画	No.	行動計画	業務の実績	30年度9月末実績 自己評価																																																																																																																																																																																																																	
				説明	医療政策課確認・評価																																																																																																																																																																																																																
	55	・即時的で効果的な人材を確保するため、採用試験を適宜実施する。	<p>・H30.9月末実績</p> <p>・第2期中期目標期間(H26～30) 看護師については、定時募集に加えて随時募集を実施し、切れ目のない採用試験を実施している。また、総合病院においては紹介業者を通じた採用も合わせて行った。さらに優秀な人材確保のためコメディカルにおいてアソシエイトの公募試験を開始した。</p> <p>正規職員の確保状況 (単位：人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="5">法人合計</td> <td>医師</td> <td>226</td> <td>230</td> <td>241</td> <td>245</td> <td>260</td> <td>268</td> </tr> <tr> <td>歯科医師</td> <td>2</td> <td>5</td> <td>4</td> <td>5</td> <td>4</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>看護師</td> <td>1,179</td> <td>1,221</td> <td>1,251</td> <td>1,317</td> <td>1,370</td> <td>1,344</td> </tr> <tr> <td>医療技術</td> <td>289</td> <td>304</td> <td>327</td> <td>320</td> <td>315</td> <td>319</td> </tr> <tr> <td>事務</td> <td>105</td> <td>109</td> <td>118</td> <td>119</td> <td>118</td> <td>125</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>1,801</td> <td>1,869</td> <td>1,941</td> <td>2,006</td> <td>2,067</td> <td>2,060</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">本部</td> <td>看護師</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>医療技術</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>事務</td> <td>26</td> <td>27</td> <td>28</td> <td>27</td> <td>25</td> <td>32</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>28</td> <td>29</td> <td>31</td> <td>29</td> <td>27</td> <td>34</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">総合</td> <td>医師</td> <td>123</td> <td>127</td> <td>135</td> <td>144</td> <td>157</td> <td>164</td> </tr> <tr> <td>歯科医師</td> <td>1</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>看護師</td> <td>646</td> <td>654</td> <td>678</td> <td>748</td> <td>804</td> <td>789</td> </tr> <tr> <td>医療技術</td> <td>184</td> <td>196</td> <td>215</td> <td>211</td> <td>208</td> <td>215</td> </tr> <tr> <td>事務</td> <td>38</td> <td>41</td> <td>49</td> <td>51</td> <td>52</td> <td>53</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>992</td> <td>1,021</td> <td>1,080</td> <td>1,158</td> <td>1,224</td> <td>1,224</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">こころ</td> <td>医師</td> <td>12</td> <td>13</td> <td>12</td> <td>12</td> <td>12</td> <td>14</td> </tr> <tr> <td>歯科医師</td> <td></td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>看護師</td> <td>113</td> <td>114</td> <td>110</td> <td>114</td> <td>115</td> <td>119</td> </tr> <tr> <td>医療技術</td> <td>24</td> <td>26</td> <td>26</td> <td>26</td> <td>26</td> <td>26</td> </tr> <tr> <td>事務</td> <td>13</td> <td>13</td> <td>13</td> <td>13</td> <td>13</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>162</td> <td>167</td> <td>161</td> <td>165</td> <td>166</td> <td>172</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">こども</td> <td>医師</td> <td>91</td> <td>90</td> <td>94</td> <td>89</td> <td>91</td> <td>90</td> </tr> <tr> <td>歯科医師</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>看護師</td> <td>419</td> <td>452</td> <td>461</td> <td>453</td> <td>449</td> <td>434</td> </tr> <tr> <td>医療技術</td> <td>80</td> <td>81</td> <td>85</td> <td>83</td> <td>81</td> <td>78</td> </tr> <tr> <td>事務</td> <td>28</td> <td>28</td> <td>28</td> <td>28</td> <td>28</td> <td>27</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>619</td> <td>652</td> <td>669</td> <td>654</td> <td>650</td> <td>630</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	法人合計	医師	226	230	241	245	260	268	歯科医師	2	5	4	5	4	4	看護師	1,179	1,221	1,251	1,317	1,370	1,344	医療技術	289	304	327	320	315	319	事務	105	109	118	119	118	125	計	1,801	1,869	1,941	2,006	2,067	2,060	本部	看護師	1	1	2	2	2	2	医療技術	1	1	1				事務	26	27	28	27	25	32	計	28	29	31	29	27	34	総合	医師	123	127	135	144	157	164	歯科医師	1	3	3	4	3	3	看護師	646	654	678	748	804	789	医療技術	184	196	215	211	208	215	事務	38	41	49	51	52	53	計	992	1,021	1,080	1,158	1,224	1,224	こころ	医師	12	13	12	12	12	14	歯科医師		1					看護師	113	114	110	114	115	119	医療技術	24	26	26	26	26	26	事務	13	13	13	13	13	13	計	162	167	161	165	166	172	こども	医師	91	90	94	89	91	90	歯科医師	1	1	1	1	1	1	看護師	419	452	461	453	449	434	医療技術	80	81	85	83	81	78	事務	28	28	28	28	28	27	計	619	652	669	654	650	630	<p>看護師試験については、年3回の定時募集に加えて、経験者随時募集を年8回実施し、年間で切れ目のない募集を実施した。なお、看護師確保のため、就職説明会への参加や各種広報(WEB、情報誌等)、修学資金貸与制度の拡充、養成校訪問など様々な確保対策を進め、採用数の増加に繋がっている。コメディカルについては、必要な職種について適時、募集を実施しており、栄養士、言語聴覚士についてアソシエイトの公募試験を開始し優秀な人材の確保に努めた。</p>	<p>・H30の看護師採用試験においても前年度同様切れ目なく募集を行い、募集130人のところ12月末時点で合格者は117人となっている。</p> <p>・薬剤師を安定的に確保するため、H30に薬剤師修学資金制度を創設し、H31から実施する見込みである。</p> <p>※コメディカルのアソシエイト公募試験は29年度も実施している</p> <p>※No. 105と類似</p>
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末																																																																																																																																																																																																															
法人合計	医師	226	230	241	245	260	268																																																																																																																																																																																																														
	歯科医師	2	5	4	5	4	4																																																																																																																																																																																																														
	看護師	1,179	1,221	1,251	1,317	1,370	1,344																																																																																																																																																																																																														
	医療技術	289	304	327	320	315	319																																																																																																																																																																																																														
	事務	105	109	118	119	118	125																																																																																																																																																																																																														
計	1,801	1,869	1,941	2,006	2,067	2,060																																																																																																																																																																																																															
本部	看護師	1	1	2	2	2	2																																																																																																																																																																																																														
	医療技術	1	1	1																																																																																																																																																																																																																	
	事務	26	27	28	27	25	32																																																																																																																																																																																																														
	計	28	29	31	29	27	34																																																																																																																																																																																																														
総合	医師	123	127	135	144	157	164																																																																																																																																																																																																														
	歯科医師	1	3	3	4	3	3																																																																																																																																																																																																														
	看護師	646	654	678	748	804	789																																																																																																																																																																																																														
	医療技術	184	196	215	211	208	215																																																																																																																																																																																																														
	事務	38	41	49	51	52	53																																																																																																																																																																																																														
計	992	1,021	1,080	1,158	1,224	1,224																																																																																																																																																																																																															
こころ	医師	12	13	12	12	12	14																																																																																																																																																																																																														
	歯科医師		1																																																																																																																																																																																																																		
	看護師	113	114	110	114	115	119																																																																																																																																																																																																														
	医療技術	24	26	26	26	26	26																																																																																																																																																																																																														
	事務	13	13	13	13	13	13																																																																																																																																																																																																														
計	162	167	161	165	166	172																																																																																																																																																																																																															
こども	医師	91	90	94	89	91	90																																																																																																																																																																																																														
	歯科医師	1	1	1	1	1	1																																																																																																																																																																																																														
	看護師	419	452	461	453	449	434																																																																																																																																																																																																														
	医療技術	80	81	85	83	81	78																																																																																																																																																																																																														
	事務	28	28	28	28	28	27																																																																																																																																																																																																														
計	619	652	669	654	650	630																																																																																																																																																																																																															

第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

年度計画	No.	行動計画	業務の実績	30年度9月末実績 自己評価																																																																																																														
				説明	医療政策課確認・評価																																																																																																													
	56	・就職説明会への参加や多角的な広報の実施などにより、必要な職員の確保を目指す。	<p>・H30.9月末実績</p> <p>看護学生向け就職説明会 (単位：人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>来場者数</th> <th>訪問者数</th> <th>受験者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ナース専科 (静岡)</td> <td>278</td> <td>196</td> <td>54</td> </tr> <tr> <td>ナースナビ (浜松)</td> <td>183</td> <td>54</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>キャリタス看護 (東京)</td> <td>270</td> <td>13</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>マイナビ (静岡)</td> <td>47</td> <td>36</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>(沼津)</td> <td>81</td> <td>135</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>業者計</td> <td>859</td> <td>434</td> <td>71</td> </tr> <tr> <td>静岡県立大学</td> <td>133</td> <td>112</td> <td>38</td> </tr> <tr> <td>常葉大学</td> <td>268</td> <td>59</td> <td>27</td> </tr> <tr> <td>聖隷クリストファー大学</td> <td>156</td> <td>38</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>順天堂大学</td> <td>120</td> <td>30</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>静岡市立看護専門学校</td> <td>44</td> <td>44</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td>東部看護専門学校</td> <td>240</td> <td>100</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>養成校計</td> <td>961</td> <td>383</td> <td>99</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>1,820</td> <td>817</td> <td>170</td> </tr> </tbody> </table> <p>・第2期中期目標期間 (H26～30)</p> <p>看護学生向け就職説明会 (単位：人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>来場者数</td> <td>970</td> <td>810</td> <td>949</td> <td>1,012</td> <td>1,378</td> <td>859</td> </tr> <tr> <td>業者</td> <td>590</td> <td>569</td> <td>639</td> <td>764</td> <td>842</td> <td>961</td> </tr> <tr> <td>養成校</td> <td>236</td> <td>257</td> <td>254</td> <td>200</td> <td>360</td> <td>434</td> </tr> <tr> <td>訪問者数</td> <td>198</td> <td>198</td> <td>293</td> <td>286</td> <td>366</td> <td>383</td> </tr> <tr> <td>業者</td> <td>不明</td> <td>不明</td> <td>不明</td> <td>3</td> <td>58</td> <td>71</td> </tr> <tr> <td>養成校</td> <td>16</td> <td>17</td> <td>17</td> <td>48</td> <td>86</td> <td>99</td> </tr> </tbody> </table>	区 分	来場者数	訪問者数	受験者数	ナース専科 (静岡)	278	196	54	ナースナビ (浜松)	183	54	2	キャリタス看護 (東京)	270	13	1	マイナビ (静岡)	47	36	6	(沼津)	81	135	8	業者計	859	434	71	静岡県立大学	133	112	38	常葉大学	268	59	27	聖隷クリストファー大学	156	38	7	順天堂大学	120	30	4	静岡市立看護専門学校	44	44	11	東部看護専門学校	240	100	12	養成校計	961	383	99	計	1,820	817	170		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	来場者数	970	810	949	1,012	1,378	859	業者	590	569	639	764	842	961	養成校	236	257	254	200	360	434	訪問者数	198	198	293	286	366	383	業者	不明	不明	不明	3	58	71	養成校	16	17	17	48	86	99	<p>企業主催の説明会については、県内・県外会場等、参加回数を増やし、より多くの看護学生と面談し、病院機構をPRすることができた。</p> <p>また、養成校主催の説明会へも昨年に引き続き参加をし、現在の学生の動向等をつかむことができた。</p>	<p>・看護学生向けに就職情報を提供する民間事業者が開催する合同就職説明会への参加や就職情報サイトへの情報掲載等を積極に行うとともに、看護師就職説明会において、看護学生を集めるために看板等の作成やノベルティの配布を行うなど、受験者数の確保に取り組んでいる。</p> <p>・就職説明会は左記に加え、年度後半でマイナビ浜松会場とナースセンター開催の就職説明会に参加予定である。</p>
区 分	来場者数	訪問者数	受験者数																																																																																																															
ナース専科 (静岡)	278	196	54																																																																																																															
ナースナビ (浜松)	183	54	2																																																																																																															
キャリタス看護 (東京)	270	13	1																																																																																																															
マイナビ (静岡)	47	36	6																																																																																																															
(沼津)	81	135	8																																																																																																															
業者計	859	434	71																																																																																																															
静岡県立大学	133	112	38																																																																																																															
常葉大学	268	59	27																																																																																																															
聖隷クリストファー大学	156	38	7																																																																																																															
順天堂大学	120	30	4																																																																																																															
静岡市立看護専門学校	44	44	11																																																																																																															
東部看護専門学校	240	100	12																																																																																																															
養成校計	961	383	99																																																																																																															
計	1,820	817	170																																																																																																															
	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末																																																																																																												
来場者数	970	810	949	1,012	1,378	859																																																																																																												
業者	590	569	639	764	842	961																																																																																																												
養成校	236	257	254	200	360	434																																																																																																												
訪問者数	198	198	293	286	366	383																																																																																																												
業者	不明	不明	不明	3	58	71																																																																																																												
養成校	16	17	17	48	86	99																																																																																																												
	57	・看護師修学資金制度の積極的広報をし、活用推進により、更なる看護師確保を目指す。	<p>看護師修学資金の状況 (単位：人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年9月末</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>決定</td> <td>73</td> <td>74</td> <td>123</td> <td>88</td> <td>114</td> <td>35</td> <td>507</td> </tr> <tr> <td>継続</td> <td>52</td> <td>80</td> <td>99</td> <td>126</td> <td>163</td> <td>182</td> <td>702</td> </tr> <tr> <td>取消</td> <td>▲6</td> <td>▲12</td> <td>▲11</td> <td>▲5</td> <td>▲9</td> <td>▲5</td> <td>▲48</td> </tr> <tr> <td>貸与計</td> <td>119</td> <td>142</td> <td>211</td> <td>209</td> <td>268</td> <td>212</td> <td>1,161</td> </tr> <tr> <td>採用</td> <td>38</td> <td>33</td> <td>76</td> <td>40</td> <td>63</td> <td>62</td> <td>312</td> </tr> </tbody> </table>	区 分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	計	決定	73	74	123	88	114	35	507	継続	52	80	99	126	163	182	702	取消	▲6	▲12	▲11	▲5	▲9	▲5	▲48	貸与計	119	142	211	209	268	212	1,161	採用	38	33	76	40	63	62	312	<p>一定数の募集が集まり、今後安定的な看護師確保が期待される。</p> <p>効率的・効果的な周知等を行い看護師の確保につながった。</p>	<p>新規貸与決定が前年比▲79件の理由として、決定方法がこれまでの申請のみから、申請と面接に変更したためと考えられる (本当に必要な方に就学資金を使用してもらうという意図により変更)。</p> <p>※No. 105と類似</p>																																																													
区 分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	計																																																																																																											
決定	73	74	123	88	114	35	507																																																																																																											
継続	52	80	99	126	163	182	702																																																																																																											
取消	▲6	▲12	▲11	▲5	▲9	▲5	▲48																																																																																																											
貸与計	119	142	211	209	268	212	1,161																																																																																																											
採用	38	33	76	40	63	62	312																																																																																																											

第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

年度計画	No.	行動計画	業務の実績	30年度9月末実績 自己評価																																																																															
				説明	医療政策課確認・評価																																																																														
	58	・看護部幹部や事務部幹部による養成校の訪問を実施する。	<p>・H30.9月末実績 看護師確保キャラバン隊が県外養成校6件を訪問した。引き続き、来年度採用に向けて実施する予定である。</p> <p>・第2期中期目標期間（H26～H30） 看護師確保担当を本部事務部に設置し、H26年度県内19校、県外93校、27年度県内21校、県外220校の看護師養成校の訪問を行い、募集活動を行うとともに、情報収集を行った。 H27年度からは、看護師人材確保会議において、看護師確保キャラバンを創設し、機構幹部（院長代理、副院長兼看護部長、副看護部長等）が、県外養成校を訪問した。</p> <p>看護師確保キャラバン隊の状況（単位：校）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度9月末</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>山形県</td><td>10</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>10</td></tr> <tr><td>新潟県</td><td>0</td><td>10</td><td>0</td><td>0</td><td>10</td></tr> <tr><td>石川県</td><td>11</td><td>0</td><td>8</td><td>0</td><td>19</td></tr> <tr><td>山梨県</td><td>4</td><td>2</td><td>5</td><td>0</td><td>11</td></tr> <tr><td>長野県</td><td>6</td><td>4</td><td>1</td><td>0</td><td>11</td></tr> <tr><td>岐阜県</td><td>10</td><td>7</td><td>9</td><td>3</td><td>29</td></tr> <tr><td>三重県</td><td>10</td><td>5</td><td>4</td><td>3</td><td>22</td></tr> <tr><td>徳島県</td><td>0</td><td>0</td><td>7</td><td>0</td><td>7</td></tr> <tr><td>佐賀県</td><td>7</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>7</td></tr> <tr><td>鹿児島県</td><td>0</td><td>11</td><td>0</td><td>0</td><td>11</td></tr> <tr><td>沖縄県</td><td>5</td><td>8</td><td>7</td><td>0</td><td>20</td></tr> <tr><td>計</td><td>63</td><td>47</td><td>41</td><td>6</td><td>157</td></tr> </tbody> </table>		27年度	28年度	29年度	30年度9月末	計	山形県	10	0	0	0	10	新潟県	0	10	0	0	10	石川県	11	0	8	0	19	山梨県	4	2	5	0	11	長野県	6	4	1	0	11	岐阜県	10	7	9	3	29	三重県	10	5	4	3	22	徳島県	0	0	7	0	7	佐賀県	7	0	0	0	7	鹿児島県	0	11	0	0	11	沖縄県	5	8	7	0	20	計	63	47	41	6	157	<p>看護師確保キャラバン隊が県内外の看護師養成校を訪問し、県立3病院等の特色や強み等をPRするとともに、各養成校の学生の就職状況等について情報を収集し、採用活動に活かすことができた。</p>	<p>・前年度に引き続き人材確保対策本部会議を実施し、機構幹部職員が直接協議することできめ細やかな対策を実施できている。</p> <p>・看護師の人数が充足したため、キャラバン隊の訪問数を減らしている。</p> <p>・H29年度キャラバン隊訪問先からの合格者数は4名であった。</p>
	27年度	28年度	29年度	30年度9月末	計																																																																														
山形県	10	0	0	0	10																																																																														
新潟県	0	10	0	0	10																																																																														
石川県	11	0	8	0	19																																																																														
山梨県	4	2	5	0	11																																																																														
長野県	6	4	1	0	11																																																																														
岐阜県	10	7	9	3	29																																																																														
三重県	10	5	4	3	22																																																																														
徳島県	0	0	7	0	7																																																																														
佐賀県	7	0	0	0	7																																																																														
鹿児島県	0	11	0	0	11																																																																														
沖縄県	5	8	7	0	20																																																																														
計	63	47	41	6	157																																																																														
	59	・看護師・その他医療従事者等の実習・アルバイト研修等の受入れを推進する。	<p>実習・アルバイト研修等の受入れ（30年9月末）（単位：人）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>医師</th> <th>医学生</th> <th>看護師</th> <th>看護学生</th> <th>コメディカル</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>総 合</td><td>21</td><td>157</td><td>10</td><td>156</td><td>184</td><td>528</td></tr> <tr><td>こころ</td><td>4</td><td>1</td><td>0</td><td>114</td><td>8</td><td>127</td></tr> <tr><td>こども</td><td>20</td><td>19</td><td>3</td><td>126</td><td>7</td><td>175</td></tr> <tr><td>計</td><td>45</td><td>177</td><td>13</td><td>396</td><td>199</td><td>830</td></tr> </tbody> </table> <p>・第2期中期期間（H26～30） 総合では、学生用電子カルテ、デスク等実習環境を整備し、「急性期だからこそ」の看護、実習を通して、学生が魅力を感じる医療現場となるよう対応した。 ・こころでは、多くの実習生を受け入れ、精神科病院における看護のやりがい等を伝えた。 ・こども病院では、H29年度に看護師確保用DVDをリニューアルし県内看護学校へ配付するなど、実習生の受入増進に活用している。</p>	区 分	医師	医学生	看護師	看護学生	コメディカル	計	総 合	21	157	10	156	184	528	こころ	4	1	0	114	8	127	こども	20	19	3	126	7	175	計	45	177	13	396	199	830	<p>研修の受入に関しては、実習生の要請に応じた魅力的な研修体制を構築した。</p>	<p>・実習生の受け入れは、将来病院機構で貢献する人材の育成につながることを意識し、魅力を感じられる医療現場とする取組が行われている。</p> <p>・看護学生をアルバイト研修として受け入れ看護助手業務に従事させることで、看護師の負担軽減につながっている。</p> <p>・例年、実習生の満足度も高く、次年度も当院を希望する学生が多い。</p> <p>※No. 65と類似</p>																																											
区 分	医師	医学生	看護師	看護学生	コメディカル	計																																																																													
総 合	21	157	10	156	184	528																																																																													
こころ	4	1	0	114	8	127																																																																													
こども	20	19	3	126	7	175																																																																													
計	45	177	13	396	199	830																																																																													

第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

年度計画	No.	行動計画	業務の実績	30年度9月末実績 自己評価		医療政策課確認・評価																																																																																																																																
				説明																																																																																																																																		
1 2 (1)	60	<p>医師の卒後臨床研修の充実・強化等</p> <p>①研修医に選ばれる良質な臨床研修指定病院としての臨床研修機能の充実</p> <p>②医師の技術・知識の向上のための一般研修及び海外研修の充実、海外医師の招聘による研修の充実</p> <p>③県立総合病院メディカルスキルアップセンターを活用した教育研修の充実、複数病院との共同利用で合同一・二次救命処置トレーニングの実施</p> <p>④県立こども病院ラーニングセンターの運用</p> <p>⑤国際交流の推進</p> <p>⑥認定看護師等の資格取得への支援</p> <p>⑦看護学生等に対する魅力的な実習の提供</p> <p>⑧コメディカル・事務職員の研修</p>	<p>・H30.9月末実績(総合)</p> <p>・医師や研修医の海外研修への参加により、研修内容の充実を図ることができた。</p> <p>・海外での学会発表実績 21件 (H30.9末時点)</p> <p>・海外の学会に治療実績等の発表を行い技術力の高さを示した</p> <p>(総合) 海外研修の実績 (H30年9月末) (単位:人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">内 容</th> <th>人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>日韓耳鼻咽喉科頭頸部外科合同会議</td><td></td><td>1</td></tr> <tr><td>欧州スポーツ外傷・膝外科・関節鏡学会</td><td></td><td>1</td></tr> <tr><td>国際超音波内視鏡学術大会</td><td></td><td>2</td></tr> <tr><td>Cochlear Japan Surgeons' Workshop</td><td></td><td>1</td></tr> <tr><td>欧州腎臓学会・透析移植学会</td><td></td><td>1</td></tr> <tr><td>米国胸部疾患学会</td><td></td><td>3</td></tr> <tr><td>中国透析血管通路錢江フォーラム</td><td></td><td>2</td></tr> <tr><td>アジアンスパイン</td><td></td><td>1</td></tr> <tr><td>国際磁気共鳴医学会</td><td></td><td>2</td></tr> <tr><td>オーストラリア・ニュージーランド集中治療学会</td><td></td><td>1</td></tr> <tr><td>国際肝胆膵外科学会</td><td></td><td>1</td></tr> <tr><td>欧州皮膚科学・性病学会学術大会</td><td></td><td>1</td></tr> <tr><td>欧州呼吸器学会国際会議</td><td></td><td>2</td></tr> <tr><td>心臓血管カテーテル学会議</td><td></td><td>2</td></tr> <tr><td>臨床研修医UCLA研修</td><td></td><td>2</td></tr> <tr><td>計</td><td></td><td>23</td></tr> </tbody> </table> <p>海外での学会発表実績 (単位:件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>5</td> <td>27</td> <td>26</td> <td>32</td> <td>23</td> <td>21</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>20</td> <td>32</td> <td>45</td> <td>36</td> <td>33</td> <td>集計中</td> </tr> </tbody> </table> <p>・海外の学会に治療実績等の発表を行い技術力の高さを示した。</p> <p>・海外研修の報告は、院内には定例医局会・院内連絡会で行われており、対外的には研修医募集のホームページに掲載している</p> <p>海外研修の主な実績 (30年9月末) (単位:人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th colspan="2">内 容</th> <th>人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>臨床研修医UCLA研修</td> <td></td> <td>2</td> </tr> <tr> <td></td> <td>海外学会 (米国胸部疾患学会他)</td> <td></td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>こころ</td> <td>—</td> <td></td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>アメリカ心エコー学会議</td> <td></td> <td>3</td> </tr> <tr> <td></td> <td>アメリカ胸部外科学会</td> <td></td> <td>2</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ヨーロッパ小児科学会学術集会</td> <td></td> <td>2</td> </tr> </tbody> </table>	内 容		人数	日韓耳鼻咽喉科頭頸部外科合同会議		1	欧州スポーツ外傷・膝外科・関節鏡学会		1	国際超音波内視鏡学術大会		2	Cochlear Japan Surgeons' Workshop		1	欧州腎臓学会・透析移植学会		1	米国胸部疾患学会		3	中国透析血管通路錢江フォーラム		2	アジアンスパイン		1	国際磁気共鳴医学会		2	オーストラリア・ニュージーランド集中治療学会		1	国際肝胆膵外科学会		1	欧州皮膚科学・性病学会学術大会		1	欧州呼吸器学会国際会議		2	心臓血管カテーテル学会議		2	臨床研修医UCLA研修		2	計		23	区 分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	総合	5	27	26	32	23	21	こども	20	32	45	36	33	集計中	区 分	内 容		人数	総合	臨床研修医UCLA研修		2		海外学会 (米国胸部疾患学会他)		4	こころ	—		0	こども	アメリカ心エコー学会議		3		アメリカ胸部外科学会		2		ヨーロッパ小児科学会学術集会		2	<p>医師を対象とした「研究事業費」を充実し、研究や海外研修に必要な予算・制度を整えている。</p>	<p>・海外研修、海外での学会発表等により、医師や研修医が臨床経験を積みながらも、国際的な広い視点から能力研鑽を行える制度を備え、平成30年度においても活用されている。</p>																													
内 容		人数																																																																																																																																				
日韓耳鼻咽喉科頭頸部外科合同会議		1																																																																																																																																				
欧州スポーツ外傷・膝外科・関節鏡学会		1																																																																																																																																				
国際超音波内視鏡学術大会		2																																																																																																																																				
Cochlear Japan Surgeons' Workshop		1																																																																																																																																				
欧州腎臓学会・透析移植学会		1																																																																																																																																				
米国胸部疾患学会		3																																																																																																																																				
中国透析血管通路錢江フォーラム		2																																																																																																																																				
アジアンスパイン		1																																																																																																																																				
国際磁気共鳴医学会		2																																																																																																																																				
オーストラリア・ニュージーランド集中治療学会		1																																																																																																																																				
国際肝胆膵外科学会		1																																																																																																																																				
欧州皮膚科学・性病学会学術大会		1																																																																																																																																				
欧州呼吸器学会国際会議		2																																																																																																																																				
心臓血管カテーテル学会議		2																																																																																																																																				
臨床研修医UCLA研修		2																																																																																																																																				
計		23																																																																																																																																				
区 分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末																																																																																																																																
総合	5	27	26	32	23	21																																																																																																																																
こども	20	32	45	36	33	集計中																																																																																																																																
区 分	内 容		人数																																																																																																																																			
総合	臨床研修医UCLA研修		2																																																																																																																																			
	海外学会 (米国胸部疾患学会他)		4																																																																																																																																			
こころ	—		0																																																																																																																																			
こども	アメリカ心エコー学会議		3																																																																																																																																			
	アメリカ胸部外科学会		2																																																																																																																																			
	ヨーロッパ小児科学会学術集会		2																																																																																																																																			
	61	<p>③・メディカルスキルアップセンターの活用を促進を図る。</p>	<p>・第2期中期期間(H26~30)</p> <p>・外部利用について、使用規程、料金規程を作成し、運用開始した。</p> <p>・H29には、先端医学棟の開棟に伴い、循環器病センター6階から先端医学棟2階へ拡張移転した。</p> <p>・新たに各種の高度なシミュレーター、模擬病棟、講義室を整備した。</p> <p>・静岡県が推進する「ふじのくにバーチャルメディカルカレッジ」に対応。</p> <p>メディカルスキルアップセンター利用状況 (単位:回、人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区 分</th> <th colspan="2">25年度</th> <th colspan="2">26年度</th> <th colspan="2">27年度</th> <th colspan="2">28年度</th> <th colspan="2">29年度</th> <th colspan="2">30年9月末</th> </tr> <tr> <th>開催回数</th> <th>うち外部利用</th> <th>開催回数</th> <th>うち外部利用</th> <th>開催回数</th> <th>うち外部利用</th> <th>開催回数</th> <th>うち外部利用</th> <th>開催回数</th> <th>うち外部利用</th> <th>開催回数</th> <th>うち外部利用</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医師</td> <td>140</td> <td>40</td> <td>223</td> <td>37</td> <td>503</td> <td>42</td> <td>548</td> <td>29</td> <td>488</td> <td>44</td> <td>340</td> <td>18</td> </tr> <tr> <td>参加人数</td> <td>1,573</td> <td>214</td> <td>2,467</td> <td>179</td> <td>3,359</td> <td>298</td> <td>2,656</td> <td>212</td> <td>2,713</td> <td>197</td> <td>1,613</td> <td>57</td> </tr> <tr> <td>看護師</td> <td>152</td> <td>39</td> <td>184</td> <td>33</td> <td>190</td> <td>30</td> <td>199</td> <td>28</td> <td>196</td> <td>48</td> <td>117</td> <td>18</td> </tr> <tr> <td>参加人数</td> <td>1,327</td> <td>222</td> <td>2,404</td> <td>172</td> <td>2,950</td> <td>395</td> <td>3,290</td> <td>252</td> <td>3,569</td> <td>296</td> <td>2,363</td> <td>139</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>86</td> <td>66</td> <td>107</td> <td>73</td> <td>163</td> <td>122</td> <td>158</td> <td>96</td> <td>147</td> <td>115</td> <td>100</td> <td>79</td> </tr> <tr> <td>参加人数</td> <td>1,575</td> <td>809</td> <td>1,183</td> <td>850</td> <td>2,343</td> <td>1,795</td> <td>3,008</td> <td>1,526</td> <td>2,298</td> <td>1,914</td> <td>664</td> <td>443</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>378</td> <td>145</td> <td>514</td> <td>143</td> <td>856</td> <td>194</td> <td>905</td> <td>153</td> <td>831</td> <td>207</td> <td>557</td> <td>113</td> </tr> <tr> <td>参加人数</td> <td>4,475</td> <td>1,245</td> <td>6,064</td> <td>1,201</td> <td>8,662</td> <td>2,489</td> <td>8,954</td> <td>1,994</td> <td>8,580</td> <td>2,407</td> <td>4,640</td> <td>639</td> </tr> </tbody> </table>	区 分	25年度		26年度		27年度		28年度		29年度		30年9月末		開催回数	うち外部利用	開催回数	うち外部利用	開催回数	うち外部利用	開催回数	うち外部利用	開催回数	うち外部利用	開催回数	うち外部利用	医師	140	40	223	37	503	42	548	29	488	44	340	18	参加人数	1,573	214	2,467	179	3,359	298	2,656	212	2,713	197	1,613	57	看護師	152	39	184	33	190	30	199	28	196	48	117	18	参加人数	1,327	222	2,404	172	2,950	395	3,290	252	3,569	296	2,363	139	その他	86	66	107	73	163	122	158	96	147	115	100	79	参加人数	1,575	809	1,183	850	2,343	1,795	3,008	1,526	2,298	1,914	664	443	計	378	145	514	143	856	194	905	153	831	207	557	113	参加人数	4,475	1,245	6,064	1,201	8,662	2,489	8,954	1,994	8,580	2,407	4,640	639	<p>H29年度の先端医学棟の開棟に伴い、循環器病センター6階から先端医学棟2階へ拡張移転した。設備や機器の更なる充実を行った。各種の高度なシミュレーターを導入し、医療スタッフや学生の高度なトレーニングや講習が可能となった。</p>	<p>・H29.9月に開棟した先端医学棟へセンターを拡張移転したことにより、環境の充実が図られた。</p> <p>・当院を見学した医学生が実習中、研修医とともにメディカルスキルアップセンターでトレーニングを実施。</p> <p>(ふじのくにバーチャルメディカルカレッジへの対応について)</p> <p>・こころざし育成セミナーにおいて、見学会や実習を実施</p> <p>・病院見学ツアーの実施</p>
区 分	25年度		26年度		27年度		28年度		29年度		30年9月末																																																																																																																											
	開催回数	うち外部利用	開催回数	うち外部利用	開催回数	うち外部利用	開催回数	うち外部利用	開催回数	うち外部利用	開催回数	うち外部利用																																																																																																																										
医師	140	40	223	37	503	42	548	29	488	44	340	18																																																																																																																										
参加人数	1,573	214	2,467	179	3,359	298	2,656	212	2,713	197	1,613	57																																																																																																																										
看護師	152	39	184	33	190	30	199	28	196	48	117	18																																																																																																																										
参加人数	1,327	222	2,404	172	2,950	395	3,290	252	3,569	296	2,363	139																																																																																																																										
その他	86	66	107	73	163	122	158	96	147	115	100	79																																																																																																																										
参加人数	1,575	809	1,183	850	2,343	1,795	3,008	1,526	2,298	1,914	664	443																																																																																																																										
計	378	145	514	143	856	194	905	153	831	207	557	113																																																																																																																										
参加人数	4,475	1,245	6,064	1,201	8,662	2,489	8,954	1,994	8,580	2,407	4,640	639																																																																																																																										
	62	<p>④ラーニングセンターの運用手順を定め、活用の促進を図る。</p>	<p>こども</p> <p>後期研修医を募集するセミナー、新生児の蘇生講習会及び新人看護師を対象とした点滴ルート確保の実習等で利用している。</p> <p>H30年9月末までにラーニングセンター運営検討部会を3度開催し、利用実態の詳細な把握や今後の有効な活用方法について検討した。</p>	<p>医師や看護師を対象とした研修で活用している。</p> <p>より効果的な運用のため、H30年度からラーニングセンター運営検討部会を立ち上げ、検討を進めている。</p>	<p>(部会での検討内容)</p> <p>・ラーニングルームの問題点、院内の各部署で実施している研修の把握、ラーニングルームが利用できる研修の洗い出しをしている。</p> <p>・使い勝手をよくするため、部屋の小規模改修と運用手順の策定を進めているが、利用状況は把握されていない。</p>																																																																																																																																	

年度計画	No.	行動計画	業務の実績	30年度9月末実績 自己評価		医療政策課確認・評価																								
				説明																										
	63	⑤・海外との視察者等の受け入れや派遣など、国際交流の推進を図る。	<p>海外視察・講演等の派遣・受入 (単位：人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>視察・講演等派遣</td> <td>16</td> <td>9</td> <td>13</td> <td>53</td> <td>54</td> <td>28</td> </tr> <tr> <td>視察・研修等受入</td> <td>65</td> <td>36</td> <td>39</td> <td>44</td> <td>58</td> <td>19</td> </tr> </tbody> </table> <p>・友好協力協定を締結している中国浙江省の4 医院から研修生7 人（うち医師6 人）を受入れている。 浙江大学医学院附属邵逸夫医院3 人、浙江省人民医院2 人、浙江大学医学院附属第二、第四医院 それぞれ1 人（H30年9 月末） ・H23年度から研修受入れを実施しており、延べ78人（うち医師47人）の研修生を受入れている。</p>		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	視察・講演等派遣	16	9	13	53	54	28	視察・研修等受入	65	36	39	44	58	19	A	<p>先端医学棟の開棟に伴い、海外からの視察等の受入れ体制を強化し、中国を始めとした海外との国際交流を積極的に実施し、国際交流の推進を図った。</p>	<p>・海外からの視察や研修生の受け入れ及び派遣が継続して行われており、交流の推進が図られている。</p>			
	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末																								
視察・講演等派遣	16	9	13	53	54	28																								
視察・研修等受入	65	36	39	44	58	19																								
	63	⑤・海外との視察者等の受け入れや派遣など、国際交流の推進を図る。	<p>・H22年度に開始したシドニー・ウェストメッド小児病院での研修に今年度も当院の医師2 人を派遣する予定である。 ・H29年11月に友好協定を締結した浙江大学医学院附属兒童医院からH30年10月に研修医の受入れを行う予定。 ・H30年5月に院長を始めとした当院訪問団が中国の深セン市兒童医院を訪問し、交流のための覚書を締結した。</p>	A	<p>ウェストメッド小児病院との交流は、海外における最先端の医療技術を学ぶ良い機会となっている。 浙江大学医学院附属兒童医院と積極的な交流を行っている。</p>	<p>・シドニー・ウェストメッド小児病院や浙江大学医学院附属兒童医院とは継続して交流が図られている 医師派遣実績： シドニー：12月～ 1名派遣 浙江大学：10～12月 3名受入</p> <p>・H30は中国深セン市兒童医院と交流のための覚書を締結し交流の拡大が図られた。</p> <p>・2月には、アジア諸国とのネットワーク強化のため、国内外から医療スタッフを参集し、小児循環器系疾患を中心に最新技術等についてディスカッションを行うMt. Fuji Network Forumを開催する予定。</p>																								
	64	⑥・看護師及びその他の医療従事者のスキルアップを図るため、認定看護師の育成のほか医療従事者等の研修等を推進する。 ⑥・認定看護師等病院運営に寄与する資格について、取得支援制度を拡充することで、資格取得者の増員を図る。	<p>主な医療職種の資格取得者数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>職種</th> <th>人数</th> <th>専門・認定領域</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>専門看護師</td> <td>3</td> <td>がん看護、急性・重症患者看護、慢性期疾患看護</td> </tr> <tr> <td>認定看護師</td> <td>16</td> <td>救急看護、皮膚・排泄ケア、手術看護、乳がん看護、緩和ケア、集中ケア、透析看護 がん化学療法、感染管理、脳卒中リハビリ、精神看護、慢性期呼吸器疾患、認知症看護</td> </tr> <tr> <td>薬剤師</td> <td>41</td> <td>指導薬剤師、日本医療薬学会認定、がん薬物療法認定、感染制御認定、がん専門認定実務実習指導、認定CRC、妊婦・授乳婦薬剤療法、栄養サポートチーム専門 抗菌科学療法認定、禁煙認定専門、緩和薬物療法認定、小児薬物療法認定 がん指導、糖尿病療養指導、薬物療法指導</td> </tr> <tr> <td>理学療法士</td> <td>7</td> <td>専門理学療法士（運動器、呼吸器、内部臓器）、日本リハビリテーション指導士</td> </tr> <tr> <td>放射線技師</td> <td>18</td> <td>放射線治療専門、放射線治療品質管理、PET認定、救急撮影</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>10</td> <td>糖尿病療養指導、がん病態栄養専門管理栄養士、認定超音波検査師</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>95</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	職種	人数	専門・認定領域	専門看護師	3	がん看護、急性・重症患者看護、慢性期疾患看護	認定看護師	16	救急看護、皮膚・排泄ケア、手術看護、乳がん看護、緩和ケア、集中ケア、透析看護 がん化学療法、感染管理、脳卒中リハビリ、精神看護、慢性期呼吸器疾患、認知症看護	薬剤師	41	指導薬剤師、日本医療薬学会認定、がん薬物療法認定、感染制御認定、がん専門認定実務実習指導、認定CRC、妊婦・授乳婦薬剤療法、栄養サポートチーム専門 抗菌科学療法認定、禁煙認定専門、緩和薬物療法認定、小児薬物療法認定 がん指導、糖尿病療養指導、薬物療法指導	理学療法士	7	専門理学療法士（運動器、呼吸器、内部臓器）、日本リハビリテーション指導士	放射線技師	18	放射線治療専門、放射線治療品質管理、PET認定、救急撮影	その他	10	糖尿病療養指導、がん病態栄養専門管理栄養士、認定超音波検査師	計	95		A	<p>感染管理、集中ケア等、病院全体の質の向上に資する分野の資格者を各病院に配置し、組織を横断的に活動することができた。また、認定看護師等病院運営に寄与する資格について、取得支援制度を拡充することで、資格取得者の増員を図った。</p>	<p>・優れた看護技術と知識により高水準の看護実践のできる専門看護師や認定看護師を育成することは、高度・専門医療を提供する県立病院機構の医療の質の向上において重要である。</p>
職種	人数	専門・認定領域																												
専門看護師	3	がん看護、急性・重症患者看護、慢性期疾患看護																												
認定看護師	16	救急看護、皮膚・排泄ケア、手術看護、乳がん看護、緩和ケア、集中ケア、透析看護 がん化学療法、感染管理、脳卒中リハビリ、精神看護、慢性期呼吸器疾患、認知症看護																												
薬剤師	41	指導薬剤師、日本医療薬学会認定、がん薬物療法認定、感染制御認定、がん専門認定実務実習指導、認定CRC、妊婦・授乳婦薬剤療法、栄養サポートチーム専門 抗菌科学療法認定、禁煙認定専門、緩和薬物療法認定、小児薬物療法認定 がん指導、糖尿病療養指導、薬物療法指導																												
理学療法士	7	専門理学療法士（運動器、呼吸器、内部臓器）、日本リハビリテーション指導士																												
放射線技師	18	放射線治療専門、放射線治療品質管理、PET認定、救急撮影																												
その他	10	糖尿病療養指導、がん病態栄養専門管理栄養士、認定超音波検査師																												
計	95																													
			<p>認定看護師取得者数 (単位：人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>人数</th> <th>専門・認定領域</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>認定看護師</td> <td>7</td> <td>精神科</td> </tr> <tr> <td></td> <td>1</td> <td>感染管理</td> </tr> </tbody> </table>	区分	人数	専門・認定領域	認定看護師	7	精神科		1	感染管理																		
区分	人数	専門・認定領域																												
認定看護師	7	精神科																												
	1	感染管理																												
			<p>区分 人数 専門・認定領域</p> <table border="1"> <tbody> <tr> <td>専門看護師</td> <td>1</td> <td>小児看護</td> </tr> <tr> <td>認定看護師</td> <td>12</td> <td>皮膚・排泄ケア1名、集中ケア1名、緩和ケア1名、新生児集中ケア2名、がん化学療法1名、感染管理2名、小児救急看護2名、手術室看護1名、精神看護1</td> </tr> </tbody> </table>	専門看護師	1	小児看護	認定看護師	12	皮膚・排泄ケア1名、集中ケア1名、緩和ケア1名、新生児集中ケア2名、がん化学療法1名、感染管理2名、小児救急看護2名、手術室看護1名、精神看護1																					
専門看護師	1	小児看護																												
認定看護師	12	皮膚・排泄ケア1名、集中ケア1名、緩和ケア1名、新生児集中ケア2名、がん化学療法1名、感染管理2名、小児救急看護2名、手術室看護1名、精神看護1																												

第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

年度計画	No.	行動計画	業務の実績	30年度9月末実績 自己評価		医療政策課確認・評価																																																																																																											
				説明																																																																																																													
	65	⑦・臨床現場に即した、より実践的な研修を提供する。	<p>実習・アルバイト研修等の受入れ（30年9月末）（単位：人）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>医師</th> <th>医学生</th> <th>看護師</th> <th>看護学生</th> <th>コメディカル</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>21</td> <td>157</td> <td>10</td> <td>156</td> <td>184</td> <td>528</td> </tr> <tr> <td>こころ</td> <td>4</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>114</td> <td>8</td> <td>127</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>20</td> <td>19</td> <td>3</td> <td>126</td> <td>7</td> <td>175</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>45</td> <td>177</td> <td>13</td> <td>396</td> <td>199</td> <td>830</td> </tr> </tbody> </table>	区分	医師	医学生	看護師	看護学生	コメディカル	計	総合	21	157	10	156	184	528	こころ	4	1	0	114	8	127	こども	20	19	3	126	7	175	計	45	177	13	396	199	830	A	臨床現場に即した、より実践的な研修やトレーニングがメディカルスキルアップセンターにて可能となり医師をはじめとする医療スタッフ、学生の実習、研修等の受け入れ体制を強化した。	<p>・環境の充実が図られたメディカルスキルアップセンターにおいて（No.61）現場に即した実践的な研修を提供し、こころ・こどもの実習生等も参加している。</p> <p>※No.59と類似</p>																																																																								
区分	医師	医学生	看護師	看護学生	コメディカル	計																																																																																																											
総合	21	157	10	156	184	528																																																																																																											
こころ	4	1	0	114	8	127																																																																																																											
こども	20	19	3	126	7	175																																																																																																											
計	45	177	13	396	199	830																																																																																																											
	66	⑧・研修体系プログラムの整備と研修内容の充実を図る。	<p>職員研修参加者数（単位：人）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>新規採用職員研修</td> <td>147</td> <td>144</td> <td>145</td> <td>136</td> <td>126</td> <td>125</td> </tr> <tr> <td>新規役付職員研修</td> <td>24</td> <td>26</td> <td>15</td> <td>10</td> <td>4</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>新規監督者研修</td> <td>14</td> <td>14</td> <td>28</td> <td>25</td> <td>18</td> <td>18</td> </tr> <tr> <td>新任管理者・新任監督者研修</td> <td>6</td> <td>17</td> <td>-</td> <td>34</td> <td>28</td> <td>35</td> </tr> <tr> <td>コミュニケーション講座</td> <td>17</td> <td>23</td> <td>21</td> <td>20</td> <td>24</td> <td>30</td> </tr> <tr> <td>プレゼンテーション講座</td> <td>40</td> <td>29</td> <td>31</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>ファシリテーション講座</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>23</td> <td>20</td> <td>11月予定</td> </tr> <tr> <td>コーチング講座</td> <td>32</td> <td>32</td> <td>28</td> <td>32</td> <td>18</td> <td>10月予定</td> </tr> <tr> <td>メンタルサポート講座</td> <td>23</td> <td>20</td> <td>21</td> <td>25</td> <td>25</td> <td>12月予定</td> </tr> </tbody> </table>		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	新規採用職員研修	147	144	145	136	126	125	新規役付職員研修	24	26	15	10	4	6	新規監督者研修	14	14	28	25	18	18	新任管理者・新任監督者研修	6	17	-	34	28	35	コミュニケーション講座	17	23	21	20	24	30	プレゼンテーション講座	40	29	31	-	-	-	ファシリテーション講座	-	-	-	23	20	11月予定	コーチング講座	32	32	28	32	18	10月予定	メンタルサポート講座	23	20	21	25	25	12月予定	A	階層別、業務に必要なスキルを身につける専門研修を実施した。	<p>・職種に応じた研修が継続的に実施されている。</p> <p>・研修体系は病院機構共通のものであり、各病院では職種に応じた様々な研修を行っている。</p>																																					
	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末																																																																																																											
新規採用職員研修	147	144	145	136	126	125																																																																																																											
新規役付職員研修	24	26	15	10	4	6																																																																																																											
新規監督者研修	14	14	28	25	18	18																																																																																																											
新任管理者・新任監督者研修	6	17	-	34	28	35																																																																																																											
コミュニケーション講座	17	23	21	20	24	30																																																																																																											
プレゼンテーション講座	40	29	31	-	-	-																																																																																																											
ファシリテーション講座	-	-	-	23	20	11月予定																																																																																																											
コーチング講座	32	32	28	32	18	10月予定																																																																																																											
メンタルサポート講座	23	20	21	25	25	12月予定																																																																																																											
I 2 (2)	67	①・柔軟な職員採用や多様な雇用形態・勤務条件の設定を図る。	<p>・H30.9月末実績</p> <p>・看護師の2交代制勤務については、H30年度9月末で総合病院15病棟、こころの医療センター3病棟、こども病院9病棟となっている。</p> <p>・看護師の夜勤専従について、3病院で試行を行っている。</p> <p>・第2期中期目標期間（H26～30）</p> <p>・法人化による雇用の柔軟性・機動性を発揮し、患者に必要な医療を適切に提供するとともに、経営改善及び職員の勤務条件の改善に取り組んだ。</p> <p>・看護師の2交代制勤務については、労働組合との合意により試行を経て制度化し、H26年度以降も実施病棟を拡大した。</p> <p>・看護師の夜勤専従については、労働組合との合意により試行を実施している。</p> <p>・H28年度から新たにアソシエイト制度を創設し、優秀な有期職員の登用を進めている。</p> <p>・看護師、事務、コメディカルの優秀な有期職員をアソシエイトに登用し人材確保を図った。</p> <p>・H29年度から新たに採用した医師を対象に、初任給調整手当を廃止し、その原資を活用して、期間内の手術や外来等の診療実績を評価して支給する診療賞与を導入した。</p> <p>アソシエイト採用実績（単位：人）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>看護師</td> <td>5</td> <td>1</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>事務</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>コメディカル</td> <td>-</td> <td>3</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>7</td> <td>6</td> <td>5</td> </tr> </tbody> </table>	区分	28年度	29年度	30年9月末	看護師	5	1	-	事務	2	2	1	コメディカル	-	3	4	計	7	6	5	A	<p>看護師の2交代制や夜勤専従の取組など、雇用形態の多様化を図った。</p> <p>看護師や事務職員に続き、コメディカルでもアソシエイト職員を採用し、優秀な人材確保を進めた。</p> <p>診療賞与の導入により、医師の診療実績を的確に反映する給与体系となった。</p>	<p>・地方独立行政法人としての柔軟性・機動性を発揮して雇用・勤務・給与体系の改善に取り組み、医療従事者の就労環境の向上と病院経営の効率性の両立が図られている。</p> <p>・2交代制勤務は、選択可能な病棟が増加しており職員からの評価が高いようであるが、夜勤専従は希望者が少ない状況である。</p> <p>・H28に開始したアソシエイトの採用については、現在は有期職員からの登用者が多く、職員のモチベーションのアップや有能な人材の確保に繋がっている。</p> <p>※No.105と類似</p>																																																																																							
区分	28年度	29年度	30年9月末																																																																																																														
看護師	5	1	-																																																																																																														
事務	2	2	1																																																																																																														
コメディカル	-	3	4																																																																																																														
計	7	6	5																																																																																																														
	68	②・医療従事者の事務的業務の軽減を図り、本来業務に専念できる環境の整備や業務多忙を解消するために、医療秘書・助手等を効果的に配置する。	<p>補助職員の配置状況（単位：人）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">総合</td> <td>医師事務補助</td> <td>31</td> <td>50</td> <td>55</td> <td>66</td> <td>73</td> </tr> <tr> <td>看護助手</td> <td>71</td> <td>88</td> <td>81</td> <td>80</td> <td>74</td> </tr> <tr> <td>コメディカル助手</td> <td>16</td> <td>18</td> <td>17</td> <td>18</td> <td>18</td> </tr> <tr> <td>小計</td> <td>118</td> <td>156</td> <td>153</td> <td>164</td> <td>165</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">こころ</td> <td>医師事務補助</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>看護助手</td> <td>9</td> <td>10</td> <td>8</td> <td>8</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>コメディカル助手</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>小計</td> <td>12</td> <td>13</td> <td>12</td> <td>12</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">こども</td> <td>医師事務補助</td> <td>18</td> <td>18</td> <td>18</td> <td>18</td> <td>19</td> </tr> <tr> <td>看護助手</td> <td>20</td> <td>19</td> <td>21</td> <td>22</td> <td>21</td> </tr> <tr> <td>コメディカル助手</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>5</td> <td>5</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>小計</td> <td>42</td> <td>41</td> <td>44</td> <td>45</td> <td>44</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">計</td> <td>医師事務補助</td> <td>50</td> <td>69</td> <td>75</td> <td>86</td> <td>93</td> </tr> <tr> <td>看護助手</td> <td>100</td> <td>117</td> <td>110</td> <td>110</td> <td>104</td> </tr> <tr> <td>コメディカル助手</td> <td>22</td> <td>24</td> <td>24</td> <td>25</td> <td>25</td> </tr> <tr> <td>小計</td> <td>172</td> <td>210</td> <td>209</td> <td>221</td> <td>222</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	総合	医師事務補助	31	50	55	66	73	看護助手	71	88	81	80	74	コメディカル助手	16	18	17	18	18	小計	118	156	153	164	165	こころ	医師事務補助	1	1	2	2	2	看護助手	9	10	8	8	9	コメディカル助手	2	2	2	2	2	小計	12	13	12	12	13	こども	医師事務補助	18	18	18	18	19	看護助手	20	19	21	22	21	コメディカル助手	4	4	5	5	5	小計	42	41	44	45	44	計	医師事務補助	50	69	75	86	93	看護助手	100	117	110	110	104	コメディカル助手	22	24	24	25	25	小計	172	210	209	221	222	A	<p>医師の事務補助を行う職員の配置については、電子カルテの入力業務等により、医師が診療に専念できる等、事務負担軽減の効果が確認されている。</p> <p>総合では、医師の増加、外来診療枠の拡大に応じて医師事務作業補助者を増員し、医療従事者が診療に専念できるように配置している。診療報酬においては、最上位基準を維持している。</p> <p>また、看護助手等の補助職員の配置により、医療従事者が国家資格所有者でなければできない業務に専念できている。</p>	<p>・補助職員を継続して配置しており、医療従事者の負担軽減が図られている。</p> <p>・医師事務作業補助職員の配置により医師の業務の3割程度が軽減、看護助手の配置により看護師の業務の2～3割程度が軽減したという聞き取り調査結果が得られており効果を発揮している。</p>
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度																																																																																																											
総合	医師事務補助	31	50	55	66	73																																																																																																											
	看護助手	71	88	81	80	74																																																																																																											
	コメディカル助手	16	18	17	18	18																																																																																																											
	小計	118	156	153	164	165																																																																																																											
こころ	医師事務補助	1	1	2	2	2																																																																																																											
	看護助手	9	10	8	8	9																																																																																																											
	コメディカル助手	2	2	2	2	2																																																																																																											
	小計	12	13	12	12	13																																																																																																											
こども	医師事務補助	18	18	18	18	19																																																																																																											
	看護助手	20	19	21	22	21																																																																																																											
	コメディカル助手	4	4	5	5	5																																																																																																											
	小計	42	41	44	45	44																																																																																																											
計	医師事務補助	50	69	75	86	93																																																																																																											
	看護助手	100	117	110	110	104																																																																																																											
	コメディカル助手	22	24	24	25	25																																																																																																											
	小計	172	210	209	221	222																																																																																																											

第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

年度計画	No.	行動計画	業務の実績	30年度9月末実績 自己評価		
				説明	医療政策課確認・評価	
	69	③・全職員を対象とした人事評価制度の試行を円滑に実施する。	<ul style="list-style-type: none"> ・H30.9月末実績 ・県に準拠した人事評価制度を導入することを職員組合と合意し、H30年4月から試行を開始した。 ・第2期中期目標期間(H26～30) ・H26年10月より看護師監督者層を対象とした勤務成績評価制度の試行を開始した。 ・試行対象職員 看護師監督者層 (看護部長、副看護部長、看護部長、副看護部長) ・H27年度は、対象をコメディカル監督者層及び事務職員(県派遣職員)、管理者層に拡大し、試行した。 ・H28年度は、対象を看護師、コメディカル及び事務職員(プロパー)の副主任以上とし、試行した。 	A	<p>勤務評価制度の試行については、本部と各病院が連携し、円滑に制度を実施できたところであり、職員のモチベーション向上等への寄与が図られたものと考えている。県に準拠した人事評価制度の導入に向け、職員組合と合意した。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで人材育成やモチベーションアップを目的として勤務評価制度を行ってきたが、より実効的な評価を実施するため、今年度から県に準拠した人事評価制度を試行している。 ・対象は全職員であり、上期・下期の評価(有期職員は年1回)を行う。今後、賞与(勤勉手当)・昇給等へ反映するため、引き続き職員組合と交渉していく。 ※No. 104と類似
	70	④・就労環境の改善に向けた院内施設の充実のための検討を進める。	<ul style="list-style-type: none"> ・H30.9月末実績 総合病院では、医師の就労環境の改善のため、ドクターズクラブをH30年8月にオープンした。H29年～30年には、医師確保対策を更に推進するため医師宿舎新規建設工事が着工され、H30年10月に完成予定である。院内保育所では、保育所運営協議会にて、事務局、委託先、利用者間で意見交換を行った。 こども病院院内保育所の建替工事については、H30年9月に着工し、H31年3月に竣工予定である。 総合・こども病院ともに、院内保育所入所者を対象にインフルエンザ予防接種を11、12月に実施する予定である。 ・第2期中期目標期間(H26～30) 総合病院では宿舎の大規模修繕(H26.27)、新看護師宿舎の建設(H27)を行い、院内保育所では、土曜日の保育時間延長(H26.10～)や、入所者へのインフルエンザ予防接種(H26～)を行った。 こころの医療センターでは、H29年度から看護師宿舎の有効活用のため、総合病院看護師の同居希望者受入を開始している。 こども病院では、研修修宿舎(F棟)の改修(H28)を行った。 	A	<p>総合病院の医師宿舎新規建設、こども病院院内保育所建替工事を着工し、院内施設の充実を図っている。ここでは、資産の有効活用への取り組みを開始した。引き続き、就労環境の向上に取り組んでいく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・医師宿舎や院内保育所の整備など就労環境の整備が図られている。 ・総合病院では新たな医師宿舎(全8戸)が10月に完成し、今後、医師確保への貢献が期待される。 ・医師専用の福利厚生施設であるドクターズクラブ「フロンティア」については、8月のオープンからこれまで延べ350人程度が利用している。特に心臓血管外科や消化器外科など、長時間の手術を行う診療科医師の利用が多く、アンケート結果でも「くつろぎ・リフレッシュ空間と思う」利用者は92%と就労環境の改善に寄与している。 ・H31.1月から労務管理部署が設置された(既存職員の兼務)。

第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

年度計画	No.	行動計画	業務の実績	30年度9月末実績 自己評価																																																		
				説明	医療政策課確認・評価																																																	
	71	⑤・院内保育所建替え工事を実施し運営方針を策定する。	<p>ことも</p> <p>運営方針が決定され、H30年9月に建設に着工し、H30年度末の竣工を予定している。 H30年9月28日時点で工事の進捗状況は2.22%である。</p>	A	<p>運営方針を決定し、計画を着実に進めている。</p> <p>・当初計画に対し、進捗状況の遅れや事業費の増大が見られるなど見通しが甘かった面があるものの、建替により受け入れの幅が広がり、就労環境の向上が期待される。</p> <p>※定員規模の拡大、利用年齢の引き上げ（4歳未満→6歳（小学校就学前））、二重保育の可能、病児等保育（体調不良児の受け入れ）</p>																																																	
I 2 (3)	72	知識や技術の普及 ①学会や研修会等へ積極的に参加できる仕組みづくり ②認定看護師等の資格保有者の活用 ③県内の医療従事者への教育研修機能の開放	<p>①・H30.9月末実績 医師や研修医をはじめとする医療スタッフが研究雑費や研究旅費等の予算化等により国内外の学会や研修会へ参加した。</p> <p>・第2期中期目標期間(H26～30) ・研究研修費を活用し、職員が積極的に学会や研修会等に参加した。 ・医師や研修医をはじめとする医療スタッフが研究雑費や研究旅費等の予算化等により国内外の学会や研修会へ参加した。</p> <p>(総合) 海外研修の実績 (H30年9月末) (単位:人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>内 容</th> <th>人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>日韓耳鼻咽喉科頭頸部外科合同会議</td><td>1</td></tr> <tr><td>欧州スポーツ外傷・膝外科・関節鏡学会</td><td>1</td></tr> <tr><td>国際超音波内視鏡学術大会</td><td>2</td></tr> <tr><td>Cochlear Japan Surgeons' Workshop</td><td>1</td></tr> <tr><td>欧州腎臓学会・透析移植学会</td><td>1</td></tr> <tr><td>米国胸部疾患学会</td><td>3</td></tr> <tr><td>中国透視血管通路鏡江フォーラム</td><td>2</td></tr> <tr><td>アジアンスパイン</td><td>1</td></tr> <tr><td>国際磁気共鳴医学会</td><td>2</td></tr> <tr><td>オーストラリア・ニュージーランド集中治療学会</td><td>1</td></tr> <tr><td>国際肝胆膵外科学会</td><td>1</td></tr> <tr><td>欧州皮膚科学・性病学会学術大会</td><td>1</td></tr> <tr><td>欧州呼吸器学会国際会議</td><td>2</td></tr> <tr><td>心臓血管カテーテル学会議</td><td>2</td></tr> <tr><td>臨床研修医UCLA研修</td><td>2</td></tr> <tr><td>計</td><td>23</td></tr> </tbody> </table> <p>学会発表実績 (国内外) (単位:人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>発表数</td> <td>412</td> <td>460</td> <td>472</td> <td>578</td> <td>600</td> <td>314</td> </tr> </tbody> </table>	内 容	人数	日韓耳鼻咽喉科頭頸部外科合同会議	1	欧州スポーツ外傷・膝外科・関節鏡学会	1	国際超音波内視鏡学術大会	2	Cochlear Japan Surgeons' Workshop	1	欧州腎臓学会・透析移植学会	1	米国胸部疾患学会	3	中国透視血管通路鏡江フォーラム	2	アジアンスパイン	1	国際磁気共鳴医学会	2	オーストラリア・ニュージーランド集中治療学会	1	国際肝胆膵外科学会	1	欧州皮膚科学・性病学会学術大会	1	欧州呼吸器学会国際会議	2	心臓血管カテーテル学会議	2	臨床研修医UCLA研修	2	計	23	区 分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	発表数	412	460	472	578	600	314	A	<p>医師や研修医をはじめとする医療スタッフが研究雑費や研究旅費等の予算化等により国内外の学会や研修会等へ参加し、研究発表を行った。</p>	<p>・新技術・知識習得のための各種研修会・講習会への参加、情報収集のための各種図書購入等を推進している。</p>
内 容	人数																																																					
日韓耳鼻咽喉科頭頸部外科合同会議	1																																																					
欧州スポーツ外傷・膝外科・関節鏡学会	1																																																					
国際超音波内視鏡学術大会	2																																																					
Cochlear Japan Surgeons' Workshop	1																																																					
欧州腎臓学会・透析移植学会	1																																																					
米国胸部疾患学会	3																																																					
中国透視血管通路鏡江フォーラム	2																																																					
アジアンスパイン	1																																																					
国際磁気共鳴医学会	2																																																					
オーストラリア・ニュージーランド集中治療学会	1																																																					
国際肝胆膵外科学会	1																																																					
欧州皮膚科学・性病学会学術大会	1																																																					
欧州呼吸器学会国際会議	2																																																					
心臓血管カテーテル学会議	2																																																					
臨床研修医UCLA研修	2																																																					
計	23																																																					
区 分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末																																																
発表数	412	460	472	578	600	314																																																
			<p>こも</p> <p>研究研修費を活用し、職員が積極的に学会や研修会等に参加した。</p> <p>学会発表実績 (単位:件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>事業件数</td> <td>451</td> <td>466</td> <td>468</td> <td>496</td> <td>470</td> <td>集計中</td> </tr> </tbody> </table>	区 分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	事業件数	451	466	468	496	470	集計中	A	<p>学会や研修会等へ積極的に参加し、研究発表を行っている。</p>																																			
区 分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度																																																
事業件数	451	466	468	496	470	集計中																																																
			<p>こも</p> <p>研究研修費を活用し、職員が積極的に学会や研修会等に参加した。</p> <p>学会発表実績 (単位:件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>事業件数</td> <td>451</td> <td>466</td> <td>468</td> <td>496</td> <td>470</td> <td>集計中</td> </tr> </tbody> </table>	区 分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	事業件数	451	466	468	496	470	集計中	A	<p>各職員が学会や研修会等に参加して知識や技術を習得することで、病院全体のレベルアップに寄与した。</p>																																			
区 分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度																																																
事業件数	451	466	468	496	470	集計中																																																

年度計画	No.	行動計画	業務の実績	30年度9月末実績 自己評価																																																																																																																							
				説明	医療政策課確認・評価																																																																																																																						
	73	②・院内における資格取得を支援し、活用を促進する。	<p>・H30.9月末実績</p> <p>・第2期中期目標期間(H26～30) 看護師、コメディカル、事務が業務を実施するうえで、有用な資格等の取得を支援し、職員のレベルアップを図る。</p> <p>資格等取得助成制度利用者 (単位:人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">総合</td> <td>看護師</td> <td>10</td> <td>10</td> <td>7</td> <td>27</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>コメディカル</td> <td>4</td> <td>13</td> <td>4</td> <td>11</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>事務</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>14</td> <td>24</td> <td>11</td> <td>38</td> <td>20</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">こころ</td> <td>看護師</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>コメディカル</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>事務</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">こども</td> <td>看護師</td> <td>19</td> <td>27</td> <td>9</td> <td>30</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>コメディカル</td> <td>1</td> <td>3</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>事務</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>20</td> <td>30</td> <td>9</td> <td>30</td> <td>4</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>本部</td> <td>事務</td> <td>2</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">計</td> <td>看護師</td> <td>29</td> <td>37</td> <td>16</td> <td>57</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td>コメディカル</td> <td>6</td> <td>16</td> <td>4</td> <td>11</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>事務</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>37</td> <td>54</td> <td>21</td> <td>68</td> <td>24</td> <td>4</td> </tr> </tbody> </table>		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	総合	看護師	10	10	7	27	8	コメディカル	4	13	4	11	12	事務	0	1	0	0	0	計	14	24	11	38	20	0	こころ	看護師	0	0	0	0	0	コメディカル	1	0	0	0	0	事務	0	0	1	0	0	計	1	0	1	0	0	0	こども	看護師	19	27	9	30	3	コメディカル	1	3	0	0	0	事務	0	0	0	0	1	計	20	30	9	30	4	4	本部	事務	2	0	0	0	0	計	看護師	29	37	16	57	11	コメディカル	6	16	4	11	12	事務	2	1	1	0	1	計	37	54	21	68	24	4	<p>A 資格等取得助成制度は、H24年度から開始し、毎年度一定数の利用者があり、資格取得者は増加している。</p>	<p>・資格等取得助成制度は一定数の利用者があり、職員の資格取得の動機付けとなっていると考えられる。</p> <p>・助成制度のほか、貸付制度も整備されている（促進貸付制度、資格取得資金貸付制度）。</p> <p>・助成制度と貸付制度は併用可能（助成制度は受験料及び受験に義務付けられた講習等に対して、貸付制度は資格取得のために必要な研修受講料に対して支給）。</p> <p>・資格等取得資金貸付制度は、累計11名（H26 4名、H27 2名、H28 4名、H29 1名）へ貸与し、修学促進貸付制度は、累計1名（H28 1名）に貸与している。 ※No. 64類似</p>
	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末																																																																																																																					
総合	看護師	10	10	7	27	8																																																																																																																					
	コメディカル	4	13	4	11	12																																																																																																																					
	事務	0	1	0	0	0																																																																																																																					
計	14	24	11	38	20	0																																																																																																																					
こころ	看護師	0	0	0	0	0																																																																																																																					
	コメディカル	1	0	0	0	0																																																																																																																					
	事務	0	0	1	0	0																																																																																																																					
計	1	0	1	0	0	0																																																																																																																					
こども	看護師	19	27	9	30	3																																																																																																																					
	コメディカル	1	3	0	0	0																																																																																																																					
	事務	0	0	0	0	1																																																																																																																					
計	20	30	9	30	4	4																																																																																																																					
本部	事務	2	0	0	0	0																																																																																																																					
計	看護師	29	37	16	57	11																																																																																																																					
	コメディカル	6	16	4	11	12																																																																																																																					
	事務	2	1	1	0	1																																																																																																																					
計	37	54	21	68	24	4																																																																																																																					
	74	③・地域の医療機関等の看護師、保健師への実習研修を継続実施する。	<p>こども</p> <p>実習研修受入れ実績 (単位:人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>受入数</td> <td>304</td> <td>309</td> <td>391</td> <td>434</td> <td>499</td> <td>286</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	受入数	304	309	391	434	499	286	<p>A 看護部が中心となり、院内関係部署の調整・研修プログラムを準備し、増加する実習希望に対し、実習研修を行った。</p>	<p>・件数は順調に推移しており地域医療への貢献が継続して図られている。</p> <p>・研修プログラムは実習の依頼元からの求めに応じて個別対応している。</p>																																																																																																								
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末																																																																																																																					
受入数	304	309	391	434	499	286																																																																																																																					
	75	③・講演会やセミナーなどを開催する。	<p>総合</p> <p>公開講演会開催実績 (医療機関向け) (単位:回)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>開催件数</td> <td>20</td> <td>26</td> <td>13</td> <td>29</td> <td>27</td> <td>10</td> </tr> </tbody> </table> <p>こども</p> <p>公開講演会開催実績 (医療機関向け) (単位:回)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>開催件数</td> <td>17</td> <td>19</td> <td>23</td> <td>15</td> <td>17</td> <td>5</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	開催件数	20	26	13	29	27	10	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	開催件数	17	19	23	15	17	5	<p>A- 講演会、症例検討会を定期的に開催した。職員のみならず院外の医療従事者に対して知識や技術の普及を行っている。</p> <p>A- オープンセミナー、講演会等を定期的に開催するとともに、別室での映像配信やDVDの配付等を行い、会場の収容人数を超える参加希望者に対応した。</p>	<p>・院内外の医療関係者を対象とした定期的な講演会や、地域の医療従事者への継続的な実習研修を行い、知識や技術の普及に努めている。</p>																																																																																										
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末																																																																																																																					
開催件数	20	26	13	29	27	10																																																																																																																					
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末																																																																																																																					
開催件数	17	19	23	15	17	5																																																																																																																					

第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

年度計画	No.	行動計画	業務の実績	30年度9月末実績 自己評価		医療政策課確認・評価																																																																																																																																											
				説明																																																																																																																																													
I 3	-	-	-	-	-																																																																																																																																												
I 3 (1)	76	①・臨床研究や疫学研究の充実 ・研究員を確保し、円滑な運用を行う。 ②・研究体制を充実させ、受託研究を円滑に行い、研究成果を体形的に蓄積するとともに、県民へ成果の還元を行う。 ③・研究資金となる奨学寄附金を受入れる。 ④・臨床試験管理センターによる臨床研究の支援を行う。 ⑤・県立大学との共同研究を行う。	<p>・H30.9月末実績</p> <p>静岡県とH30 年度社会健康医学に関する研究委託契約を締結（8月20日付）し、先端医学棟5階リサーチサポートセンターにおいて、3つの研究テーマ（医療ビッグデータの活用、効果的な健康増進施策・疾病予防対策のための疫学研究、ゲノムコホート研究）への取組を開始した。</p> <p>・第2期中期期間（H26～30）</p> <p>・総合病院循環器病センター6階に県立大学薬学部の臨床薬剤学教室、臨床薬効解析学教室、医薬品情報解析学教室分室が設置され、総合病院薬剤部との共同研究を行う体制を取っている。</p> <p>・北館6階に、臨床医学研究センターを設置。</p> <p>・H27年度から外部客員研究員の受入を開始し、臨床研究のサポートを実施。</p> <p>・H29年度から先端医学棟5階に「リサーチサポートセンター」を設置。遺伝子解析、統計解析、検体の収集・保存・解析、県民の疾病分析などを行う体制を整備した。</p> <p>・「リサーチサポートセンター」内に「きこえとことばのセンター」（静岡県乳幼児難聴支援センター）を設置。新生児聴覚スクリーニングのデータ収集や難聴児の言語発達の研究などを行う体制を整備した。</p> <p>・県立大学薬学部の4つ研究室を循環器病センター6階から先端医学棟5階に移転し、共同研究の体制を強化した。</p> <p>・H29年度における外部客員研究員の新規受入状況 3名</p> <table border="1"> <caption>臨床研究数 (単位: 件、%)</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>研究数</td> <td>195</td> <td>213</td> <td>233</td> <td>266</td> <td>279</td> <td>264</td> </tr> <tr> <td>支援研究数</td> <td>36</td> <td>53</td> <td>46</td> <td>46</td> <td>43</td> <td>36</td> </tr> <tr> <td>支援率</td> <td>18.5</td> <td>24.9</td> <td>19.7</td> <td>17.3</td> <td>15.4</td> <td>13.6</td> </tr> </tbody> </table> <p>客員研究員受入状況 (単位: 人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>静岡県立大学</td> <td>8</td> <td>7</td> <td>14</td> <td>14</td> <td>14</td> <td>14</td> </tr> <tr> <td>外部</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>4</td> <td>7</td> <td>9</td> <td>11</td> </tr> </tbody> </table> <p>奨学寄附金受入件数・金額</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>寄附者</th> <th>目的</th> <th>金額 (千円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="5">25年度</td> <td>アストラゼネカ</td> <td>呼吸器疾患・炎症における研究助成のため</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>第一三共東海支店</td> <td>骨代謝領域（乳癌）における研究</td> <td>500</td> </tr> <tr> <td>ロシュ・ダイアグノスティクス</td> <td>心血管病の予防と早期発見に関する研究</td> <td>3,000</td> </tr> <tr> <td>田辺三菱製薬東海支店</td> <td>糖尿病治療薬の有効性に関する研究</td> <td>500</td> </tr> <tr> <td>大日本住友製薬</td> <td>腎臓病治療薬の有効性に関する研究</td> <td>300</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">26年度</td> <td>キッセイ薬品工業静岡営業所</td> <td>食後高血糖の治療に関する研究</td> <td>500</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td></td> <td>5,800</td> </tr> <tr> <td>協和発酵キリン</td> <td>糖尿病疾患の治療に関する研究</td> <td>1,900</td> </tr> <tr> <td>協和発酵キリン</td> <td>透析患者の管理についての研究</td> <td>200</td> </tr> <tr> <td>小野薬品工業</td> <td>糖尿病・内分泌代謝疾患の治療に関する研究</td> <td>1,000</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">27年度</td> <td>第一三共東海支店</td> <td>循環器領域における研究</td> <td>500</td> </tr> <tr> <td>アストラゼネカ</td> <td>呼吸器疾患における研究</td> <td>1,000</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td></td> <td>4,600</td> </tr> <tr> <td>大正富山薬品</td> <td>糖尿病疾患の治療に関する研究</td> <td>600</td> </tr> <tr> <td>協和発酵キリン</td> <td>透析患者の管理についての研究</td> <td>200</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">28年度</td> <td>第一三共株式会社</td> <td>循環器領域における研究</td> <td>500</td> </tr> <tr> <td>田辺三菱製薬株式会社</td> <td>糖尿病治療薬の有効性評価に関する研究</td> <td>200</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td></td> <td>1,400</td> </tr> <tr> <td>興和創薬株式会社</td> <td>糖尿病疾患の治療に関する研究</td> <td>500</td> </tr> <tr> <td>小野薬品工業株式会社</td> <td>糖尿病・内分泌代謝疾患の治療に関する研究</td> <td>500</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">29年度</td> <td>小野薬品工業株式会社</td> <td>麻酔の及ぼす影響に関する研究</td> <td>500</td> </tr> <tr> <td>平 正福</td> <td>糖尿病・内分泌内科の研究費</td> <td>1,000</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td></td> <td>2,500</td> </tr> <tr> <td>日本ペーパードットコム株式会社</td> <td>SGLT2阻害薬の食行動に及ぼす影響</td> <td>300</td> </tr> <tr> <td>日本ペーパードットコム株式会社</td> <td>腎臓疾患等の研究用・実験用シリンジ法の有用性</td> <td>500</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">30年度</td> <td>合計</td> <td></td> <td>800</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	研究数	195	213	233	266	279	264	支援研究数	36	53	46	46	43	36	支援率	18.5	24.9	19.7	17.3	15.4	13.6	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	静岡県立大学	8	7	14	14	14	14	外部	-	-	4	7	9	11	区分	寄附者	目的	金額 (千円)	25年度	アストラゼネカ	呼吸器疾患・炎症における研究助成のため	100	第一三共東海支店	骨代謝領域（乳癌）における研究	500	ロシュ・ダイアグノスティクス	心血管病の予防と早期発見に関する研究	3,000	田辺三菱製薬東海支店	糖尿病治療薬の有効性に関する研究	500	大日本住友製薬	腎臓病治療薬の有効性に関する研究	300	26年度	キッセイ薬品工業静岡営業所	食後高血糖の治療に関する研究	500	合計		5,800	協和発酵キリン	糖尿病疾患の治療に関する研究	1,900	協和発酵キリン	透析患者の管理についての研究	200	小野薬品工業	糖尿病・内分泌代謝疾患の治療に関する研究	1,000	27年度	第一三共東海支店	循環器領域における研究	500	アストラゼネカ	呼吸器疾患における研究	1,000	合計		4,600	大正富山薬品	糖尿病疾患の治療に関する研究	600	協和発酵キリン	透析患者の管理についての研究	200	28年度	第一三共株式会社	循環器領域における研究	500	田辺三菱製薬株式会社	糖尿病治療薬の有効性評価に関する研究	200	合計		1,400	興和創薬株式会社	糖尿病疾患の治療に関する研究	500	小野薬品工業株式会社	糖尿病・内分泌代謝疾患の治療に関する研究	500	29年度	小野薬品工業株式会社	麻酔の及ぼす影響に関する研究	500	平 正福	糖尿病・内分泌内科の研究費	1,000	合計		2,500	日本ペーパードットコム株式会社	SGLT2阻害薬の食行動に及ぼす影響	300	日本ペーパードットコム株式会社	腎臓疾患等の研究用・実験用シリンジ法の有用性	500	30年度	合計		800			0	<p>・社会健康医学研究については、人材確保や機器整備等、研究体制の整備を着実に進めている。</p> <p>・文部科学省科研費の受入が可能な研究機関として指定を受けるため、文部科学省に対して申請を行った。</p>	<p>・リサーチサポートセンターの整備とそれに伴う客員研究員の受入により、研究体制の強化が図られている。</p> <p>・臨床研究も着実に実施されている。</p> <p>・臨床試験管理室職員やCRC（治験コーディネーター）による患者への説明や診療科間の調整等を行っている。</p> <p>・きこえとことばのセンターでは、聞こえを心配されている父母に対して、支援員が再検査や心配事の相談などに対応しており、乳幼児への難聴支援に寄与している。</p> <p>・H30.11月、浙江省を訪問し、研究分野での友好協力協定等を締結した（浙江大学医学院附属第四病院、浙江省衛生健康委員会、及び浙江大学医学院附属邵逸夫医院）。</p> <p>・社会健康医学研究については、県と研究委託契約を締結し、客員研究員の増加など体制が強化された。3つの研究（医療ビッグデータの活用、効果的な健康増進施策・疾病予防対策のための疫学研究、ゲノムコホート研究）の本格実施に向けて関係各所と調整中である。</p>
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末																																																																																																																																											
研究数	195	213	233	266	279	264																																																																																																																																											
支援研究数	36	53	46	46	43	36																																																																																																																																											
支援率	18.5	24.9	19.7	17.3	15.4	13.6																																																																																																																																											
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末																																																																																																																																											
静岡県立大学	8	7	14	14	14	14																																																																																																																																											
外部	-	-	4	7	9	11																																																																																																																																											
区分	寄附者	目的	金額 (千円)																																																																																																																																														
25年度	アストラゼネカ	呼吸器疾患・炎症における研究助成のため	100																																																																																																																																														
	第一三共東海支店	骨代謝領域（乳癌）における研究	500																																																																																																																																														
	ロシュ・ダイアグノスティクス	心血管病の予防と早期発見に関する研究	3,000																																																																																																																																														
	田辺三菱製薬東海支店	糖尿病治療薬の有効性に関する研究	500																																																																																																																																														
	大日本住友製薬	腎臓病治療薬の有効性に関する研究	300																																																																																																																																														
26年度	キッセイ薬品工業静岡営業所	食後高血糖の治療に関する研究	500																																																																																																																																														
	合計		5,800																																																																																																																																														
	協和発酵キリン	糖尿病疾患の治療に関する研究	1,900																																																																																																																																														
	協和発酵キリン	透析患者の管理についての研究	200																																																																																																																																														
	小野薬品工業	糖尿病・内分泌代謝疾患の治療に関する研究	1,000																																																																																																																																														
27年度	第一三共東海支店	循環器領域における研究	500																																																																																																																																														
	アストラゼネカ	呼吸器疾患における研究	1,000																																																																																																																																														
	合計		4,600																																																																																																																																														
	大正富山薬品	糖尿病疾患の治療に関する研究	600																																																																																																																																														
	協和発酵キリン	透析患者の管理についての研究	200																																																																																																																																														
28年度	第一三共株式会社	循環器領域における研究	500																																																																																																																																														
	田辺三菱製薬株式会社	糖尿病治療薬の有効性評価に関する研究	200																																																																																																																																														
	合計		1,400																																																																																																																																														
	興和創薬株式会社	糖尿病疾患の治療に関する研究	500																																																																																																																																														
	小野薬品工業株式会社	糖尿病・内分泌代謝疾患の治療に関する研究	500																																																																																																																																														
29年度	小野薬品工業株式会社	麻酔の及ぼす影響に関する研究	500																																																																																																																																														
	平 正福	糖尿病・内分泌内科の研究費	1,000																																																																																																																																														
	合計		2,500																																																																																																																																														
	日本ペーパードットコム株式会社	SGLT2阻害薬の食行動に及ぼす影響	300																																																																																																																																														
	日本ペーパードットコム株式会社	腎臓疾患等の研究用・実験用シリンジ法の有用性	500																																																																																																																																														
30年度	合計		800																																																																																																																																														
			0																																																																																																																																														

第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

年度計画	No.	行動計画	業務の実績	30年度9月末実績 自己評価																																																			
				説明	医療政策課確認・評価																																																		
	77	③・医療水準の向上と院内における医療の質の高度化に資するため、新薬開発や臨床研究などへ参画する。	<p>医薬品受託研究事業費・契約件数 (単位:千円、件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>29</td> <td>29</td> <td>29</td> <td>30</td> <td>29</td> <td>23</td> </tr> <tr> <td>契約額</td> <td>71,394</td> <td>86,805</td> <td>90,549</td> <td>78,259</td> <td>64,062</td> <td>31,877</td> </tr> <tr> <td>こころ</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>5</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>契約額</td> <td>537</td> <td>185</td> <td>1,139</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>350</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>14</td> <td>22</td> <td>29</td> <td>26</td> <td>15</td> <td>42</td> </tr> <tr> <td>契約額</td> <td>8,539</td> <td>7,610</td> <td>10,858</td> <td>19,656</td> <td>5,087</td> <td>13,867</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	総合	29	29	29	30	29	23	契約額	71,394	86,805	90,549	78,259	64,062	31,877	こころ	2	1	5	0	0	2	契約額	537	185	1,139	0	0	350	こども	14	22	29	26	15	42	契約額	8,539	7,610	10,858	19,656	5,087	13,867	A-	<ul style="list-style-type: none"> 製薬会社等からの依頼を受け、新薬開発に係る治験を行っている。 治験が終了し市販に至った薬品があり、新薬提供の一助となっている。 市販薬の市販後調査を適正に実施し、安心安全な医療に寄与している。 	<ul style="list-style-type: none"> こども病院では臨床研究管理センターを設置し、治験を含む臨床研究に取り組む体制を強化した。 こども病院では治験後市販に至ったものがH30.12月末時点で3件あり、新薬の承認に貢献している。
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末																																																	
総合	29	29	29	30	29	23																																																	
契約額	71,394	86,805	90,549	78,259	64,062	31,877																																																	
こころ	2	1	5	0	0	2																																																	
契約額	537	185	1,139	0	0	350																																																	
こども	14	22	29	26	15	42																																																	
契約額	8,539	7,610	10,858	19,656	5,087	13,867																																																	
I 3 (2)	78	①・DPCの診療情報に基づく症例分析を行う。	<ul style="list-style-type: none"> H30.9月末実績 9月末までにDPC部会兼コード検討委員会を2回開催した。年度内に合計で4回開催する予定。 H30年9月までの会議実績 DPC運営部会 (8/17)、コーディング委員会 (7/9、9/6) 第2期中期目標期間 (H26~30) DPC分析ソフトを用いて、特定の症例について分析を行い、分析結果をもとに薬剤の積極的な切替を行った結果、後発品使用率が86.6% (H27年度) から92.3% (H28年度)、90.4% (H29年度) となった。 アナライザー、ダッシュボードを用いて、後発医薬品の使用率の算出を実現した。 H30年3月からDPC分析ソフトを変更しベンチマークデータの活用を行えるよう環境整備を行った。 <p>DPC部会兼コード検討委員会開催実績 (単位:回、人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>開催回数</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>4</td> <td>6</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>出席者数</td> <td>22</td> <td>26</td> <td>17</td> <td>32</td> <td>55</td> <td>24</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	開催回数	2	2	2	4	6	3	出席者数	22	26	17	32	55	24	A-	<ul style="list-style-type: none"> 病名のICD10-2013年度版への切り替えなど、適切なコーディングとなるよう検討を行った。 H30年からのDPCデータの調査項目の変更に伴い、運用を議論し、医師へ周知を行った。 H30年3月からのDPC分析ソフトの活用医局会資料として報告に活用している。 	<ul style="list-style-type: none"> 「H30年3月からのDPC分析ソフトの活用」について…DPCソフトの分析により、在院日数短縮に向けた取り組みに活用した。月次の医局会では分析ソフトを基に在院日数の短縮状況を報告している。 																												
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末																																																	
開催回数	2	2	2	4	6	3																																																	
出席者数	22	26	17	32	55	24																																																	
	79	①・DPCの診療情報を分析し、診療へフィードバックを行う。また、職員の分析にかかるスキルアップに努める。	<ul style="list-style-type: none"> DPCデータの分析結果を診療へ活かすとともに適切なコーディングを周知するため、DPC部会兼コード検討委員会を開催した。 <p>DPC部会兼コード検討委員会開催実績 (単位:回、人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>開催回数</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>出席者数</td> <td>37</td> <td>19</td> <td>23</td> <td>54</td> <td>53</td> <td>24</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	開催回数	2	2	2	4	4	2	出席者数	37	19	23	54	53	24	A	<ul style="list-style-type: none"> 部会兼委員会の委員を各部門の職員から構成し、必要な情報を各診療へフィードバックすることにより、診療情報の管理体制を整えた。 	<ul style="list-style-type: none"> 他病院と比較したコーディング（入院患者の診断群分類の決定）の検証やDPC出来高差のマイナス金額が大きい症例のコーディングを再検討した。 担当職員が様々な研修会に出席してスキルアップを図っている。 																												
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末																																																	
開催回数	2	2	2	4	4	2																																																	
出席者数	37	19	23	54	53	24																																																	
	80	②・公立病院としての説明責任・透明性の確保に努める。(不採算疾患例の明示、原価計算) ・【総】部門別、診療科別原価計算に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> H28年1月に原価計算システムを導入し、H30.10にシステム事業者との最終調整を行う予定。本格稼働に向けて、各課の担当者と月次運用手順を作成中である。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 原価計算システムの運用に向けて運用手順を調整中。 	<ul style="list-style-type: none"> 総合病院の原価計算については、月次決算をベースとした配賦基準等が決定され、今後はデータ提出元の各課と調整を行い月次運用手順を作成することとなるが、実用化には至っていない。 																																																	
		・【子】診療科別に経年変化を明らかにする原価計算に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> H26年度に導入検討を始め、H27年度には原価計算システムを導入、配賦基準等を定め、H28年度から本格的な運用を開始した。運用開始後は、DPCや財務会計のデータを用いて原価計算を行っている。 H30年度はH29年度までのデータ入力を完了し、各診療科別、年度別の経年比較のための作業を開始した。 	A-	<ul style="list-style-type: none"> 原価計算システムの導入により、診療科別の損益を計算することが可能となった。 経年比較により収支状況を把握し、内容の検討を開始した。 	<ul style="list-style-type: none"> 各年度の診療科別の診療材料や医薬品等の費用について増減分析し、他小児病院との比較により、病院経営の改善施策に活用すべく検討を進めているが、実用化には至っていない。 																																																	

第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

年度計画	No.	行動計画	業務の実績	30年度9月末実績 自己評価		医療政策課確認・評価																																																																																																		
				説明																																																																																																				
I 3 (3) 県民への情報提供の充実 ①定期的な公開講座、医療相談会等の開催 ②ホームページ等による健康管理・増進などについての情報提供	81	①・県民向け・医療機関向けの公開講座等を開催する。	<p>各病院、特色を活かした公開講座等を企画、開催した。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>病院</th> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">総合</td> <td>県民向け</td> <td>実施件数 6</td> <td>6</td> <td>6</td> <td>4</td> <td>10</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>参加者</td> <td>494</td> <td>416</td> <td>662</td> <td>495</td> <td>712</td> <td>116</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">医療機関</td> <td>実施件数</td> <td>20</td> <td>26</td> <td>13</td> <td>29</td> <td>27</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>参加者</td> <td>1,075</td> <td>626</td> <td>755</td> <td>1,765</td> <td>1,691</td> <td>621</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">こころ</td> <td>県民向け</td> <td>実施件数 3</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>参加者</td> <td>357</td> <td>15</td> <td>9</td> <td>6</td> <td>8</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">医療機関</td> <td>実施件数</td> <td>0</td> <td>4</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>5</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>参加者</td> <td>0</td> <td>96</td> <td>104</td> <td>81</td> <td>485</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">こども</td> <td>県民向け</td> <td>実施件数 2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>参加者</td> <td>52</td> <td>131</td> <td>124</td> <td>116</td> <td>149</td> <td>130</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">医療機関</td> <td>実施件数</td> <td>17</td> <td>19</td> <td>23</td> <td>15</td> <td>17</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>参加者</td> <td>738</td> <td>1,111</td> <td>1,228</td> <td>906</td> <td>799</td> <td>167</td> </tr> </tbody> </table>	病院	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	総合	県民向け	実施件数 6	6	6	4	10	3	参加者	494	416	662	495	712	116	医療機関	実施件数	20	26	13	29	27	10	参加者	1,075	626	755	1,765	1,691	621	こころ	県民向け	実施件数 3	1	1	2	2	1	参加者	357	15	9	6	8	13	医療機関	実施件数	0	4	2	3	5	0	参加者	0	96	104	81	485	0	こども	県民向け	実施件数 2	2	2	2	3	2	参加者	52	131	124	116	149	130	医療機関	実施件数	17	19	23	15	17	5	参加者	738	1,111	1,228	906	799	167	A-	公開講座の開催を通じて、県民・県内医療機関に対して、最新医療に関する情報提供を行うことができた。また、同時に、機構の取組みについてもPRすることができた。	<ul style="list-style-type: none"> 計画的に実施され、病院の機能や医療に関する知識について周知されている。 今年度は、県が主催する関西地区のふじのくに交流会（2月開催）で、総合病院・こども病院が出展しPRする予定である。
	病院	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末																																																																																																
	総合	県民向け	実施件数 6	6	6	4	10	3																																																																																																
参加者		494	416	662	495	712	116																																																																																																	
医療機関	実施件数	20	26	13	29	27	10																																																																																																	
	参加者	1,075	626	755	1,765	1,691	621																																																																																																	
こころ	県民向け	実施件数 3	1	1	2	2	1																																																																																																	
	参加者	357	15	9	6	8	13																																																																																																	
医療機関	実施件数	0	4	2	3	5	0																																																																																																	
	参加者	0	96	104	81	485	0																																																																																																	
こども	県民向け	実施件数 2	2	2	2	3	2																																																																																																	
	参加者	52	131	124	116	149	130																																																																																																	
医療機関	実施件数	17	19	23	15	17	5																																																																																																	
	参加者	738	1,111	1,228	906	799	167																																																																																																	
82	①【総/子】・県民向けイベントの開催や参加に努める。	<p>・H30 10月13日(土)にオープンホスピタルを開催予定。 来場者1,200人(見込)</p> <p>・第2期中期目標期間(H26～30) ・静岡県立総合病院の機能、設備、職員の姿を知ってもらうことによって、県民に開かれた病院であることを示しながら、本院の存在意義をより理解してもらうことを目的として、県民向け病院開放イベント「オープンホスピタル」を開催した。 H29年8月5日 来場者約1,400名 ・県民の日に合わせ、「県民の日講演会」を8/20に開催した。</p> <p>オープンホスピタル来場者数 (単位:人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>来場者数</td> <td>900</td> <td>-</td> <td>1,000</td> <td>1,200</td> <td>1,400</td> <td>1,200(見込)</td> </tr> </tbody> </table> <p>(株)静岡新聞社、静岡放送(株)が主催の「こどもみらいプロジェクト秋まつり inツインメッセ」に2日間参加し、健康相談及びこども用の医師・ナース服の着用体験のブースを出展した。</p> <p>こどもみらいプロジェクト来場者数 (単位:組、人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>健康相談</td> <td>28</td> <td>6</td> <td>10</td> <td>17</td> <td>22</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>写真撮影</td> <td>1,052</td> <td>875</td> <td>859</td> <td>1,288</td> <td>957</td> <td>1,064</td> </tr> </tbody> </table>	区 分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	来場者数	900	-	1,000	1,200	1,400	1,200(見込)	区 分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	健康相談	28	6	10	17	22	10	写真撮影	1,052	875	859	1,288	957	1,064	A	オープンホスピタルは、例年、夏休みの時期に開催しているが、本年度は北立体駐車場工事・エントランスホール工事の関係で、10月開催予定。	<ul style="list-style-type: none"> 継続して実施され（来場者数約1,200人）、病院の機能や医療に関する知識について周知されている。 																																																																
区 分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度																																																																																																		
来場者数	900	-	1,000	1,200	1,400	1,200(見込)																																																																																																		
区 分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度																																																																																																		
健康相談	28	6	10	17	22	10																																																																																																		
写真撮影	1,052	875	859	1,288	957	1,064																																																																																																		
83	②・県民及び他の医療機関従事者に、県立病院機構の有する医療情報等を積極的に提供するため、機構ホームページを適時、的確に更新する。	<p>・H30.9月末実績 機構全体のトピックスやプレスリリース、総合病院北立体駐車場の最新情報等を適時更新するなど、積極的に情報発信を行った。</p> <p>・第2期中期目標期間（H26～30） 各病院の医療情報やトピックス、入札情報や採用情報等を適時更新するなど、ホームページの活用を図った。 H27年1月には、機構及び3病院のホームページをリニューアルした結果アクセス数も伸び、機構のアピールにつながった。（H28からの実績は、アクセス数を管理するサイトの仕様変更があった。）H29年には、先端医学棟についての最新情報を適時更新するなど、積極的に情報発信を行った。</p> <p>セクション別アクセス件数 (単位:件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>本部</td> <td>291,958</td> <td>316,047</td> <td>271,467</td> <td>214,412</td> <td>218,435</td> <td>123,127</td> </tr> <tr> <td>総合病院</td> <td>1,582,445</td> <td>1,742,978</td> <td>1,935,315</td> <td>1,864,780</td> <td>2,017,729</td> <td>1,205,539</td> </tr> <tr> <td>こころ</td> <td>275,237</td> <td>285,800</td> <td>279,546</td> <td>269,084</td> <td>275,298</td> <td>187,521</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>1,518,204</td> <td>1,510,609</td> <td>1,519,362</td> <td>1,452,729</td> <td>1,551,263</td> <td>892,610</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>3,667,844</td> <td>3,855,434</td> <td>4,005,690</td> <td>3,801,005</td> <td>4,062,725</td> <td>2,408,797</td> </tr> </tbody> </table>	区 分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	本部	291,958	316,047	271,467	214,412	218,435	123,127	総合病院	1,582,445	1,742,978	1,935,315	1,864,780	2,017,729	1,205,539	こころ	275,237	285,800	279,546	269,084	275,298	187,521	こども	1,518,204	1,510,609	1,519,362	1,452,729	1,551,263	892,610	合計	3,667,844	3,855,434	4,005,690	3,801,005	4,062,725	2,408,797	A	総合病院北立体駐車場の最新情報やトピックスの更新など、積極的にホームページの活用を図ることが出来た。その結果アクセス数も増加しているので、引き続き積極的な情報発信に努める。	<ul style="list-style-type: none"> 最新情報が随時更新されており、外部への情報提供が適切に実施されている。 																																																									
区 分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末																																																																																																		
本部	291,958	316,047	271,467	214,412	218,435	123,127																																																																																																		
総合病院	1,582,445	1,742,978	1,935,315	1,864,780	2,017,729	1,205,539																																																																																																		
こころ	275,237	285,800	279,546	269,084	275,298	187,521																																																																																																		
こども	1,518,204	1,510,609	1,519,362	1,452,729	1,551,263	892,610																																																																																																		
合計	3,667,844	3,855,434	4,005,690	3,801,005	4,062,725	2,408,797																																																																																																		

第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

年度計画	No.	行動計画	業務の実績	30年度9月末実績 自己評価		医療政策課確認・評価																																																								
				説明																																																										
	84	③・県民に病院の運営にかかる情報を戦略的に広報するため、報道機関向けの情報発信の推進を図る。	<p>最先端医療への取組や各病院で開催する県民向けの公開講座、各種イベントなどについて、積極的に情報提供を行い、情報発信の推進を図った。 H28年度から各病院でのプレスリリース実績を共有ファイルで管理するようし、各病院の実績の把握及び機構全体での情報共有を図った。</p> <p>記者情報提供件数 (単位: 件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>提供件数</td> <td>46</td> <td>40</td> <td>41</td> <td>48</td> <td>47</td> <td>21</td> </tr> <tr> <td>掲載件数</td> <td>27</td> <td>25</td> <td>27</td> <td>31</td> <td>35</td> <td>16</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	提供件数	46	40	41	48	47	21	掲載件数	27	25	27	31	35	16	A	<p>県政記者クラブへの情報提供について、各病院の実績を共有ファイル管理するとともに標準化を行い、記者提供が正確に行われるようになった。 提供件数は高い水準を保っており、情報提供についての意識向上に繋がっている</p>	・継続的に実施されており、件数も増加している。																																			
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末																																																								
提供件数	46	40	41	48	47	21																																																								
掲載件数	27	25	27	31	35	16																																																								
I 4	-	医療に関する地域への支援 地域医療支援の中心的機能を果たすため、急性期病院として必要な医師を確保し、自らの診療体制を確立した上で、地域の医療機関への医師派遣に協力するとともに、高度医療機器等の共同利用を推進するなど、人材、施設・設備両面での地域の医療機関への支援を推進する。	-	-	-																																																									
I 4 (1)	85	①・地域医療支援病院としての使命を果たすため、医師を確保したうえで、医師不足が顕著な公的病院に医師を派遣する。	<p>・H30.9月末実績 富士宮市立、静岡市立清水病院、佐久間病院、JA厚生連清水厚生病院、志太榛原地域救急医療センター、桜ヶ丘病院、川根本町いやしの里診療所に医師を派遣した。また、県の要請に基づき、重症心身障害児施設にも医師を派遣した。</p> <p>医師派遣実績 (単位: 機関、科、人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医療機関</td> <td>10</td> <td>11</td> <td>10</td> <td>9</td> <td>8</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>診療科</td> <td>11</td> <td>12</td> <td>9</td> <td>6</td> <td>9</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>延人員数</td> <td>616</td> <td>701</td> <td>775</td> <td>570</td> <td>577</td> <td>237</td> </tr> </tbody> </table> <p>静岡市立静岡病院、焼津市立総合病院、藤枝市立総合病院、島田市民病院、富士宮市立病院に医師を派遣した。また、県の要請に基づき、重症心身障害児施設にも医師を派遣した。</p> <p>医師派遣実績 (公的病院等) (単位: 機関、科、人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医療機関等</td> <td>6</td> <td>4</td> <td>7</td> <td>6</td> <td>7</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>診療科</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>延人員数</td> <td>662</td> <td>662</td> <td>958</td> <td>1078</td> <td>803</td> <td>284</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	医療機関	10	11	10	9	8	8	診療科	11	12	9	6	9	9	延人員数	616	701	775	570	577	237	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	医療機関等	6	4	7	6	7	6	診療科	2	1	2	2	2	2	延人員数	662	662	958	1078	803	284	A-	<p>県内公的6病院と1診療所に医師を派遣し、県内各地の地域医療を支援した。 また、公的病院だけでなく、県の要請に基づき、重症心身障害児施設にも医師を派遣し、地域貢献を果たした。</p>	・医師不足が生じている医療機関等に対する医師派遣要望に適切に対応している。県補助によらない派遣にも地域医療支援病院として対応しており、地域医療の確保に貢献している。
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末																																																								
医療機関	10	11	10	9	8	8																																																								
診療科	11	12	9	6	9	9																																																								
延人員数	616	701	775	570	577	237																																																								
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末																																																								
医療機関等	6	4	7	6	7	6																																																								
診療科	2	1	2	2	2	2																																																								
延人員数	662	662	958	1078	803	284																																																								
	86	①・小児1次救急医療への応援を行う。	<p>静岡市急病センター、志太榛原地域救急医療センターへ継続的に医師を派遣した。</p> <p>医師派遣実績 (急病センター) (単位: 機関、科、人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医療機関</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>診療科</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>延人員数</td> <td>304</td> <td>313</td> <td>292</td> <td>295</td> <td>294</td> <td>105</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	医療機関	2	2	2	2	2	2	診療科	2	2	2	2	2	2	延人員数	304	313	292	295	294	105	A	<p>静岡市急病センター、志太榛原地域救急医療センターへ継続的に医師を派遣し、地域の小児1次救急医療を支援した。</p>	地域医療支援病院として、地域の小児1次救急医療支援に貢献している。																												
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末																																																								
医療機関	2	2	2	2	2	2																																																								
診療科	2	2	2	2	2	2																																																								
延人員数	304	313	292	295	294	105																																																								
	87	②・各科医師定数を見直す。 ・静岡県の地域医療を支援していくために必要な医師数の検討を進める。	<p>他院や各医局と連携し、地域医療に必要となる医師の確保に努めた。富士宮市立、静岡市立清水病院、佐久間病院、JA厚生連清水厚生病院、志太榛原地域救急医療センター、桜ヶ丘病院、川根本町いやしの里診療所に医師を派遣した。また、県の要請に基づき、重症心身障害児施設にも医師を派遣した。</p> <p>医師現員数 (単位: 人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>H25.4.1</th> <th>H26.4.1</th> <th>H27.4.1</th> <th>H28.4.1</th> <th>H29.4.1</th> <th>H30.4.1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>正規</td> <td>117</td> <td>123</td> <td>130</td> <td>139</td> <td>152</td> <td>165</td> </tr> <tr> <td>有期</td> <td>106</td> <td>108</td> <td>117</td> <td>111</td> <td>111</td> <td>109</td> </tr> </tbody> </table> <p>医師派遣実績 (単位: 機関、科、人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医療機関</td> <td>10</td> <td>11</td> <td>10</td> <td>9</td> <td>8</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>診療科</td> <td>11</td> <td>12</td> <td>9</td> <td>6</td> <td>9</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>延人員数</td> <td>616</td> <td>701</td> <td>775</td> <td>570</td> <td>577</td> <td>237</td> </tr> </tbody> </table>	区分	H25.4.1	H26.4.1	H27.4.1	H28.4.1	H29.4.1	H30.4.1	正規	117	123	130	139	152	165	有期	106	108	117	111	111	109	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	医療機関	10	11	10	9	8	8	診療科	11	12	9	6	9	9	延人員数	616	701	775	570	577	237	A-	<p>着実に医師を確保できている。県内公的6病院と1診療所に医師を派遣し、県内各地の地域医療を支援した。 また、公的病院だけでなく、県の要請に基づき、重症心身障害児施設にも医師を派遣し、地域貢献を果たした。 診療科によっては不足もあり、さらに充実させる必要がある。</p>	<p>・医師数は各診療科との調整を行いながら常に必要な人数を検討している。(H30の増減) 11名の増員 11科 22名 減員 6科 11名</p> <p>・今後、麻酔科、産婦人科、病理診断科の医師増員が必要である。</p> <p>・医師派遣の要望に応じて地域医療の支援に貢献している。(=No. 85)</p>							
区分	H25.4.1	H26.4.1	H27.4.1	H28.4.1	H29.4.1	H30.4.1																																																								
正規	117	123	130	139	152	165																																																								
有期	106	108	117	111	111	109																																																								
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末																																																								
医療機関	10	11	10	9	8	8																																																								
診療科	11	12	9	6	9	9																																																								
延人員数	616	701	775	570	577	237																																																								

第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

年度計画	No.	行動計画	業務の実績	30年度9月末実績 自己評価		医療政策課確認・評価																					
					説明																						
	88	③・ふじのくに地域医療支援センター機能の一部である業務を受託、運営する。	<p>・H30.9月末実績 『ふじのくに地域医療支援センター』の機能の一部業務である「県内での勤務を希望する医師および研修医の就業・キャリア形成等の相談」、「静岡県医学修学研修資金貸与者の勤務先病院の決定支援」や「女性医師支援」などの業務を受託し、県内医師確保のための役割の一部を担っている。</p> <p>・第2期中期期間（H26～30） 主な業務である静岡県医学修学研修資金貸与者の配置調整においては、H25年の受託開始からこれまで、当機構が配置調整を担当する医師数は着実に増加しており、うち県内に勤務を開始する医師数も年々増加している。</p> <p>配置調整医師数及び県内勤務開始者数（機構担当） (単位：名)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>勤務開始年度</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>配置調整医師数</td> <td>6</td> <td>12</td> <td>14</td> <td>34</td> <td>64</td> <td>64</td> </tr> <tr> <td>うち県内勤務医師数</td> <td>4</td> <td>6</td> <td>10</td> <td>22</td> <td>41</td> <td>39</td> </tr> </tbody> </table> <p>※配置調整は各前年度となる。</p>	勤務開始年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	配置調整医師数	6	12	14	34	64	64	うち県内勤務医師数	4	6	10	22	41	39	A	業務を受託し、県の医師確保施策に寄与できるよう努めた。	・調整対象者数は増加傾向にあり、30年度は配置調整対象医師数：64名について本人及び医療機関との調整を行い39名が県内勤務となる見込みである。
勤務開始年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末																					
配置調整医師数	6	12	14	34	64	64																					
うち県内勤務医師数	4	6	10	22	41	39																					
	89	④・専攻医を受け入れる体制を整備し、専攻医の募集を行う。	<p>総合</p> <p>・H30.9月末実績 ・修正を含め、9領域においてプログラムの申請を行い、全領域において「日本専門医機構」の審査を受け、合格した。 ・院内外研修医、学生に向けて、プログラム説明会を4回開催し、専門研修プログラムの魅力を発信した。 ・ホームページの広報など、積極的に募集を行っている。 H29年度 ・院内研修医に向けて、プログラム説明会を1回開催</p> <p>こころ</p> <p>・H30.9月末実績 ・H30年度開始の新専門医制度による専攻医1人を受け入れた。 ・医師確保のためのPR用DVDを作成し、希望者に配布するとともに、ホームページにアップするなど、周知を図っている。 ・H31年度プログラムを日本専門医機構に提出した。</p> <p>いこも</p> <p>H29年度から新制度に準じて実施された小児科専門医制度の基幹施設として、新制度に則った研修を実施している。 H30年度は、当院プログラムの積極的な周知を行い、小児科プログラム説明会への参加者がH29年度の12名から15名に増加するなど専攻医の確保に努めた。</p>	A	救急科、耳鼻咽喉科領域において、プログラムの新規申請を行い、専攻医の受け入れ枠を更に増やした。専攻医確保に向けて、プログラム説明会を実施、自作のPR動画を発信するなど、プログラムの魅力が伝わるような募集を行っている。	<p>・今年度から新専門医制度が開始され（小児科ではH29から開始）、各病院で研修プログラムを作成し受入体制を整備した。</p> <p>・説明会の開催や若手医師向けの動画を作成する等して応募者の確保に努めている。</p> <p>※H31の応募状況は以下のとおり 総合：募集：39人⇒応募：12人 こころ：募集：3人⇒応募：1人 こども：募集：8人⇒応募：4人</p>																					
				A-	<p>H30年度開始の新専門医制度プログラムを運用するための体制を整え、専攻医の募集及び受け入れを行っている。</p> <p>新制度による研修受入体制は整備しているが、H30年度は定員8名のところ、3名の採用に留まった。 H31年度に向けた専攻医確保のため、当院プログラムの周知を継続する。</p>																						

第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

年度計画	No.	行動計画	業務の実績	30年度9月末実績 自己評価		医療政策課確認・評価																																			
				説明																																					
I 4 (2) 地域医療への支援 ①PETイメージング・センター、CT、MRI等の共同利用の推進 ②IT技術を活用した地域医療機関等との連携及び支援	90	①・地域の医療機関や健診センターへの啓蒙活動を継続し、PET共同利用率の向上を図る。	<p>PETイメージングセンター共同利用 (単位:件、%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>件数</td> <td>4,121</td> <td>4,211</td> <td>4,276</td> <td>4,235</td> <td>3,758</td> <td>1,846</td> </tr> <tr> <td>共同利用件数</td> <td>1,635</td> <td>1,673</td> <td>1,623</td> <td>1,429</td> <td>905</td> <td>384</td> </tr> <tr> <td>共同利用率</td> <td>40</td> <td>39.7</td> <td>39.5</td> <td>33.7</td> <td>24.1</td> <td>20.8</td> </tr> <tr> <td>健診件数</td> <td>10</td> <td>165</td> <td>155</td> <td>168</td> <td>139</td> <td>86</td> </tr> </tbody> </table> <p>H30 新規健診契約施設：1 H29 新規健診契約施設：18 (静岡済生会病院など)</p>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	件数	4,121	4,211	4,276	4,235	3,758	1,846	共同利用件数	1,635	1,673	1,623	1,429	905	384	共同利用率	40	39.7	39.5	33.7	24.1	20.8	健診件数	10	165	155	168	139	86	A-	H29年4月に静岡市立病院がPETを独自整備したことにより、PET件数と共同利用率は減少している。H29年11月から新たな連携先の拡大に努めている。	・静岡市立病院が自前でPETを整備したため、H29以降共同利用は減少しているが、他の医療機関との連携強化が必要である。
	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末																																		
	件数	4,121	4,211	4,276	4,235	3,758	1,846																																		
	共同利用件数	1,635	1,673	1,623	1,429	905	384																																		
共同利用率	40	39.7	39.5	33.7	24.1	20.8																																			
健診件数	10	165	155	168	139	86																																			
91	①・地域の医療機関向けにCT・MRIの地域支援検査枠を増設し、共同利用件数の向上を図る。	<p>CT、MRI共同利用 (単位:件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>CT</td> <td>833</td> <td>762</td> <td>815</td> <td>919</td> <td>847</td> <td>450</td> </tr> <tr> <td>MRI</td> <td>626</td> <td>591</td> <td>645</td> <td>621</td> <td>543</td> <td>296</td> </tr> <tr> <td>CT(撮影のみ)</td> <td>8</td> <td>7</td> <td>1</td> <td>6</td> <td>2</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>MRI(撮影のみ)</td> <td>107</td> <td>133</td> <td>132</td> <td>129</td> <td>131</td> <td>24</td> </tr> </tbody> </table> <p>H22年度から従来の紹介・逆紹介の方法に加えて、撮影のみ総合病院で行う共同利用方法をスタートさせている。</p>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	CT	833	762	815	919	847	450	MRI	626	591	645	621	543	296	CT(撮影のみ)	8	7	1	6	2	1	MRI(撮影のみ)	107	133	132	129	131	24	A-	H30年5月より、最も共同利用の依頼が多かったらんかんセンターで、3テスラのMRI機器が新設されたため、MRIの共同利用が減少した。	・CT・MRIの共同利用件数も減少傾向にあるが、地域の医療機関との連携・支援を着実に実施している。	
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末																																			
CT	833	762	815	919	847	450																																			
MRI	626	591	645	621	543	296																																			
CT(撮影のみ)	8	7	1	6	2	1																																			
MRI(撮影のみ)	107	133	132	129	131	24																																			
92	②・ふじのくにねっとを活用し、地域の病院・診療所・調剤薬局・訪問看護ステーションとの連携を強化する。 ・ふじのくにバーチャル・メガ・ホスピタル協議会の運営を維持する。	<p>・H30.9月末実績 地域医療連携推進事業費補助金を活用し、富士市立中央病院、静岡済生会総合病院、焼津市立総合病院、市立御前崎総合病院のシステム更新を実施した。</p> <p>・第2期中期期間 (H26～30) H27年度末の理事会において利用料規定を決定し、ネットワークシステムの運営経費の適正な負担を図った。</p> <p>・H28 地域医療連携推進事業費補助金を活用し、データセンター及び県立総合病院連携サーバーの更新を行った。また、静岡県立こども病院、静岡県立こころの医療センター、医療法人社団アール・アンド・オーにてシステム整備を行った。</p> <p>・H29 地域医療連携推進事業費補助金を活用し、藤枝市立総合病院のシステム更新を実施した。</p> <p>「ふじのくにバーチャル・メガ・ホスピタル」について、情報の開示施設である各地域の中核病院、自治体病院、診療所・医師会等とともに「ふじのくにバーチャル・メガ・ホスピタル協議会」を運営し、複数医療機関相互の診療情報共有のため広域ネットワーク基盤を構築して運用している。</p>	A	ネットワークへの参加施設は順調に拡大を続けている。 補助金を活用し、富士市立中央病院、静岡済生会総合病院、焼津市立総合病院、市立御前崎総合病院のシステム更新を実施した。	・総合病院、中東遠地域の病院間を中心に有効に活用されており、病連携・病診連携が図られている。 ・H30年度上半期の新規開示件数は2,713件であり、昨年度よりも増加する見込み (No.15参照) ※開示件数…開示施設が参照施設に患者情報を開示決定した累計件数																																				
93	②・国内外の医療機関との映像情報システムを用い、カンファレンス等を実施する。	<p>・小児医療ネットワークを通じて、浜松医科大学等との合同カンファレンスやマレーシア国立循環器病センター (IJN)との接続試験を兼ねた症例検討会を定期的の実施している。 ・他医療機関と連携し、心エコー画像遠隔診断を実施している。</p> <p>心エコー画像遠隔診断実績 (単位:件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>施設数</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>症例数</td> <td>15</td> <td>9</td> <td>7</td> <td>5</td> <td>7</td> <td>5</td> </tr> </tbody> </table> <p>・H31年2月には、IJNからの依頼によりインドネシアから患者を受入れる予定である。</p>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	施設数	4	4	4	4	4	4	症例数	15	9	7	5	7	5	A	国内外の医療機関と連携し、映像情報を通じたカンファレンスや診断を継続的に実施した。	・連携している4施設は、順天堂静岡病院、富士宮市立病院、沼津市立病院、藤枝市立病院。 ・H29実施した岩手医科大学とのカンファレンスは実施していないが、新たに秋田大学と1件、山梨大学と3件のテレビ会議システムによるカンファレンスを実施した。															
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末																																			
施設数	4	4	4	4	4	4																																			
症例数	15	9	7	5	7	5																																			

年度計画	No.	行動計画	業務の実績	30年度9月末実績 自己評価		医療政策課確認・評価																																																																					
				説明																																																																							
I 4 (3)	社会的な要請への協力 ・公的機関からの医療に係る鑑定や調査、講師派遣等の社会的な要請への対応	①・院内外の研修会等を定期的に開催し、地域の医療機関へ情報提供する。	総合 拡大がんセンターボード実績 <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>回数</td> <td>5回</td> <td>5回</td> <td>6回</td> <td>6回</td> <td>6回</td> <td>3回</td> </tr> <tr> <td>参加人数</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>院内</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>161</td> <td>160</td> <td>153</td> <td>75</td> </tr> <tr> <td>院外</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>261</td> <td>172</td> <td>128</td> <td>71</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>237</td> <td>228</td> <td>422</td> <td>332</td> <td>281</td> <td>146</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	回数	5回	5回	6回	6回	6回	3回	参加人数							院内	-	-	161	160	153	75	院外	-	-	261	172	128	71	合計	237	228	422	332	281	146	A	地域の医療従事者も参加できるカンファレンス等(拡大がんセンターボード)を定期的に開催し、地域医療機関等との情報共有の場として積極的な意見交換を行った。	・多職種医療チームが参加してがんの症例検討を行う「拡大がんセンターボード」に地域の医療・介護従事者も参加して意見交換を行うことで総合病院のがん診療について周知されている。																											
			区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末																																																																		
			回数	5回	5回	6回	6回	6回	3回																																																																		
			参加人数																																																																								
			院内	-	-	161	160	153	75																																																																		
			院外	-	-	261	172	128	71																																																																		
合計	237	228	422	332	281	146																																																																					
総合 講師派遣実績 (単位:件) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医師</td> <td>68</td> <td>73</td> <td>58</td> <td>62</td> <td>51</td> <td>34</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>62</td> <td>72</td> <td>36</td> <td>4</td> <td>31</td> <td>22</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>130</td> <td>145</td> <td>94</td> <td>66</td> <td>82</td> <td>56</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	医師	68	73	58	62	51	34	その他	62	72	36	4	31	22	計	130	145	94	66	82	56	A-	他団体等が主催する講演会の講師として医師や認定看護師を派遣する等、積極的な地域支援を行った。	・講師派遣の依頼へ継続して対応し、地域からの要請に応えている。																																												
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末																																																																					
医師	68	73	58	62	51	34																																																																					
その他	62	72	36	4	31	22																																																																					
計	130	145	94	66	82	56																																																																					
こころ 院外講演会講師派遣状況(医師) (単位:回) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>派遣回数</td> <td>17</td> <td>25</td> <td>30</td> <td>18</td> <td>18</td> <td>8</td> </tr> </tbody> </table> 院外講演会講師派遣状況(看護師) (単位:回) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>派遣回数</td> <td>24</td> <td>30</td> <td>22</td> <td>32</td> <td>28</td> <td>9</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	派遣回数	17	25	30	18	18	8	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	派遣回数	24	30	22	32	28	9	A	他団体等が主催する講演会の講師として医師や看護師を派遣する等、積極的な地域支援を行っている。	・講師派遣の依頼へ継続して対応し、地域からの要請に応えている。																																												
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末																																																																					
派遣回数	17	25	30	18	18	8																																																																					
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末																																																																					
派遣回数	24	30	22	32	28	9																																																																					
こころ ①・医療にかかる鑑定等の要請への協力など積極的に対応する。	A	・H30.9月末実績 医療観察法の鑑定医として協力するなど、積極的な対応を図っている。 医療観察法による鑑定入院受入実績 (単位:件) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>こころ</td> <td>6</td> <td>10</td> <td>7</td> <td>9</td> <td>12</td> <td>2</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	こころ	6	10	7	9	12	2	A	県内精神医療の中核病院として、医療にかかる鑑定等の要請への協力などに積極的に対応している。	・医療観察法の鑑定医として、県内各方面からの鑑定等の要請に対応し社会的要請に応えている。																																																								
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末																																																																					
こころ	6	10	7	9	12	2																																																																					
こころ ①・特別支援学校や児童相談所など教育機関や福祉機関との連携を強化するため、講座や相談会などを継続的に開催する。	こころ こころ こころ	精神保健講座等開催実績 <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="2">25年度</th> <th colspan="2">26年度</th> <th colspan="2">27年度</th> <th colspan="2">28年度</th> <th colspan="2">29年度</th> <th colspan="2">30年9月末</th> </tr> <tr> <th>精神保健講座</th> <th>児童養護施設巡回講座</th> <th>精神保健講座</th> <th>児童養護施設巡回講座</th> <th>精神保健講座</th> <th>児童養護施設巡回講座</th> <th>精神保健講座</th> <th>児童養護施設巡回講座</th> <th>精神保健講座</th> <th>児童養護施設巡回講座</th> <th>精神保健講座</th> <th>児童養護施設巡回講座</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>対象</td> <td>県内小中学校 ・家庭 学校教諭 ・家庭</td> <td>県内小中学校 ・家庭 学校教諭 ・家庭</td> <td>県内小中学校 ・家庭 学校教諭 ・家庭</td> <td>県内小中学校 ・家庭 学校教諭 ・家庭</td> <td>県内小中学校 ・家庭 学校教諭 ・家庭</td> <td>県内小中学校 ・家庭 学校教諭 ・家庭</td> <td>県内小中学校 ・家庭 学校教諭 ・家庭</td> <td>県内小中学校 ・家庭 学校教諭 ・家庭</td> <td>県内小中学校 ・家庭 学校教諭 ・家庭</td> <td>県内小中学校 ・家庭 学校教諭 ・家庭</td> <td>県内小中学校 ・家庭 学校教諭 ・家庭</td> <td>県内小中学校 ・家庭 学校教諭 ・家庭</td> </tr> <tr> <td>参加者数等</td> <td>5回 153人</td> <td>16回 8施設 196人</td> <td>5回 10施設 166人</td> <td>20回 11施設 135人</td> <td>5回 11施設 150人</td> <td>10回 11施設 150人</td> <td>5回 11施設 110人</td> <td>11回 11施設 110人</td> <td>3回 6施設 66人</td> <td>3回 6施設 66人</td> <td>3回 6施設 66人</td> <td>6回 6施設 66人</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度		26年度		27年度		28年度		29年度		30年9月末		精神保健講座	児童養護施設巡回講座	精神保健講座	児童養護施設巡回講座	精神保健講座	児童養護施設巡回講座	精神保健講座	児童養護施設巡回講座	精神保健講座	児童養護施設巡回講座	精神保健講座	児童養護施設巡回講座	対象	県内小中学校 ・家庭 学校教諭 ・家庭	県内小中学校 ・家庭 学校教諭 ・家庭	県内小中学校 ・家庭 学校教諭 ・家庭	県内小中学校 ・家庭 学校教諭 ・家庭	県内小中学校 ・家庭 学校教諭 ・家庭	県内小中学校 ・家庭 学校教諭 ・家庭	県内小中学校 ・家庭 学校教諭 ・家庭	県内小中学校 ・家庭 学校教諭 ・家庭	県内小中学校 ・家庭 学校教諭 ・家庭	県内小中学校 ・家庭 学校教諭 ・家庭	県内小中学校 ・家庭 学校教諭 ・家庭	県内小中学校 ・家庭 学校教諭 ・家庭	参加者数等	5回 153人	16回 8施設 196人	5回 10施設 166人	20回 11施設 135人	5回 11施設 150人	10回 11施設 150人	5回 11施設 110人	11回 11施設 110人	3回 6施設 66人	3回 6施設 66人	3回 6施設 66人	6回 6施設 66人	A	教師を対象とした精神保健講座や児童養護施設の巡回相談を継続的に、学校・地域との連携強化を図った。	・子どもの心の診療ネットワーク推進事業における静岡県の拠点病院として、小中学校教諭を対象とした精神保健講座の開催や、児童擁護施設巡回相談を開催しており、診療実績から県内における中核機関としての役割を発揮していると言える。(=No.51)																			
区分	25年度			26年度		27年度		28年度		29年度		30年9月末																																																															
	精神保健講座	児童養護施設巡回講座	精神保健講座	児童養護施設巡回講座	精神保健講座	児童養護施設巡回講座	精神保健講座	児童養護施設巡回講座	精神保健講座	児童養護施設巡回講座	精神保健講座	児童養護施設巡回講座																																																															
対象	県内小中学校 ・家庭 学校教諭 ・家庭	県内小中学校 ・家庭 学校教諭 ・家庭	県内小中学校 ・家庭 学校教諭 ・家庭	県内小中学校 ・家庭 学校教諭 ・家庭	県内小中学校 ・家庭 学校教諭 ・家庭	県内小中学校 ・家庭 学校教諭 ・家庭	県内小中学校 ・家庭 学校教諭 ・家庭	県内小中学校 ・家庭 学校教諭 ・家庭	県内小中学校 ・家庭 学校教諭 ・家庭	県内小中学校 ・家庭 学校教諭 ・家庭	県内小中学校 ・家庭 学校教諭 ・家庭	県内小中学校 ・家庭 学校教諭 ・家庭																																																															
参加者数等	5回 153人	16回 8施設 196人	5回 10施設 166人	20回 11施設 135人	5回 11施設 150人	10回 11施設 150人	5回 11施設 110人	11回 11施設 110人	3回 6施設 66人	3回 6施設 66人	3回 6施設 66人	6回 6施設 66人																																																															
こころ ①・小児慢性特定疾患治療研究事業や障害者総合支援法、児童福祉法、精神保健福祉法等の公費負担医療を実施する。	こころ こころ	公費負担患者状況 (単位:人) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小児慢性</td> <td>1,621</td> <td>2,158</td> <td>1,901</td> <td>1,891</td> <td>1,842</td> <td>1,698</td> </tr> <tr> <td>育成医療</td> <td>831</td> <td>657</td> <td>721</td> <td>722</td> <td>471</td> <td>84</td> </tr> <tr> <td>養育医療</td> <td>224</td> <td>179</td> <td>258</td> <td>240</td> <td>164</td> <td>104</td> </tr> <tr> <td>特定疾患</td> <td>128</td> <td>134</td> <td>7</td> <td>6</td> <td>5</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>特定疾病</td> <td>-</td> <td>33</td> <td>157</td> <td>138</td> <td>115</td> <td>79</td> </tr> <tr> <td>生活保護</td> <td>135</td> <td>100</td> <td>172</td> <td>181</td> <td>176</td> <td>137</td> </tr> <tr> <td>精神保健</td> <td>110</td> <td>117</td> <td>96</td> <td>102</td> <td>83</td> <td>81</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>123</td> <td>112</td> <td>97</td> <td>111</td> <td>119</td> <td>104</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>3,172</td> <td>3,490</td> <td>3,409</td> <td>3,391</td> <td>2,975</td> <td>2,290</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	小児慢性	1,621	2,158	1,901	1,891	1,842	1,698	育成医療	831	657	721	722	471	84	養育医療	224	179	258	240	164	104	特定疾患	128	134	7	6	5	3	特定疾病	-	33	157	138	115	79	生活保護	135	100	172	181	176	137	精神保健	110	117	96	102	83	81	その他	123	112	97	111	119	104	計	3,172	3,490	3,409	3,391	2,975	2,290	A	公費負担医療を提供するためには、本人による申請が必要となることから、証明書・診断書の発行など公費適応患者の利便性を重視して対応した。	・患者にとって公費負担申請は手続きが煩雑であることから、今後も引き続き患者の利便性を重視した対応が求められる。 ・H29からの手数料徴収に伴い、H30上半期での手数料収入は、2,650,000円となった。
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末																																																																					
小児慢性	1,621	2,158	1,901	1,891	1,842	1,698																																																																					
育成医療	831	657	721	722	471	84																																																																					
養育医療	224	179	258	240	164	104																																																																					
特定疾患	128	134	7	6	5	3																																																																					
特定疾病	-	33	157	138	115	79																																																																					
生活保護	135	100	172	181	176	137																																																																					
精神保健	110	117	96	102	83	81																																																																					
その他	123	112	97	111	119	104																																																																					
計	3,172	3,490	3,409	3,391	2,975	2,290																																																																					

第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

年度計画	No.	行動計画	業務の実績	30年度9月末実績 自己評価		
				説明	医療政策課確認・評価	
I 5	-	-	-	-	-	
I 5 (1)	100	医療救護活動の拠点機能 ①災害拠点病院（小児分野を含む）等として、災害時の医療救護活動の拠点機能を担う ②小児専門医療機関間の災害時情報交換システムと相互協力関係の構築	30年9月末実績 H30.7.12 静岡県健康福祉部防災訓練の情報伝達訓練に参加。 H30.9.3~27 院内各セクションに対し、消火設備等の取扱講習を実施した。（新規採用職員を中心に約100人参加） ・第2期中期期間（H26~30） 毎年度12月第1日曜日（静岡県地域防災の日）に全職種を対象としたトリアージ訓練（200名程度参加）を行っている。 H26に防災マニュアルの改訂を行った。 H28より県から静岡DMAT体制強化推進事業を受託 H29に先端医学棟2階に災害対策本部を整備した。	A	情報伝達・避難訓練等、災害の発生を想定し、公的病院の役割を果たすべく各種訓練を企画、実施した。 引き続き、災害発生に備えた病院の機能の充実に努める。	・基幹災害拠点病院として災害医療に関する県の中心的役割を果たすため、各種防災訓練等を実施・参加した。 ・施設要件を満たし、H30.10月に県から原子力災害拠点病院に指定され、原子力災害医療体制が強化された。
		①【心】・災害等に対する日頃の備えに努め、大規模災害等における本県の精神分野の災害時医療に対応する。	防災訓練（避難訓練）30年9月末実績 H30.7.12 県健康福祉部防災訓練におけるEMTS情報伝達訓練に参加。 H30.8.3~4 政府訓練（大規模地震時医療活動訓練）における静岡DPAT訓練に参加。 H30.8.27 院内防災訓練（初期消火・避難誘導訓練）を実施。 H30.8.30 県総合防災訓練（本部運営訓練）におけるEMTS情報伝達訓練に参加。 H30.9.2 静岡市・静岡県総合防災訓練におけるDPAT派遣訓練に参加。 ・第2期中期目標期間（H26~30） 院内だけではなく、県、市等と連携した防災訓練に参加した。	A	災害時に対する日頃の備えに努めるため、情報伝達・避難訓練等、災害の発生を想定し、各種訓練を企画、実施している。	・DPAT訓練等の各種訓練に参加し、災害時医療体制等の強化が図られている。 ・北海道胆振東部地震のDPAT事務局災害対策本部での活動に職員を派遣し、事務局から感謝状を授与された。
		①【子】・災害時における小児医療の拠点としての院内体制の整備に努める。 ②【子】・小児医療総合施設協議会において実施する小児専門医療機関間の災害時における情報交換システムに参加、協力していく。	H30年9月に静岡県防災訓練と連動し、全職種を対象にトリアージ訓練を実施した。	A	小児医療の拠点病院として、各種防災訓練を企画・実施した。	・トリアージ訓練等を実施し、災害時医療体制等の強化が図られている。
I 5 (2)	103	他県等の医療救護への協力 ・災害発生初期におけるDMAT（災害派遣医療チーム）・DPAT（災害派遣精神医療チーム）の派遣及び県からの要請に基づく支援等の実施	30年9月末実績 H30.8.4 大規模地震時医療活動訓練（政府訓練）にDMAT隊員2人が参加した。 H30.8.30 静岡県総合防災訓練（本部運営訓練）にDMAT隊員6人が参加した。 H30.9.2 静岡市・静岡県総合防災訓練（実働）にDMAT隊員等23人が参加した。 ・第2期中期期間（H26~30） 災害医療救護応援班の訓練を実施した。 DMAT訓練回数 (単位:回) 区分 25年度 26年度 27年度 28年度 29年度 30年9月末 訓練 - 7 6 8 8 3	A	チーム内で適切に情報を伝達・共有し、仮想被害状況に応じたDMATの配置し、他チームとの連携強化を行った。	・DMAT政府訓練等に参加し、体制強化を図った。

第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

年度計画	No.	行動計画	業務の実績	30年度9月末実績 自己評価																																																																																
				説明	医療政策課確認・評価																																																																															
II 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置 業務運営に関しては、医療の質の向上のため、適切な職員配置や組織づくりに努めるとともに、業務改善への職員の意欲を高め、効率的な業務運営の実現を図る。																																																																																				
II 1 簡素で効率的な組織づくり ①意思決定の迅速化・情報の共有化等、機動的な法人運営 ②医療ニーズや業務量の適切な把握と組織体制等への反映 ③人事評価の制度化に向けた取り組み	104	①②・組織の効率化、各種権限の病院長への委任により事務のスピード化を図る。 ①②・理事会、運営会議、総務・経営担当課長会議を毎月開催（8月を除く）し、法人の運営情報の共有化を図るとともに、予算の補正等の緊急な課題に対する即時的な対応を行う。 ③・全職員を対象とした人事評価制度の試行を円滑に実施する。	理事会、運営会議、総務・経営担当課長会議を8月を除く毎月開催し、意思決定の迅速化に努めた。 県に準拠した人事評価制度の導入することを職員組合と合意し、H30年4月から試行を開始した。 勤務成績評価制度試行状況 <table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>実施時期</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>看護師（管理監督者）</td> <td>平成26年10月～</td> </tr> <tr> <td>看護師（副主任以上）</td> <td>平成28年4月～</td> </tr> <tr> <td>コメディカル（管理監督者）</td> <td>平成27年10月～</td> </tr> <tr> <td>コメディカル（副主任以上）</td> <td>平成28年4月～</td> </tr> <tr> <td>事務職員（プロパー職員副主任以上）</td> <td>平成28年4月～</td> </tr> </tbody> </table>	対象	実施時期	看護師（管理監督者）	平成26年10月～	看護師（副主任以上）	平成28年4月～	コメディカル（管理監督者）	平成27年10月～	コメディカル（副主任以上）	平成28年4月～	事務職員（プロパー職員副主任以上）	平成28年4月～	A 毎月、機構内での情報の共有化、緊急案件についての対応が問題なく行われた。 勤務成績評価制度の試行については、本部と各病院が連携し円滑に実施することができ、職員のモチベーション向上への寄与が図られたものと考えている。 県に準拠した人事評価制度の導入に向け、職員組合と合意し、H30年4月から試行を開始した。	・毎月の理事会、運営会議を通じて機構内の情報共有が図られている。 ・これまで人材育成やモチベーションアップを目的として勤務評価制度を行ってきたが、より実効的な評価を実施するため、今年度から県に準拠した人事評価制度を試行している。 ・対象は全職員であり、上期・下期の評価（有期職員は年1回）を行う。今後、賞与（勤労手当）・昇給等へ反映するため、引き続き職員組合と交渉していく。 ※No. 69と類似																																																																			
対象	実施時期																																																																																			
看護師（管理監督者）	平成26年10月～																																																																																			
看護師（副主任以上）	平成28年4月～																																																																																			
コメディカル（管理監督者）	平成27年10月～																																																																																			
コメディカル（副主任以上）	平成28年4月～																																																																																			
事務職員（プロパー職員副主任以上）	平成28年4月～																																																																																			
II 2 ①・効果的な職員採用 ②・柔軟な採用試験の実施等、業務の質と量に応じた人材の適時採用 ③・看護師確保のため、看護師修学資金の活用推進や広報活動など多様な確保対策の実施	105	①・優秀な職員を確保する仕組みを設け、効果的な採用を実施する。 ・職員の採用に対し、広報等様々な取り組みを行うことで、必要な職員数の確保に努める。 ②・柔軟な採用試験の実施により、必要な人材の確保に努める。 ③・パンフレット作成、ホームページへの情報掲載、就職セミナー等での周知を行う。 ・看護師修学資金制度の活用推進により、更なる看護師確保を目指す。	・H30.9月末実績 H30年度には、事務職員1人、コメディカル4人を採用している。 ・第2期中期期間（H26～30）法人化による雇用の柔軟性・機動性を発揮した採用を実施した。 H28年度からアソシエイトの制度を導入した。 H29年度には、経営等に精通した事務職員1人を採用した。また、診療放射線技師（医学物理士）1人を採用した。初めてアソシエイトの公募を医療技術職で実施し、栄養アソシエイト1人、言語聴覚アソシエイト1人の採用を決定した。 看護師修学資金の状況（単位：人） <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年9月末</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>決定</td> <td>73</td> <td>74</td> <td>123</td> <td>88</td> <td>114</td> <td>35</td> <td>507</td> </tr> <tr> <td>継続</td> <td>52</td> <td>80</td> <td>99</td> <td>126</td> <td>163</td> <td>182</td> <td>702</td> </tr> <tr> <td>取消</td> <td>▲6</td> <td>▲12</td> <td>▲11</td> <td>▲5</td> <td>▲9</td> <td>▲5</td> <td>▲48</td> </tr> <tr> <td>貸与計</td> <td>119</td> <td>142</td> <td>211</td> <td>209</td> <td>268</td> <td>212</td> <td>1,161</td> </tr> <tr> <td>採用</td> <td>38</td> <td>33</td> <td>76</td> <td>40</td> <td>63</td> <td>62</td> <td>312</td> </tr> </tbody> </table> アソシエイト採用実績（単位：人） <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>看護師</td> <td>5</td> <td>1</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>事務</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>コメディカル</td> <td>-</td> <td>3</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>7</td> <td>6</td> <td>5</td> </tr> </tbody> </table> 採用関係ホームページアクセス数 <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>アクセス数</td> <td>年間</td> <td>88,062</td> <td>69,555</td> <td>69,291</td> <td>46,974</td> </tr> </tbody> </table> ※H27に現システムを使用開始 H27は事務、コメディカル採用試験分を含む	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	計	決定	73	74	123	88	114	35	507	継続	52	80	99	126	163	182	702	取消	▲6	▲12	▲11	▲5	▲9	▲5	▲48	貸与計	119	142	211	209	268	212	1,161	採用	38	33	76	40	63	62	312	区分	28年度	29年度	30年9月末	看護師	5	1	-	事務	2	2	1	コメディカル	-	3	4	計	7	6	5	区分	27年度	28年度	29年度	30年9月末	アクセス数	年間	88,062	69,555	69,291	46,974	A 事務職員・看護職員・コメディカルのうち、優秀な有期職員について、アソシエイトの登用を進めている。コメディカルのアソシエイトについては公募試験を開始した。 ホームページへの掲載や就職セミナーへの参加など積極的に広報を行い、人材の確保につながっている。 看護師修学資金については、一定数の募集が集まり、今後安定的な看護師確保が期待される。 効率的・効果的な周知等を行い看護師の確保につながった。	・看護師修学資金貸与制度や、各種媒体を活用しての職員募集広報により、人材の確保は着実に進められている。 ・薬剤師を安定的に確保するため、H30に薬剤師修学資金制度を創設し、H31から実施する見込みである。 ※No. 55（採用試験）、57（修学資金）、67（アソシエイト採用）に類似 ※人材確保の取組についてはNo. 55～58を参照
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	計																																																																													
決定	73	74	123	88	114	35	507																																																																													
継続	52	80	99	126	163	182	702																																																																													
取消	▲6	▲12	▲11	▲5	▲9	▲5	▲48																																																																													
貸与計	119	142	211	209	268	212	1,161																																																																													
採用	38	33	76	40	63	62	312																																																																													
区分	28年度	29年度	30年9月末																																																																																	
看護師	5	1	-																																																																																	
事務	2	2	1																																																																																	
コメディカル	-	3	4																																																																																	
計	7	6	5																																																																																	
区分	27年度	28年度	29年度	30年9月末																																																																																
アクセス数	年間	88,062	69,555	69,291	46,974																																																																															

第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

年度計画	No.	行動計画	業務の実績	30年度9月末実績 自己評価		医療政策課確認・評価																																												
				説明																																														
④・診療報酬など収入の適正な確保 ⑤・業務の質を担保しつつ、多様な契約手法の活用や事務の効率化などによるコスト縮減	106	④・未収金の圧縮を図るため、未収金の収納勧奨等について外部の専門会社を活用する。 ④・医療費に係る相談体制の充実 ④・未収金回収のアウトソーシングの促進等、効率的な未収金対策を講じる。	<p>24年度から弁護士法人へ委託先を変更した結果、回収率の改善が図られている。</p> <table border="1"> <caption>30年度未収金回収実績(弁護士事務所委託分) (単位:千円)</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>29年度未回収額</th> <th>新規委託額</th> <th>回収額</th> <th>中止額</th> <th>30年9月末未回収額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>25,038</td> <td>12,250</td> <td>6,306</td> <td>8,052</td> <td>22,930</td> </tr> <tr> <td>こころ</td> <td>10,888</td> <td>1,827</td> <td>957</td> <td>155</td> <td>11,602</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>3,948</td> <td>1,101</td> <td>862</td> <td>1,790</td> <td>2,397</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>39,874</td> <td>15,178</td> <td>8,125</td> <td>9,997</td> <td>36,929</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <caption>未収金回収率の推移 (単位:%)</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>回収率</td> <td>45.4%</td> <td>59.0%</td> <td>65.2%</td> <td>71.9%</td> <td>72.6%</td> <td>73.7%</td> </tr> </tbody> </table>	区分	29年度未回収額	新規委託額	回収額	中止額	30年9月末未回収額	総合	25,038	12,250	6,306	8,052	22,930	こころ	10,888	1,827	957	155	11,602	こども	3,948	1,101	862	1,790	2,397	計	39,874	15,178	8,125	9,997	36,929	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	回収率	45.4%	59.0%	65.2%	71.9%	72.6%	73.7%	A	未収金回収業務の外部委託により回収率が改善しており、収入の適正な確保を図られている。	<p>・未収金を発生させないことも重要であることから、研修会の開催等により病院職員の意識を高める取組も行われている。</p> <p>・未収金が発生した場合の処理マニュアルから最終的な貸倒損失処理対応に至るまで適切な手順をとるよう体制が整備されている。</p> <p>・弁護士法人に回収業務を委託しており、累計で73.7%の回収率となっている。</p>
区分	29年度未回収額	新規委託額	回収額	中止額	30年9月末未回収額																																													
総合	25,038	12,250	6,306	8,052	22,930																																													
こころ	10,888	1,827	957	155	11,602																																													
こども	3,948	1,101	862	1,790	2,397																																													
計	39,874	15,178	8,125	9,997	36,929																																													
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末																																												
回収率	45.4%	59.0%	65.2%	71.9%	72.6%	73.7%																																												
	107	⑤SPD導入により、薬品・診療材料の期限切れ、病棟の在庫額減少に努める。	<p>・第2期中期期間(H26～30) 診材期限切れによる廃棄額は、H29年度675千円で、昨年と比較して58%減である。これはSPDを導入し物流倉庫で一元管理したことにより、不要なものの発注が少なくなったこと、適正在庫を先入れ先出しで運用できていること、不動態在庫の使用促進の効果が出ているためと言える。診材在庫は新棟の影響により手術室在庫が増えているが、H29は病棟▲1,224千円、検査▲1,488千円と削減できている。</p> <p>・H29年度薬品、診療材料在庫額 薬品については、年2回の棚卸に薬品担当者が介入することで、精度の高い棚卸を実施。診療材料は、パッキングする品目を増やし最小単位で定数を設定することや、SPDがこまめに病棟の棚をチェックして棚差を減らすことに努めた。また年2回の定数変更時に、定数在庫へ実在庫を合わせることで、過剰在庫の抑制を図った。</p> <table border="1"> <caption>薬品・診療材料在庫額 (単位:千円)</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>薬品</td> <td>162,822</td> <td>179,830</td> <td>114,860</td> <td>101,066</td> <td>102,777</td> <td>135,941</td> </tr> <tr> <td>診療材料</td> <td>180,834</td> <td>169,947</td> <td>179,513</td> <td>191,861</td> <td>216,079</td> <td>212,228</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末	薬品	162,822	179,830	114,860	101,066	102,777	135,941	診療材料	180,834	169,947	179,513	191,861	216,079	212,228	A	<p>期限切れについては、切迫品の可視化を行い部署へ啓蒙したり、他部署の使用状況をみて移管するなどの取り組みを行っている。また不動態在庫をリスト化し、使用促進の効果がでている。</p> <p>在庫額については、新棟手術室の影響で前回より増えているものの、その他の部署では定数設定の見直しや最小単位での管理品目を増加したことによって削減することができた。</p>	<p>・全国的なベンチマーク活用による価格交渉に加え、診療材料委員会での機構内の情報共有、削減促進の取組を実施している。</p> <p>※総合病院では、H29.9月から日本ホスピタルライアンスへ加盟し、診療材料費縮減の取組を強化した (No. 109)</p>																							
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年9月末																																												
薬品	162,822	179,830	114,860	101,066	102,777	135,941																																												
診療材料	180,834	169,947	179,513	191,861	216,079	212,228																																												
	108	④・積極的に施設基準を取得する。 ・診療報酬の適正請求にかかる研修会等を実施する。	<p>(総合) ・施設基準取得状況 入院基本料については前年度から医療・看護必要度の精度向上対応の成果もあり、最も高い点数で継続して届出を行なった。 ・抗菌薬適正使用支援チームについて6月より届け出た。 ・新規医療技術について適切な評価を受けるために、基準を満たした項目について新規届出を行った。(ダ・ヴィンチ手術、胸腔鏡下弁手術など) ・診療報酬に係る研修を開催し、適正な収入確保に取り組んだ。 ・H30.4月開催:診療報酬改定説明会(こころ) ・医療観察法における通院対象者社会復帰体制強化加算の新規届出を行った。(こども) ・診療報酬に係る研修を開催し、適正な収入確保に取り組んだ H30.1月開催:特定共同指導の結果について H30.3月開催:診療報酬改定について</p>	A	<p>請求精度の向上を目指して、研修会等を確実に開催した。</p> <p>新規やランクアップの届出が可能な項目について積極的に届出を行うよう努めた。</p>	<p>・診療報酬に係る研修会等を開催することで、適正請求とともに新たな施設基準の取得に向けた意識付けが行われている。</p> <p>・総合病院における新規取得は9月末時点で28件である。</p> <p>・医療観察法における通院対象者社会復帰体制強化加算 (+480千円見込み)</p> <p>・診療報酬の適正請求について、一部委託業務(入院会計)についてはH30.6月から内制化に切り替え、職員を3名配置した。</p>																																												

第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

年度計画	No.	行動計画	業務の実績	30年度9月末実績 自己評価		医療政策課確認・評価																																																																																																																															
				説明																																																																																																																																	
	109	⑤・材料費等の節減のための対策を実施する。 ・診療材料、薬品の廃棄状況を要因別・部門別に明らかにし、破棄・破損について、削減のための対策を講じる。	<p>・H30.9月末実績 H30年度上期は約31百万円削減した。また共同購入加盟により約18百万円削減となった。</p> <p>・第2期中期期間(H26～30) ・各病院において、診療材料委員会を中心に関係職員の意識を徹底し、適正な調達に努めている。 ・診療材料単価低減を図るため、医療従事者と協働した購入材料の選定や価格交渉を推進した。 ・薬品費の節減と薬剤部門職員の業務軽減を図るため、一薬品メーカー一卸業者制度を継続するとともに、機構に薬品を納入する卸業者の数を5社で競争を行い、ベンチマーク調査等を活用して周辺の値引率を把握しつつ、値引率向上を図っている。 ・破損など原因ごとに対策を講じて、診療材料の廃棄量の削減に努めている。</p> <p>診療材料コスト削減実績 (単位：千円)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> </tr> <tr> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>9月末実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>2,159</td> <td>4,314</td> <td>68,499</td> <td>34,307</td> <td>27,923</td> <td>22,710</td> </tr> <tr> <td>こころ</td> <td>90</td> <td>0</td> <td>641</td> <td>107</td> <td>446</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>2,422</td> <td>19,581</td> <td>6,707</td> <td>8,320</td> <td>6,182</td> <td>8,067</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>4,671</td> <td>23,895</td> <td>75,847</td> <td>42,734</td> <td>34,551</td> <td>30,777</td> </tr> </tbody> </table> <p>30年度 新規導入・廃止した診療材料・薬品 品目数の実績 (単位：件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="3">区分</th> <th colspan="3">診療材料品目数</th> <th colspan="3">薬品品目数</th> </tr> <tr> <th>30年度当初</th> <th>新規採用数</th> <th>廃止数</th> <th>30年度当初</th> <th>新規採用数</th> <th>廃止数</th> </tr> <tr> <th>契約数(a)</th> <th>(b)</th> <th>(c)</th> <th>契約数(a)</th> <th>(b)</th> <th>(c)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>15,715</td> <td>222</td> <td>28</td> <td>15,909</td> <td>1,646</td> <td>41</td> </tr> <tr> <td>こころ</td> <td>422</td> <td>1</td> <td>10</td> <td>413</td> <td>675</td> <td>50</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>4,076</td> <td>39</td> <td>106</td> <td>4,009</td> <td>1,298</td> <td>30</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>20,213</td> <td>262</td> <td>144</td> <td>20,331</td> <td>3,619</td> <td>121</td> </tr> </tbody> </table> <p>30年9月末 破棄・破損額(単位：千円)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>診療材料費</th> <th>薬品費</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>2,747</td> <td>3,594</td> <td>6,341</td> </tr> <tr> <td>こころ</td> <td>10</td> <td>125</td> <td>135</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>1,841</td> <td>1,095</td> <td>2,936</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>4,598</td> <td>4,814</td> <td>9,412</td> </tr> </tbody> </table> <p>30年9月末 薬品 後発品採用率(単位：%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度実績</th> <th>28年度実績</th> <th>29年度実績</th> <th>30年9月末実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>16.9</td> <td>24.3</td> <td>24.7</td> <td>25.8</td> </tr> <tr> <td>こころ</td> <td>23.5</td> <td>27.2</td> <td>31.3</td> <td>37.5</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>17.0</td> <td>20.5</td> <td>21.6</td> <td>22.2</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	実績	実績	実績	実績	実績	9月末実績	総合	2,159	4,314	68,499	34,307	27,923	22,710	こころ	90	0	641	107	446	0	こども	2,422	19,581	6,707	8,320	6,182	8,067	合計	4,671	23,895	75,847	42,734	34,551	30,777	区分	診療材料品目数			薬品品目数			30年度当初	新規採用数	廃止数	30年度当初	新規採用数	廃止数	契約数(a)	(b)	(c)	契約数(a)	(b)	(c)	総合	15,715	222	28	15,909	1,646	41	こころ	422	1	10	413	675	50	こども	4,076	39	106	4,009	1,298	30	合計	20,213	262	144	20,331	3,619	121	区分	診療材料費	薬品費	合計	総合	2,747	3,594	6,341	こころ	10	125	135	こども	1,841	1,095	2,936	合計	4,598	4,814	9,412	区分	27年度実績	28年度実績	29年度実績	30年9月末実績	総合	16.9	24.3	24.7	25.8	こころ	23.5	27.2	31.3	37.5	こども	17.0	20.5	21.6	22.2	<p>(総合) ・自治体共済会MRPベンチマークシステムを用いて、卸・メーカーに対して診療材料の価格交渉や品目の切替を医療従事者の協力を得ながら行った。また、H29年9月より共同購入組織である「一般社団法人日本ホスピタルアライアンス(略称:NHA)」に加盟し、診療材料費の節減を行っている。なお、共同購入の導入分野は、H29年度に循環器虚血、整形、事務管理が追加、さらにH30年度は循環器不整脈、PTA、眼科が新たに追加され、より一層の節減を行っている。</p> <p>診療材料費については、医療従事者と協働し、同種同効品の見直しなどに取り組むことで、H30年度は9月末時点で約31百万円削減した。 薬品費については、MRPベンチマークなどを用いて具体的な目標価格を設定し価格交渉を実施した。また、一部の高額医薬品について、院内処方に切り替えて収益の増加を図った。</p>	<p>・ベンチマークの活用や価格交渉等、経費削減の取組が継続的に行われている。</p> <p>・総合病院ではH29.9からNHAに加盟した。H30は取組分野を拡大し、取組が強化されている、</p> <p>(参考：No. 107にSPD管理)</p>
区分	25年度	26年度	27年度		28年度	29年度	30年度																																																																																																																														
	実績	実績	実績	実績	実績	9月末実績																																																																																																																															
総合	2,159	4,314	68,499	34,307	27,923	22,710																																																																																																																															
こころ	90	0	641	107	446	0																																																																																																																															
こども	2,422	19,581	6,707	8,320	6,182	8,067																																																																																																																															
合計	4,671	23,895	75,847	42,734	34,551	30,777																																																																																																																															
区分	診療材料品目数			薬品品目数																																																																																																																																	
	30年度当初	新規採用数	廃止数	30年度当初	新規採用数	廃止数																																																																																																																															
	契約数(a)	(b)	(c)	契約数(a)	(b)	(c)																																																																																																																															
総合	15,715	222	28	15,909	1,646	41																																																																																																																															
こころ	422	1	10	413	675	50																																																																																																																															
こども	4,076	39	106	4,009	1,298	30																																																																																																																															
合計	20,213	262	144	20,331	3,619	121																																																																																																																															
区分	診療材料費	薬品費	合計																																																																																																																																		
総合	2,747	3,594	6,341																																																																																																																																		
こころ	10	125	135																																																																																																																																		
こども	1,841	1,095	2,936																																																																																																																																		
合計	4,598	4,814	9,412																																																																																																																																		
区分	27年度実績	28年度実績	29年度実績	30年9月末実績																																																																																																																																	
総合	16.9	24.3	24.7	25.8																																																																																																																																	
こころ	23.5	27.2	31.3	37.5																																																																																																																																	
こども	17.0	20.5	21.6	22.2																																																																																																																																	
	110	⑤・効率的な医療機器購入及び管理のための対策を実施する。	<p>・各病院において、病院一体となって徹底した価格交渉や価格調査を行い、入札・見積合わせ等の徹底により競争性を確保することなどにより、効率的な購入及び管理に努めた。</p> <p>・価格交渉では事務と連携して医師等自らも業者と交渉するほか、スケールメリットを生かした複数台購入も行っている。</p> <p>・機種選定では複数機種を原則とし、1機種に限定する場合でも複数業者間の競争を維持するよう努めている。</p> <p>・価格調査では、他病院実績の調査や関係団体への照会、ベンチマーク調査により目安となる金額の把握を徹底し、適正な金額設計に生かしている。</p> <p>・保守委託では、3病院一括の契約を結ぶなど、機器に応じた契約や保守内容の見直しを行いコスト低減を図っている。</p>	<p>・徹底した価格交渉や競争性確保に努めた結果、適正価格での購入が行えた。</p> <p>・案件に応じ「購入+保守管理」一括評価で調達を行い、トータルコストを削減した。</p> <p>・保守委託については3病院一括化・複数年契約等により、法人化や規模のメリットを生かしたコスト削減を図った。</p>	<p>・医療機器の購入において、原則、一般競争入札とし、見積もり合わせの場合も他病院の実績把握に努め競争性を確保している。</p>																																																																																																																																

第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

年度計画	No.	行動計画	業務の実績	30年度9月末実績 自己評価		医療政策課確認・評価																																																																																																									
				説明																																																																																																											
	111	⑤・複数年契約や集約化等による契約方法の見直しを継続的に実施する。	<p>・委託費の節減を図るため、複数病院一括化、複数年契約化を行った。また、契約の更新時に引き続き一括化・複数年化に適合するか見直した。(H30年度の契約更新においては、エアーシューター設備等保守点検業務委託が、こども病院の単独となったため、本部一括契約の対象から外した。)</p> <p>・委託の仕様の徹底した見直しを行った。</p> <p>・コスト削減による業務水準の低下を防ぐため、一部の委託については、定期にモニタリング(委託業者の業務を評価)を行い、質の維持・向上を図った。</p> <p>30年度 委託契約等の見直し状況(単年度ベース) (単位:千円)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>業務名(連携)</th> <th>連携</th> <th>年数</th> <th>期間</th> <th>種別</th> <th>H30決算額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>一般廃棄物処理業務委託</td> <td>3病院</td> <td>3年</td> <td>H30.4~H31.3</td> <td>単価</td> <td>7,988</td> </tr> <tr> <td>感染性廃棄物処理業務委託</td> <td>3病院</td> <td>1年</td> <td>H30.4~H31.3</td> <td>単価</td> <td>44,980</td> </tr> <tr> <td>産業廃棄物処理業務委託</td> <td>3病院</td> <td>3年</td> <td>H30.4~H31.3</td> <td>単価</td> <td>7,011</td> </tr> <tr> <td>清掃等業務委託</td> <td>3病院</td> <td>3年</td> <td>H30.10~H31.9</td> <td>定額</td> <td>93,600</td> </tr> <tr> <td>洗濯等業務委託</td> <td>3病院</td> <td>5年</td> <td>H30.9~H31.8</td> <td>単価</td> <td>67,089</td> </tr> <tr> <td>装飾用植木貸借</td> <td>心・子</td> <td>3年</td> <td>H30.4~H31.3</td> <td>定額</td> <td>235</td> </tr> <tr> <td>R1施設管理業務委託</td> <td>3病院</td> <td>3年</td> <td>H30.4~H31.3</td> <td>定額</td> <td>14,235</td> </tr> <tr> <td>医療機器等保守点検業務委託</td> <td>3病院</td> <td>1年</td> <td>H30.4~H31.3</td> <td>定額</td> <td>174,942</td> </tr> <tr> <td>放射線機器保守等業務委託</td> <td>3病院</td> <td>1年</td> <td>H30.4~H31.3</td> <td>定額</td> <td>267,840</td> </tr> <tr> <td>シーメンス社製医療機器保守業務委託</td> <td>3病院</td> <td>1年</td> <td>H30.4~H31.3</td> <td>定額</td> <td>130,575</td> </tr> <tr> <td>建築基準法の定期報告業務委託</td> <td>3病院</td> <td>1年</td> <td>H30.7~H31.3</td> <td>定額</td> <td>10,280</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>817,855</td> </tr> </tbody> </table> <p>30年度 委託モニタリング評価結果(30年9月末時点)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>第1期</th> <th>第2期</th> <th>第3期</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>給食</td> <td>可</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>区分</td> <td>第1四半期</td> <td>第2四半期</td> <td>第3四半期</td> <td>第4四半期</td> </tr> <tr> <td>清掃</td> <td>可</td> <td>可</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>警備(心・子)</td> <td>可</td> <td>可</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>医事(総・心)</td> <td>可</td> <td>-1%</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>	業務名(連携)	連携	年数	期間	種別	H30決算額	一般廃棄物処理業務委託	3病院	3年	H30.4~H31.3	単価	7,988	感染性廃棄物処理業務委託	3病院	1年	H30.4~H31.3	単価	44,980	産業廃棄物処理業務委託	3病院	3年	H30.4~H31.3	単価	7,011	清掃等業務委託	3病院	3年	H30.10~H31.9	定額	93,600	洗濯等業務委託	3病院	5年	H30.9~H31.8	単価	67,089	装飾用植木貸借	心・子	3年	H30.4~H31.3	定額	235	R1施設管理業務委託	3病院	3年	H30.4~H31.3	定額	14,235	医療機器等保守点検業務委託	3病院	1年	H30.4~H31.3	定額	174,942	放射線機器保守等業務委託	3病院	1年	H30.4~H31.3	定額	267,840	シーメンス社製医療機器保守業務委託	3病院	1年	H30.4~H31.3	定額	130,575	建築基準法の定期報告業務委託	3病院	1年	H30.7~H31.3	定額	10,280	合計					817,855	区分	第1期	第2期	第3期	給食	可	-	-	区分	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	清掃	可	可	-	-	警備(心・子)	可	可	-	-	医事(総・心)	可	-1%	-	-	<p>複数病院で集約化した委託等の契約は20件、うち複数年化を行ったものは15件となり、一括化・複数年化による費用削減及び事務の簡素化につながっている。</p>	<p>・本年度の契約更新に当たっても複数年・複数病院一括契約としてコスト縮減とともに事務の効率化に努めている。</p> <p>(モニタリング結果への対応)</p> <p>・評価点が-1点だった場合、毎月の基本委託料に-1%を乗じた金額が委託料から減額される。</p> <p>・改善に向けての取組としては、毎月委託業務の内容、問題点等につき、受託業者と会合を行っている。</p> <p>・医事委託について、H29は、定期モニタリングの結果が改善されない状態が続いたため、業務改善命令を業者あてに行い、その後も十分な改善がなかったため、平成30年6月には入院会計業務を契約から切り離し、内製化した。 (→No. 108に診療報酬請求の精度向上)</p>
業務名(連携)	連携	年数	期間	種別	H30決算額																																																																																																										
一般廃棄物処理業務委託	3病院	3年	H30.4~H31.3	単価	7,988																																																																																																										
感染性廃棄物処理業務委託	3病院	1年	H30.4~H31.3	単価	44,980																																																																																																										
産業廃棄物処理業務委託	3病院	3年	H30.4~H31.3	単価	7,011																																																																																																										
清掃等業務委託	3病院	3年	H30.10~H31.9	定額	93,600																																																																																																										
洗濯等業務委託	3病院	5年	H30.9~H31.8	単価	67,089																																																																																																										
装飾用植木貸借	心・子	3年	H30.4~H31.3	定額	235																																																																																																										
R1施設管理業務委託	3病院	3年	H30.4~H31.3	定額	14,235																																																																																																										
医療機器等保守点検業務委託	3病院	1年	H30.4~H31.3	定額	174,942																																																																																																										
放射線機器保守等業務委託	3病院	1年	H30.4~H31.3	定額	267,840																																																																																																										
シーメンス社製医療機器保守業務委託	3病院	1年	H30.4~H31.3	定額	130,575																																																																																																										
建築基準法の定期報告業務委託	3病院	1年	H30.7~H31.3	定額	10,280																																																																																																										
合計					817,855																																																																																																										
区分	第1期	第2期	第3期																																																																																																												
給食	可	-	-																																																																																																												
区分	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期																																																																																																											
清掃	可	可	-	-																																																																																																											
警備(心・子)	可	可	-	-																																																																																																											
医事(総・心)	可	-1%	-	-																																																																																																											
⑥・経営情報を把握及び適時適切な措置を講じられる体制整備 ⑦・経営情報を職員が共有するなど、職員全員の経営意識の向上	112	⑥・毎月の理事会や病院幹部会議において、経営状況を報告・分析するとともに、それらの経営状況の職員への周知を図る。 ⑥・より効率的で安定的な経営を維持するため原価計算への取組を推進する。 ⑦・機構の直近の経営状況を職員(特に病院の幹部職員、県からの新しい派遣職員や新規採用職員)に認識させるため、会議や研修、広報誌等を通じて周知徹底する。	<p>・理事会や運営会議において、毎月の月次決算により経営状況を分析し、報告を行っている。また、3病院合同幹部会議において各病院の幹部職員に定期的に報告し、周知を図っている。</p> <p>・月次決算において、費用計上を発生主義から年間平準化計上へ手法を改めることにより、適切な経営状況の把握に努めている。</p> <p>・職員研修などにおいて、病院経営や効率的な業務運営に関する取組等の科目を設け、意識の醸成を図った。</p> <p>・院内コミュニケーションシステムや職員報(トライアングル等)を通じて、理事会資料等の経営情報を全職員に向け提供し、意識醸成を図っている。</p> <p>・主にH27年度から、上記取組みを継続して行うことにより、経営情報の把握や適時適切な措置を講じられる体制の整備を図っている。</p>	<p>月次決算等により、経営状況の報告・分析を着実に進めている。 また、会議や職員報を通して経営分析を職員に周知し、理事長、副理事長自ら研修等を行うことで、職員の経営に対する意識啓発が図られている。</p>	<p>・毎月の月次決算報告において前年度実績との比較等を示すことで、経営状況を随時チェックし改善を促している。 ・各病院長が定期的に顔を合わせ各病院の状況を報告することで課題の共有や病院間連携にも役立っている。</p> <p>※原価計算への取組促進についてはNo. 80</p>																																																																																																										

第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

年度計画	No.	行動計画	業務の実績	30年度9月末実績 自己評価																																																																																											
				説明	医療政策課確認・評価																																																																																										
II 3 事務部門の専門性の向上 ①・階層や職務に応じた効果的な研修の実施、学会発表等への事務職員の参加など ②・異動方針の弾力的運用及び各部署におけるOJT (on-the-job training)をはじめとする人材の育成・研修の推進 ③・診療情報管理機能の強化	113	①・階層や職務に応じた各種研修を実施する。 ・また、事務職員の機構外研修への積極的な参加を促す。 ②・職員の適性等を考慮した弾力的な人事異動を行う。	<p>・ H30.9月末実績</p> <p>事務職員に対する研修状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>受講時期</th> <th>研修名</th> <th colspan="2">開催状況</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>新採年度</td> <td>新規採用職員研修</td> <td>5、6月</td> <td>2日間</td> </tr> <tr> <td>係長級昇任時</td> <td>新規役付職員研修</td> <td>5月</td> <td>1日間</td> </tr> <tr> <td>セクション長昇任時</td> <td>新任監督者研修</td> <td>7月</td> <td>1日間</td> </tr> <tr> <td>管理者（毎年度）</td> <td>新任管理者・監督者研修</td> <td>7月</td> <td>1日間</td> </tr> <tr> <td></td> <td>コーチング研修</td> <td>9月</td> <td>1日間</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">希望により任意参加</td> <td>コミュニケーション研修</td> <td>7月</td> <td>1日間</td> </tr> <tr> <td>ファシリテーション研修</td> <td>11月</td> <td>1日間</td> </tr> <tr> <td>マンガサポート研修</td> <td>12月</td> <td>半日</td> </tr> <tr> <td>会計基礎研修</td> <td>4月</td> <td>半日</td> </tr> <tr> <td>会計中級研修</td> <td>10月</td> <td>半日</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>未収金回収研修</td> <td>11月</td> <td>半日</td> </tr> </tbody> </table> <p>・第2期中期目標期間（H26～30） 28年度、29年度は事務職員が学会に発表者として参加し、事務職員の能力向上を図った。 また、病院職員としての自覚を促し、病院経営を学ぶため、県派遣職員及び管理・監督職員に、理事長・副理事長から直接講義をする機会を設けた。 人事異動については、職員の人材育成に主眼を置いた人事異動等を実施した。 30年度は、採用内定者研修、会計研修等を実施し、業務関連知識を高めた。職員の適正等を考慮し、適宜人事異動を行った。</p>	受講時期	研修名	開催状況		新採年度	新規採用職員研修	5、6月	2日間	係長級昇任時	新規役付職員研修	5月	1日間	セクション長昇任時	新任監督者研修	7月	1日間	管理者（毎年度）	新任管理者・監督者研修	7月	1日間		コーチング研修	9月	1日間	希望により任意参加	コミュニケーション研修	7月	1日間	ファシリテーション研修	11月	1日間	マンガサポート研修	12月	半日	会計基礎研修	4月	半日	会計中級研修	10月	半日			未収金回収研修	11月	半日	A	<p>業務の基礎部分に対する研修体系は出来た。 事務職員の更なるレベルアップが必要である。</p> <p>・事務職員に対し、学会参加・発表や関係協議会・団体が主催する研修等への参加を促している。 ・個々人の特性や経歴、資質・能力を踏まえ、さらなるキャリアアップにつながるような人事異動を行っている。</p>																																													
受講時期	研修名	開催状況																																																																																													
新採年度	新規採用職員研修	5、6月	2日間																																																																																												
係長級昇任時	新規役付職員研修	5月	1日間																																																																																												
セクション長昇任時	新任監督者研修	7月	1日間																																																																																												
管理者（毎年度）	新任管理者・監督者研修	7月	1日間																																																																																												
	コーチング研修	9月	1日間																																																																																												
希望により任意参加	コミュニケーション研修	7月	1日間																																																																																												
	ファシリテーション研修	11月	1日間																																																																																												
	マンガサポート研修	12月	半日																																																																																												
	会計基礎研修	4月	半日																																																																																												
	会計中級研修	10月	半日																																																																																												
		未収金回収研修	11月	半日																																																																																											
	114	③・診療情報管理業務に専門的に携わることができる知識・技能を有する職員を育成する。	<p>・ H30.9月末実績</p> <p>・第2期中期期間（H26～30） 診療情報管理士資格の取得支援制度を設け、資格者の確保を図っている。 がん登録業務を担当する職員に国立がん研究センター主催院内がん登録実務研修を受講させるなど、専門性の向上を図っている。</p> <p>診療情報管理士資格取得状況 (単位:人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="2">25年度</th> <th colspan="2">26年度</th> <th colspan="2">27年度</th> <th colspan="2">28年度</th> <th colspan="2">29年度</th> <th colspan="2">30年度9月末</th> </tr> <tr> <th>資格者</th> <th>専門課程修了者</th> <th>資格者</th> <th>専門課程修了者</th> <th>資格者</th> <th>専門課程修了者</th> <th>資格者</th> <th>専門課程修了者</th> <th>資格者</th> <th>専門課程修了者</th> <th>資格者</th> <th>専門課程修了者</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>3</td> <td>11</td> <td>6</td> <td>13</td> <td>6</td> <td>13</td> <td>5</td> <td>11</td> <td>6</td> <td>10</td> <td>7</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>がん</td> <td>1</td> <td></td> <td>1</td> <td></td> <td>1</td> <td></td> <td>1</td> <td></td> <td>1</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>がんがん</td> <td></td> <td>5</td> <td>2</td> <td>4</td> <td>2</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>がん</td> <td></td> <td>2</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>2</td> <td></td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>4</td> <td>18</td> <td>10</td> <td>18</td> <td>10</td> <td>18</td> <td>11</td> <td>17</td> <td>12</td> <td>17</td> <td>13</td> <td>17</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ 専門課程修了者：資格試験受験資格を有する者</p>	区分	25年度		26年度		27年度		28年度		29年度		30年度9月末		資格者	専門課程修了者	資格者	専門課程修了者	資格者	専門課程修了者	資格者	専門課程修了者	資格者	専門課程修了者	資格者	専門課程修了者	総合	3	11	6	13	6	13	5	11	6	10	7	10	がん	1		1		1		1		1	2	1	3	がんがん		5	2	4	2	4	3	4	3	4	3	4	がん		2	1	1	1	1	2	1	2	1	2		計	4	18	10	18	10	18	11	17	12	17	13	17	A	<p>診療情報管理機能の強化をするため、診療情報管理士資格の取得支援制度を活用し、必要な資格者を確保している。</p> <p>・資格取得支援として貸付制度を設けているが、H26年度以降の利用者はない。 ・経験者採用を進める中で、診療情報管理士資格取得者1名を増員した。 ・診療情報の適正な管理は診療報酬の適正算定につながることから、最新の知識を有する職員の育成は必要である。 ※資格取得への支援についてはNo. 64, 73</p>
区分	25年度		26年度		27年度		28年度		29年度		30年度9月末																																																																																				
	資格者	専門課程修了者	資格者	専門課程修了者	資格者	専門課程修了者	資格者	専門課程修了者	資格者	専門課程修了者	資格者	専門課程修了者																																																																																			
総合	3	11	6	13	6	13	5	11	6	10	7	10																																																																																			
がん	1		1		1		1		1	2	1	3																																																																																			
がんがん		5	2	4	2	4	3	4	3	4	3	4																																																																																			
がん		2	1	1	1	1	2	1	2	1	2																																																																																				
計	4	18	10	18	10	18	11	17	12	17	13	17																																																																																			

第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

年度計画	No.	行動計画	業務の実績	30年度9月末実績 自己評価		医療政策課確認・評価																																																																																																																					
				説明																																																																																																																							
	115	<p>・事務部門の業務マニュアルの作成等、業務の平準化や効率化のための取組を継続する。</p>	<p>・H30.9月末実績 ・業務の標準化を図るため、事務部門の業務マニュアル整備・活用に向けた取り組みを実施している。 ・院内コミュニケーションシステム上に整備したマニュアルを公開し、共有化している。</p> <p>・第2期中期目標期間（H26～30） ・事務部門における業務項目数に対して、マニュアル整備率を上げている。</p> <p>マニュアル整備状況 (単位:件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">所属別</th> <th colspan="3">25年度</th> <th colspan="3">26年度</th> <th colspan="3">27年度</th> </tr> <tr> <th>業務項目数</th> <th>マニュアル整備数</th> <th>整備率</th> <th>業務項目数</th> <th>マニュアル整備数</th> <th>整備率</th> <th>業務項目数</th> <th>マニュアル整備数</th> <th>整備率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>268</td> <td>259</td> <td>97%</td> <td>268</td> <td>268</td> <td>100%</td> <td>268</td> <td>268</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>こころ</td> <td>163</td> <td>151</td> <td>93%</td> <td>163</td> <td>163</td> <td>100%</td> <td>163</td> <td>163</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>252</td> <td>221</td> <td>88%</td> <td>252</td> <td>252</td> <td>100%</td> <td>252</td> <td>252</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>本部</td> <td>196</td> <td>196</td> <td>100%</td> <td>196</td> <td>196</td> <td>100%</td> <td>196</td> <td>196</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>879</td> <td>827</td> <td>94%</td> <td>879</td> <td>879</td> <td>100%</td> <td>879</td> <td>879</td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">所属別</th> <th colspan="3">29年度</th> <th colspan="3">30年9月末</th> </tr> <tr> <th>業務項目数</th> <th>マニュアル整備数</th> <th>整備率</th> <th>業務項目数</th> <th>マニュアル整備数</th> <th>整備率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>268</td> <td>268</td> <td>100%</td> <td>268</td> <td>268</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>こころ</td> <td>163</td> <td>163</td> <td>100%</td> <td>163</td> <td>163</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>252</td> <td>252</td> <td>100%</td> <td>252</td> <td>252</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>本部</td> <td>196</td> <td>196</td> <td>100%</td> <td>196</td> <td>196</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>879</td> <td>879</td> <td>100%</td> <td>879</td> <td>879</td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table>	所属別	25年度			26年度			27年度			業務項目数	マニュアル整備数	整備率	業務項目数	マニュアル整備数	整備率	業務項目数	マニュアル整備数	整備率	総合	268	259	97%	268	268	100%	268	268	100%	こころ	163	151	93%	163	163	100%	163	163	100%	こども	252	221	88%	252	252	100%	252	252	100%	本部	196	196	100%	196	196	100%	196	196	100%	合計	879	827	94%	879	879	100%	879	879	100%	所属別	29年度			30年9月末			業務項目数	マニュアル整備数	整備率	業務項目数	マニュアル整備数	整備率	総合	268	268	100%	268	268	100%	こころ	163	163	100%	163	163	100%	こども	252	252	100%	252	252	100%	本部	196	196	100%	196	196	100%	合計	879	879	100%	879	879	100%	A	<p>作成されたマニュアルを公開していることで、マニュアルの共有化が図られている。</p>	<p>・業務項目数（計：879項目）のすべてにマニュアルが整備されている。</p> <p>・事務部門におけるマニュアル整備は業務の標準化を図り事務の効率化に加えてミスの防止にもつながるもので、これらの共有化は組織全体の質の向上につながるものと考えられる。</p>
所属別	25年度				26年度			27年度																																																																																																																			
	業務項目数	マニュアル整備数	整備率	業務項目数	マニュアル整備数	整備率	業務項目数	マニュアル整備数	整備率																																																																																																																		
総合	268	259	97%	268	268	100%	268	268	100%																																																																																																																		
こころ	163	151	93%	163	163	100%	163	163	100%																																																																																																																		
こども	252	221	88%	252	252	100%	252	252	100%																																																																																																																		
本部	196	196	100%	196	196	100%	196	196	100%																																																																																																																		
合計	879	827	94%	879	879	100%	879	879	100%																																																																																																																		
所属別	29年度			30年9月末																																																																																																																							
	業務項目数	マニュアル整備数	整備率	業務項目数	マニュアル整備数	整備率																																																																																																																					
総合	268	268	100%	268	268	100%																																																																																																																					
こころ	163	163	100%	163	163	100%																																																																																																																					
こども	252	252	100%	252	252	100%																																																																																																																					
本部	196	196	100%	196	196	100%																																																																																																																					
合計	879	879	100%	879	879	100%																																																																																																																					
II 4	116	<p>・院内コミュニケーションシステムを活用するなどして、職員が経営・業務改善を常時提案できる体制を整備する。</p>	<p>・H30.9月末実績 業務改善について、院内コミュニケーションシステム等を利用して、誰もが経営・業務改善を常時提案できる体制の整備に努めた。また、他職員の改善提案を確認できるよう仕組みを整備している。</p> <p>・第2期中期目標期間（H26～30） 法人化後構築した「改革・改善推進制度」を、26年度から「改善運動推進制度」、28年度から「業務改善運動推進制度」と名称を改め、引き続き職員が改善運動に進んで取り組めるよう促した。</p> <p>業務改善運動推進制度実績件数 (単位:件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>前年増減率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>39</td> <td>49</td> <td>46</td> <td>43</td> <td>80</td> <td rowspan="5">実施集計中</td> <td></td> </tr> <tr> <td>こころ</td> <td>30</td> <td>12</td> <td>34</td> <td>36</td> <td>29</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>46</td> <td>54</td> <td>53</td> <td>71</td> <td>50</td> </tr> <tr> <td>本部</td> <td>15</td> <td>12</td> <td>11</td> <td>16</td> <td>19</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>130</td> <td>127</td> <td>144</td> <td>166</td> <td>178</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	前年増減率	総合	39	49	46	43	80	実施集計中		こころ	30	12	34	36	29	こども	46	54	53	71	50	本部	15	12	11	16	19	計	130	127	144	166	178	A	<p>業務改善について、院内コミュニケーションシステム等を利用して、誰もが経営・業務改善を常時提案できる体制の整備を図った。 H30年度は現在、実施・集計中である。</p>	<p>・各職員が日頃から業務改善運動に取り組み、組織全体で提案内容を共有できるシステムが確立されている。</p> <p>※H30の取組件数について確認 総合：72件 こころ：24件 こども：34件 本部：10件 計：140件</p> <p>(参考) H29 総合：80件 こころ：29件 こども：50件 本部：19件 計：178件 (参考：H28 166件)</p>																																																																													
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	前年増減率																																																																																																																				
総合	39	49	46	43	80	実施集計中																																																																																																																					
こころ	30	12	34	36	29																																																																																																																						
こども	46	54	53	71	50																																																																																																																						
本部	15	12	11	16	19																																																																																																																						
計	130	127	144	166	178																																																																																																																						